

河川局部改良事業二級河川奥の谷川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

加賀市

三木 A 遺跡

2009

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

三^み木^き A 遺跡

2009

石 川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター



三木 A 遺跡と周辺地



調査区俯瞰



第3次調査区全景



第2次調査 焼石土坑 (SK2009)

例 言

- 1 本書は三木A遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は加賀市三木町地内である。
- 3 調査原因は河川局部改修事業二級河川奥の谷川であり、同事業を所管する石川県土木部河川課が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は、石川県立埋蔵文化財センターが、昭和61(1986)年度、平成6(1994)年度から平成7(1995)年度にかけて現地調査を実施した。また平成18(2006)年度から平成20(2008)年度にかけて、財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて出土品整理、報告書刊行を実施した。
- 5 調査に係る費用は石川県土木部河川課が負担した。
- 6 現地調査は昭和61(1986)年度及び平成6年度、平成7年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者(職名は当時)は下記のとおりである。

(1)第1次調査

期 間 昭和61年5月15日～昭和61年9月24日
面 積 700㎡
担 当 課 調査班(農林以外の県関係担当)
担 当 者 田嶋明人(調査研究専門員)、中島俊一(主査)

(2)第2次調査

期 間 平成6年7月1日～平成6年11月7日
面 積 1,150㎡
担 当 課 調査第一課
担 当 者 木立雅朗(主事)、端 猛(主事)

(3)第3次調査

期 間 平成7年7月31日～平成7年9月13日
面 積 400㎡
担 当 課 調査第一課
担 当 者 垣内光次郎(主任主事)、端 猛(主事)

- 7 出土品整理は平成18年度および平成19(2007)年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書刊行は平成20年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。編集・執筆は垣内光次郎(調査部特定事業調査グループ グループリーダー)が行い、端 猛(調査部特定事業調査グループ専門員)、加藤克郎(調査部特定事業調査グループ主任主事)が補助した。
- 9 調査には下記の機関・個人の協力を得た。(五十音順、敬称略)
石川県土木部河川課、石川県南加賀土木総合事務所、加賀市教育委員会、金三津英則、合田幸美、酒井中、田畑直彦、中村徹也、乗安和二三、豆谷和之、吉田広
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。

- (1)方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
- (2)水平基準は海拔高であり、T. P. (東京湾平均海面標高)による。
- (3)出土遺物番号は挿図、観察表、写真とで対応する。

目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 遺跡発見の経緯	1
第2節 現地調査の経緯と経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 遺 構	9
第4章 遺 物	37

挿図目次

第 1 図	調査区位置図	3	第 34 図	第 1 次調査出土遺物実測図 2	40
第 2 図	三木 A 遺跡周辺航空写真	4	第 35 図	第 1 次調査出土遺物実測図 3	41
第 3 図	三木 A 遺跡の位置	5	第 36 図	第 1 次調査出土遺物実測図 4	42
第 4 図	三木 A 遺跡と周辺の遺跡	7	第 37 図	第 1 次調査出土遺物実測図 5	43
第 5 図	第 2・3 次調査グリッド配置図	10	第 38 図	第 1 次調査出土遺物実測図 6	44
第 6 図	基本層序	10	第 39 図	第 1 次調査出土遺物実測図 7	45
第 7 図	第 2・3 次調査遺構面範囲図	11	第 40 図	第 1 次調査出土遺物実測図 8	46
第 8 図	第 2 次調査遺構配置・実測断面図 1	12	第 41 図	第 1 次調査出土遺物実測図 9	47
第 9 図	第 2 次調査遺構配置・実測断面図 2	13	第 42 図	第 1 次調査出土遺物実測図 10	48
第 10 図	第 2 次調査 4 区遺構図 1	14	第 43 図	第 1 次調査出土遺物実測図 11	49
第 11 図	第 2 次調査 4 区遺構図 2	15	第 44 図	第 1 次調査出土遺物実測図 12	50
第 12 図	第 2 次調査 1・2 区遺構図 1	16	第 45 図	第 2 次調査出土遺物実測図 1	51
第 13 図	第 2 次調査 1・2 区遺構図 2	17	第 46 図	第 2 次調査出土遺物実測図 2	52
第 14 図	第 2 次調査 1・2 区遺構図 3	18	第 47 図	第 2 次調査出土遺物実測図 3	53
第 15 図	第 2 次調査 1・2 区遺構図 4	19	第 48 図	第 2 次調査出土遺物実測図 4	54
第 16 図	第 2 次調査 1・2 区、第 3 次調査遺構図	20	第 49 図	第 2 次調査出土遺物実測図 5	55
第 17 図	第 2 次調査平面図 1	21	第 50 図	第 2 次調査出土遺物実測図 6	56
第 18 図	第 2 次調査平面図 2	22	第 51 図	第 2 次調査出土遺物実測図 7	57
第 19 図	第 2 次調査平面図 3	23	第 52 図	第 2 次調査出土遺物実測図 8	58
第 20 図	第 2 次調査平面図 4	24	第 53 図	第 2 次調査出土遺物実測図 9	59
第 21 図	第 2 次調査平面図 5	25	第 54 図	第 2 次調査出土遺物実測図 10	60
第 22 図	第 2 次調査平面図 6	26	第 55 図	第 2 次調査出土遺物実測図 11	61
第 23 図	第 2 次調査平面図 7	27	第 56 図	第 2 次調査出土遺物実測図 12	62
第 24 図	第 2 次調査平面図 8	28	第 57 図	第 2 次調査出土遺物実測図 13	63
第 25 図	第 2 次調査平面図 9	29	第 58 図	第 2 次調査出土遺物実測図 14	64
第 26 図	第 2 次調査平面図 10	30	第 59 図	第 2 次調査出土遺物実測図 15	65
第 27 図	第 2 次調査平面図 11	31	第 60 図	第 2 次調査出土遺物実測図 16	66
第 28 図	第 2 次調査平面図 12	32	第 61 図	第 2 次調査出土遺物実測図 17	67
第 29 図	第 2 次調査平面図 13	33	第 62 図	第 3 次調査出土遺物実測図 1	68
第 30 図	第 2 次調査平面図 14	34	第 63 図	第 3 次調査出土遺物実測図 2	69
第 31 図	第 3 次調査平面図 1	35	第 64 図	第 3 次調査出土遺物実測図 3	70
第 32 図	第 3 次調査平面図 2	36	第 65 図	第 3 次調査出土遺物実測図 4	71
第 33 図	第 1 次調査出土遺物実測図 1	39	第 66 図	第 3 次調査出土遺物実測図 4	72

表 目 次

第 1 表	土器・陶磁器観察表 1	73	第 7 表	土器・陶磁器観察表 7	79
第 2 表	土器・陶磁器観察表 2	74	第 8 表	土器・陶磁器観察表 8	80
第 3 表	土器・陶磁器観察表 3	75	第 9 表	土器・陶磁器観察表 9	81
第 4 表	土器・陶磁器観察表 4	76	第 10 表	石器観察表	82
第 5 表	土器・陶磁器観察表 5	77	第 11 表	金属製品観察表	82
第 6 表	土器・陶磁器観察表 6	78			

図版目次

巻頭図版 1	三木 A 遺跡と周辺地／調査区俯瞰	図版 17	1・2 区 (2 面目) 遺構検出の様子／SD2028 (D43 区) 土器出土状況
巻頭図版 2	第 3 次調査区全景／第 2 次調査焼石土坑 (SK 2009)	図版 18	SD2022 (E41 区) 土器出土状況／SD2022 調査状況
図版 1	遺跡の垂直空中写真	図版 19	1・2 区 (2 面目) 完掘状況
図版 2	遺跡近景／三木の集落より調査区を望む	図版 20	1・2 区 (3 面目) 完掘状況／SD2020 (C46 区) 完掘状況
図版 3	調査着手前／表土掘削の様子	図版 21	第 3 次調査完掘状況
図版 4	第 1 次調査完掘状況／遺物出土状況	図版 22	第 3 次調査完掘状況／SD2204 完掘状況
図版 5	第 1 次調査完掘状況	図版 23	第 1 次調査出土遺物 1
図版 6	第 2 次調査 4 区完掘状況	図版 24	第 1 次調査出土遺物 2
図版 7	4 区北端 (F 1・2 区) SX2401, SX2402 土器細片検出状況／4 区北壁土層断面	図版 25	第 1 次調査出土遺物 3
図版 8	4 区遺構検出状況／4 区調査の様子	図版 26	第 1 次調査出土遺物 4
図版 9	4 区完掘状況	図版 27	第 2 次調査出土遺物 1
図版 10	4 区完掘状況／SK2403 (H12 区) 土層断面	図版 28	第 2 次調査出土遺物 2
図版 11	4 区土層断面／4 区 SD2405 周辺土層断面	図版 29	第 2 次調査出土遺物 3
図版 12	3 区調査状況／3 区遺構検出状況	図版 30	第 2 次調査出土遺物 4
図版 13	第 2 次調査 1・2 区完掘状況	図版 31	第 2 次調査出土遺物 5
図版 14	1・2 区 (1 面目) 遺構検出状況	図版 32	第 3 次調査出土遺物
図版 15	1・2 区 (1 面目) 完掘状況		
図版 16	1・2 区 (1 面目) 完掘状況 (D 45 区周辺)／SK2002 (C 45 区)		

第1章 調査の経緯と経過

第1節 遺跡発見の経緯

本遺跡の発掘調査は、三木町地内を流れる奥の谷川局部改良工事に伴うものである。奥の谷川は、二級河川大聖寺川の下流域に位置する支流で、加賀市奥谷町地内の福井県との県境山間部に源を發し、橋町から三木町地内を北方へ流下する延長約4km、流域面積約5.4km²の小河川である。三木町地内で大聖寺川へ合流し、塩屋町地内で日本海へ注ぎ、福井県と境界をなしている。

本改良工事では、4m程度の川幅であったものを約10mまでに拡幅・掘削する計画であったことから、昭和60年度には、石川県大聖寺土木事務所（当時）から石川県立埋蔵文化財センター（当時）に対して分布調査実施の依頼があり、同年10月から昭和61年3月にかけて、三木町地内の奥の谷川右岸部分を踏査及び重機による試掘で分布調査を実施した。その結果、縄文時代中期から中世までの遺跡を確認したことから、全体改修延長1050mのうち、約350mの築堤範囲については発掘調査が必要となった。この右岸部分に関しては、昭和61年度に発掘調査を実施した（第1次調査）。

昭和63年度には、奥の谷川左岸の丘陵裾部分の分布調査実施の依頼があり、7月20日、市道の雁田橋から上流延長160m（約3,600m²）について試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。12月23日には、7月に実施した箇所より更に上流部（約10,000m²）で分布調査を実施した結果、多量の土器片の散布が確認され、埋蔵文化財包蔵地であることが判明した。なお、立木や下草が繁茂していたため踏査不能部分については、下草等伐採後に分布調査を再度行うことになった。

平成3年6月、大聖寺土木事務所より県立埋文センターに分布調査の依頼があり、6月5日には重機での試掘調査、9月19日は人力による試掘調査を実施し、左岸部分の事業用地内では約1,000m²の区域において発掘調査が必要であることを確認した。この左岸部分に関しては、平成6・7年度に発掘調査を実施した（第2・3次調査）。

第2節 現地調査の経緯と経過

1. 昭和61（1986）年度 第1次調査

昭和61年5月15日付けで、大聖寺土木事務所から県立埋文センターに対して、築堤部分約700m²の調査依頼があり、奥の谷川右岸調査区の発掘調査を実施した。5月15日に現地調査を着手し、丘陵の裾部に位置した低湿地において、縄文時代から中世にかけての土坑、溝状遺構などを確認した。9月24日に現地作業を終了した。

2. 平成6（1994）年度 第2次調査

平成6年度は第2次調査に当たり、奥の谷川左岸約1,150m²が調査対象であった。5月10日付けで大聖寺土木事務所から県立埋文センターに調査依頼があり、7月1日から現地調査に着手した。しかし、調査開始後になり、遺跡の範囲が下流側（北側）に広がることが確認された。また、遺構面も一部複数面あることが確認された。さらに、当初の対象範囲の内350m²相当（3区）を精査したところ、遺構・遺物がほとんど確認されなかったため遺跡の範囲からは除外することとした。協議の結果、平成6年度は下流側に延びた約350m²（4区）、及び当初調査範囲のうち約800m²（1、2区）の第1面、

第2面及び第3面の一部の調査を終了させ、第3面の残り以下の調査は次年度以降に実施することになった。

4区では10～12世紀代の製塩土器細片が大量に出土している。溝、土坑、ピットなどを検出しているが、灰跡などの煎熬作業に関する遺構は今回の調査範囲からは確認していない。1、2区では、丘陵の小谷部があることを確認し、その谷を中心として第1面（古代～中世）、第2面（古墳時代）、第3面（弥生時代）の3つの遺構面を確認し、最下層に縄文土器を含む層を確認した。しかし、縄文土器を含む層が厚く（2m以上）、縄文時代の遺構面の有無については確認できなかった。

なお、10月30日に主に三木町住民を対象とした現地説明会を行い、50人以上の参加があった。この説明会を含め発掘調査全般において地元三木町から多大な協力を得ている。記して感謝したい。現地調査は11月7日に終了した。

3. 平成7（1995）年度 第3次調査

平成7年度は第3次調査に当たる。4月27日付けで大型寺土木事務所から県立埋文センターに1、2区約400㎡の調査依頼があった。現地調査は7月31日に着手し、前年度調査で未了であった弥生時代以前の遺構面（第3面）の調査を実施した。この遺構面の下部は水面下の高さであり、増水時には水没するおそれがあることから、関係機関との協議により、現地調査は鋼矢板で調査区を締め切った上で、夏の渇水期に実施した。

調査では、溝、土坑、柱穴等の遺構を検出し、縄文土器、弥生土器等が出土している。遺構面は丘陵斜面に沿うように傾斜し、溝は斜面に沿ったものと直交するものが存在する。柱根の遺存するものも含め複数の柱穴を確認している。下層部分からは縄文土器や石器などが出土しているが、明確な遺構面は存在せず、丘陵上からの流れ込みの遺物であると考えられる。

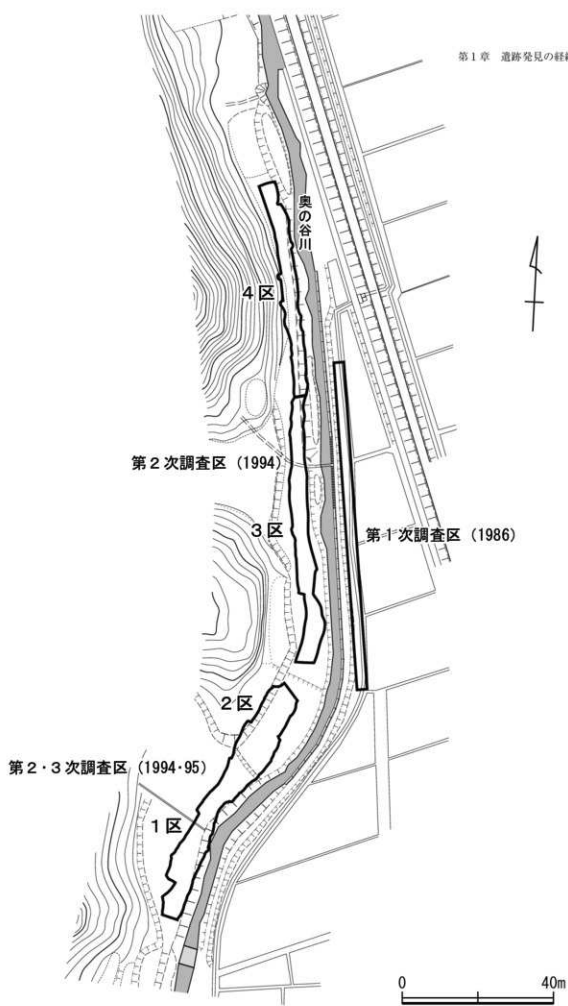
現地調査は9月13日に終了した。



SK2009 調査の様子



現地説明会の様子



第1図 調査区位置図



第2図 三木A奥州周辺航空写真 (昭和22年撮影)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

本書で報告する三木A遺跡は、加賀市三木町地内に所在する。

加賀市は、石川県の南西端に位置する南加賀地域の中核都市である。西側は日本海に面しており、北側は小松市、南側は福井県あわら市、坂井市、勝山市と接する県境に立地する自治体である。市域の面積は306km²、人口は74,551人である（平成21年3月1日現在）。平成17年10月に旧来からの加賀市と南東に隣接する江沼郡山中町と新設合併し市域を拡大した。

市域南東部は丘陵地帯であり、市内最高峰である大日山（標高1,368m）が市域南東端に位置する。ここを水源として、動橋川は市域東部を流れ柴山潟へ注ぎ、大聖寺川は市域西部を北流し、平野部で西へ向きを変え日本海へ注ぐ。この両河川の下流域である市域北西部は、平坦な江沼盆地と柴山潟を含む低地が形成されている。また、河口に潟湖が形成された地形は、日本海沿岸に広く見いだされるが、加賀市周辺でも、北東側に加賀三湖の一つである柴山潟があり、本遺跡の西方約3kmには北潟湖（福井県）がある。また加賀市域は県内屈指の温泉地であり、片山津温泉、山代温泉、山中温泉といった全国的にも著名な温泉地がある。

三木町は、大聖寺川とその支流奥の谷川合流部に位置する集落である。奥の谷川は、奥谷町地内の福井県との県境山間部を水源とし、橋町を経て三木町地内北西部で大聖寺川と合流する延長約4km、流域面積5.4km²の小河川である。周辺は奥の谷川が形成した細長い狭小な小平野となっている。

三木町は、近世には右村と称し、寛永16年（1639）以降は加賀藩の支藩である大聖寺藩領であった。明治4年（1871）7月廃藩置県により大聖寺県が成立。同年11月に金沢県に編入され、翌5年には石川県と改称され、右村は石川県江沼郡管下となる。明治22年（1889）町村制施行により、江沼郡内の右・橋・奥谷・永井・熊坂の5ヵ村が合併し三木村が成立。昭和33年（1958）には大聖寺町、山代町、片山津町、橋立町、動橋町、三木村、三谷村、南郷村、塩屋村の5町4村が合併して加賀市が成立した。旧三木村のうち大字右は三木町と改称され、残余の大字は同市の町名に継承されている。

さて当地域は、古代以来交通の要衝である。古代の北陸道経路については不明な点が多いが、『延喜式』記載の朝倉駅は、大聖寺川河口付近にあったと推定され、三木町南東の橋町付近とも推定されており（『大日本地名辞書』）、三木町周辺を通過していた可能性が指摘できる。中世には加越国境を通過する経路は2ルートあり、1つは越前吉崎から現在の橋町、三木町地内を通過していたことが知られる。戦国時代初頭の文明18年（1486）聖護院道興が橋宿に逗留し、「旅立つもさつき後の身也けり我に宿かせ橋のさと」と和歌を詠んでいる（『題国雑記』）。また延徳3年（1491）には、室町幕府の管領であった細川政元の一行が、越後下向の途次に橋を通過し、「右」、「三ツ村」を経て荻生へ向かったとの記録が残る（『為広御越後下向日記』）。これらの史料から、遅くとも室町時代中期には現在の橋町・三木町地内を経路とする北陸道が成立していたことがわかる。近世には、越前国細呂木から加賀国に入り、現在の橋町、三木町地内を経て笠取山の麓をたどって大聖寺に至る経路であった。



第3図 三木A遺跡の位置

また三木町の北側を西流する大聖寺川は古くから水上交通路として利用されており、大聖寺川と奥の谷川との合流地点付近には「フナツキバ」という小字名も遺存している。

現代でも、集落北側の大聖寺川沿いには国道305号線（吉崎道）、集落南東側には北陸自動車道加賀インターチェンジが設置されており、また東隣の熊坂町地内を国道8号線（北陸道）、JR北陸本線が通過し、今もなお交通の大動脈である。

第2節 歴史的環境

縄文時代 加賀市域での縄文時代の遺跡は、本遺跡北東約10kmに位置する早期の押型文土器片が出土した伊切新保遺跡などが知られる。中期では上山田式や大杉谷式土器の良好な一括資料が出土している藤ノ木遺跡が東北約4kmにある。後・晩期では、東約10kmに県内屈指の大集落遺跡である横北遺跡が知られ、異形注口土器など特殊な資料が多く出土している。

本遺跡では早期から晩期までの土器が出土しているが、本遺跡周辺に目を向けると、西方約2.8km、大聖寺川河口の鹿島森遺跡（06003）では、中期～後期の土器が採取されている。南西約2kmの水井遺跡（06004）からは石斧が単独出土している。また三木だいまん遺跡（06016）では、石鏃・磨製石斧と、後期～晩期にかけての独鈷石が出土している。

弥生時代 本遺跡の北東約13kmの柴山出村遺跡が中期初頭の標式遺跡として知られ、後期では、北東約8.5kmの八日市川の自然堤防上に営まれた猫橋遺跡が著名である。多量の木製品が出土しており、猫橋式土器の標式遺跡である。炭化米の出土や立地条件から付近に水田遺構が存在することが推定されている。これらはいずれも市域北東の低地部の遺跡である。

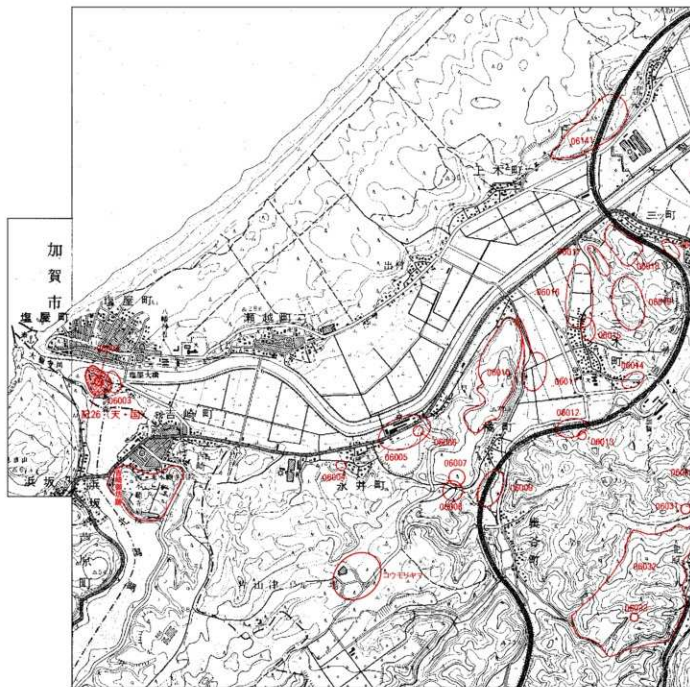
本遺跡では、弥生時代前期～終末期の遺物が出土しているが、本遺跡周辺において弥生時代とされる遺跡は比較的少なく、鹿島森遺跡で発見された土器の事例、また三木だいまん遺跡出土の中期～終末期の土器が知られる。

古墳時代 江沼盆地には複数の古墳群が確認されるが、大聖寺川水系では、南郷・黒瀬古墳群、山代古墳群、三谷古墳群、三木・三ツ古墳群が認められる。三木・三ツ地域の古墳は、大聖寺川支流である奥の谷川等により形成された狭域の沖積地を基盤とした諸集団墓域と推定され、小規模な古墳群が点在して分布している。三木集落東側の笠取山北西の尾根筋には三木古墳群（06017）があり、円墳3基、方墳1基確認されている。三木1号墳（上皇古墳）からは須恵器や金環が出土しており、古墳時代後期と推定されている。笠取山東方の尾根筋には三ツ町A古墳群（円墳3基）のほか、詳細は未確認であるが円墳・方墳が3～4基程度あると推定される三ツ町B古墳群（06020）がある。また当遺跡南東約400mには、円墳と推定される石城の尾古墳（06013）が確認される。

集落遺跡では、三木B遺跡（06012）で隅円方形竪穴建物を確認されており、5世紀前半に比定されている。また三木E遺跡（06015）では古墳時代の遺物の散布が確認できる。

奈良・平安時代 加賀市域は古代寺院の集中分布する地域として知られており、白鳳寺院では津波倉麿寺跡、保賀麿寺跡、弓波麿寺跡、宮地麿寺跡が知られ、奈良・平安時代では、高尾麿寺跡が知られるが、本遺跡周辺では未確認である。ところで加賀国は、平安時代前期の弘仁14年（823）2月に、越前国から加賀郡・江沼郡を分割・立国した地域である。これは律令体制下では最も新しい国で、同年6月には加賀郡の南半分を石川郡、江沼郡の北半分を能美郡としている。本遺跡は加賀国江沼郡に属し、『和名類聚抄』記載の「長江郷」（遺称地は永井町）に含まれると推定されている。

本遺跡周辺の古代遺跡としては、東約500mの三木C遺跡（06014）、南600mの橋遺跡（06009）、



第4図 三木A遺跡と周辺の遺跡 (S = 1/25,000)

遺跡番号	名称	種別	時代	遺跡番号	名称	種別	時代
06003	鹿島森遺跡	散布地	縄文～古墳	06014	三木C遺跡	散布地	奈良・平安
06004	永井遺跡	散布地	縄文	06015	三木E遺跡	散布地	古墳
06005	永井新遺跡	散布地	奈良・平安	06016	三木だいもん遺跡	散布地	縄文・弥生 平安～南北朝
06006	永井イスズ焼窯跡	窯跡	安土桃山	06017	三木古墳群	古墳	古墳
06007	銭亀家跡	屋敷跡	室町～江戸	06018	三ツ堡跡	堡跡	不詳
06008	橋の関跡	関跡	江戸	06019	勝林院跡	寺院跡	中世
06009	橋遺跡	散布地	奈良・平安	06020	三ツ町B古墳群	古墳	古墳
06010	小森堡跡	城跡	不詳	06031	庄司谷窯跡	窯跡	近代
06011	三木A遺跡	集落跡	縄文～江戸	06032	熊坂北原城跡	城跡	不詳
06012	三木B遺跡	集落跡	古墳前期	06033	熊坂西子谷首塚	塚	不詳
06013	石城の尾古墳	古墳	古墳				

南東約700mの水井新遺跡(06005)で奈良・平安時代の土師器・須恵器の散布を確認している。

鎌倉～戦国時代 本遺跡の北東約400mには三木だいもん遺跡がある。発掘調査では、掘立柱建物跡90棟、櫓42列、溝51条、井戸4基が検出され、その最盛期は12世紀後半から13世紀後半で、大溝で南北に区画された館跡が確認されている。出土遺物は、中国製の白磁、青磁の碗皿類、常滑焼の甕、加賀焼・越前焼・珠洲焼の壺・甕や播り鉢、漆椀、曲物、下駄、銅銭、鉄鍋など日常生活用具の他、礫石経のような信仰に関わる遺物も出土している。これら調査成果から寄進地系荘園の一つ「右荘」を直接管理経営した在地領主の居館と推定されている。

勝林院跡(06019)は、笠取山西麓にあり、「カンノドウ」「テラタニ」「ビシャモンドウ」「アマイケ」等の小字名が伝承されている。もと真言宗であったが、後に浄土真宗に改宗され、現在三木町集落に勝林寺として遺存する。

また本遺跡の西方約2.4kmには、三方を北潟湖に囲まれた要害の地に吉崎御坊跡(国史跡：福井県あわら市)がある。文明3～7年(1471～1475)に蓮如が滞在し、浄土真宗北陸布教の拠点であった場所である。蓮如の吉崎退去後は和田本覚寺が留守職を勤めていたが、永正3年(1506)越前朝倉氏により破却されている。加賀・越前地域の中世真宗史を考える上で非常に重要な遺跡である。水井イスズ焼窯跡(06006)は、磁器成立直前期の陶器を焼成した窯跡とも推定されるが、詳細は不明である。

小森堡跡(06010)は、遺跡地図では本遺跡西側丘陵上に位置するが、踏査では遺構は確認されず、南西約1kmの水井町地内通称コウモリヤマで土塁等が確認されている。また三ツ堡跡(06018)では主郭部分で切岸が明瞭に遺存している。熊坂北原城跡(06032)では、根根に沿うように土塁状高まりと堀状遺構が確認できるが、地元では北原と奥谷町との地境といわれており、城郭遺構であるか検討が必要である。熊坂西子谷首塚(06033)は「加賀江沼古城跡図」に記載される塚と推定されるが、詳細は不明である。

江戸時代以降 慶長5年(1600)前田利長の攻撃により小早川秀秋の老臣山口宗永が拠る大聖寺城は落ち、この一戦を通じて前田家は江沼郡を領域とした。寛永16年(1639)、加賀藩3代藩主前田利常は小松に隠居し、三男利治に大聖寺藩7万石を分封して大聖寺藩が成立し、以後14代明治維新まで存続している。さて銭亀家跡(06007)は近世の橋宿に関連した遺跡である。休息を中心とした茶屋が数軒所在し、その中でも銭亀家は江戸時代には茶屋と共に旅籠も営み、宿場役人を勤めていたという。現地には屋敷地であったと推定される平坦面が複数確認できるが、現在では杉林となっている。橋の関跡(06008)は、吉崎・熊坂・風谷と共に大聖寺藩が設置した番所跡である。明治天皇の北陸行幸を翌年に控えた明治10年(1877)に大聖寺町から熊坂を経て牛ノ谷(福井県あわら市)に通じる新道が開通し、同13年には本道となり、旧街道は廃止され、昭和10年代には橋茶屋も姿を消した。

本遺跡の南東約1.3kmに位置する庄司谷窯跡(06031)は、近代の煉瓦を焼成した窯跡で、明治30年(1897)に開通した北陸本線福井・小松間の鉄道工事に伴う遺跡と推定されている。

参考文献

- 「加賀市三木町・橋町調査報告」(『郷土』7) 大聖寺高等学校郷土研究部 1969
 「加賀市史通史上巻」加賀市 1978
 田嶋明人・湯沢修平・梶幸夫「江沼古墳群分布調査報告」(『石川考古学研究会誌』21) 石川考古学研究会 1978
 「三木だいもん遺跡」加賀市教育委員会 1987
 「熊坂庄司谷窯跡」加賀市教育委員会 1993
 「歴史の道調査報告書1 北陸道」石川県教育委員会 1994
 「石川県中世城館跡調査報告書Ⅲ(加賀Ⅱ)」石川県教育委員会 2006

第3章 遺 構

調査の概要 第2次及び第3次調査では国土座標（日本測地系）に基づく4mグリッドを組み、諸作業にあたった。グリッドは北西隅を起点として、西から東方向へアルファベットを、北から南方向へアラビア数字を4m間隔で振りわけて設定した。遺構の掘削、遺物の取り上げに際してはこのグリッドの北西隅の杭を基に「F-41区」「G-4区」などと呼称した。調査区北端G-2杭が $X = +32854$ 、 $Y = -79336$ 、南端B-50杭が $X = +32662$ 、 $Y = -79356$ である。なお、第2次調査着手時には調査区を大きく4つに分け南から1区、2区、3区と呼称した。前述のとおり着手後さらに北へ遺跡の広がり確認されたことから新たに4区とし調査した。

第2次調査1・2区では、調査当初より複数の堆積層が見られ（第6図）、トレンチ等により3面以上の面が確認された。それぞれ弥生時代（4層上面）、古墳時代（3層上面）、古代（2層上面）の生活面であると認識し層位発掘を試みた。ただし、出土遺物を精査した結果、この層位の時期差が平面の広がりを持っているとまでは言い切れない様である。当初トレンチで確認した地点（土層断面1-2）周辺での遺物の出土状況からは概ね層位で時期差がうかがえるが、別地点では様相が違っていた。

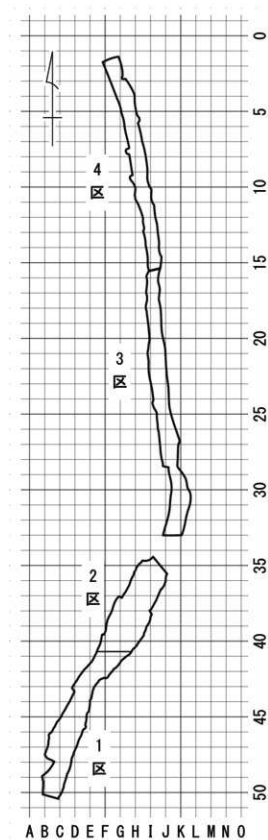
丘陵裾にある本遺跡では、それぞれの面は丘陵の傾斜に沿って傾いており、生活面として適しているとは言えない。SD2022のように大量の土器を伴う遺構もあり、ある時期には面として存在していたようだが前述のようにそれが広がっていない。多種多様な出土遺物が物語る様に、堆積土中の遺物については丘陵上部からの流れ込みを考えるのが妥当であり、堆積層に時期差はあるものの覆土中の遺物が必ずしもその層の時期を示してはいないようである。

この他、第2次調査4区の遺構は溝、ピットともに不定形なものが多く、岩盤のひびに入り込んだ木根等の痕跡を検出した可能性もある。遺構覆土に木根が入り込んだことも想定できるが、現地ではその区別ができなかった。

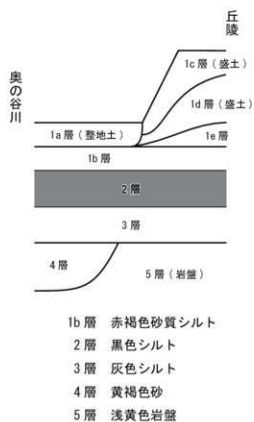
遺構 第2次調査4区では、不定形な土坑状の遺構（SX2401、SX2402）やその周辺から製塩土器細片が大量に出土している。また、第1次調査でも製塩土器が出土しているが、いずれの調査でも焼土等の製塩炉の明確な痕跡は確認されていない。特に、SX2401やSX2402の製塩土器の出土状況は覆土の一部としてはほぼ均質に堆積しているように見え、製塩土器片を含んだ土が2次堆積したものと考えられる。

SK2009（第16図）は底付近に5～20cm大の礫が敷き詰められた直径1m、深さ30cm程度の土坑である。第2次調査2区の砂質の地山面で検出したため3面目（4層上面）の遺構として記録したが土師質土器細片が少量出土するのみで時期の特定には至っていない。礫は被熱しており、礫とともに黒色炭化物層が検出されている。付近の溝（SD2035）から製塩土器が出土しており、それに伴う可能性がある^(註)。

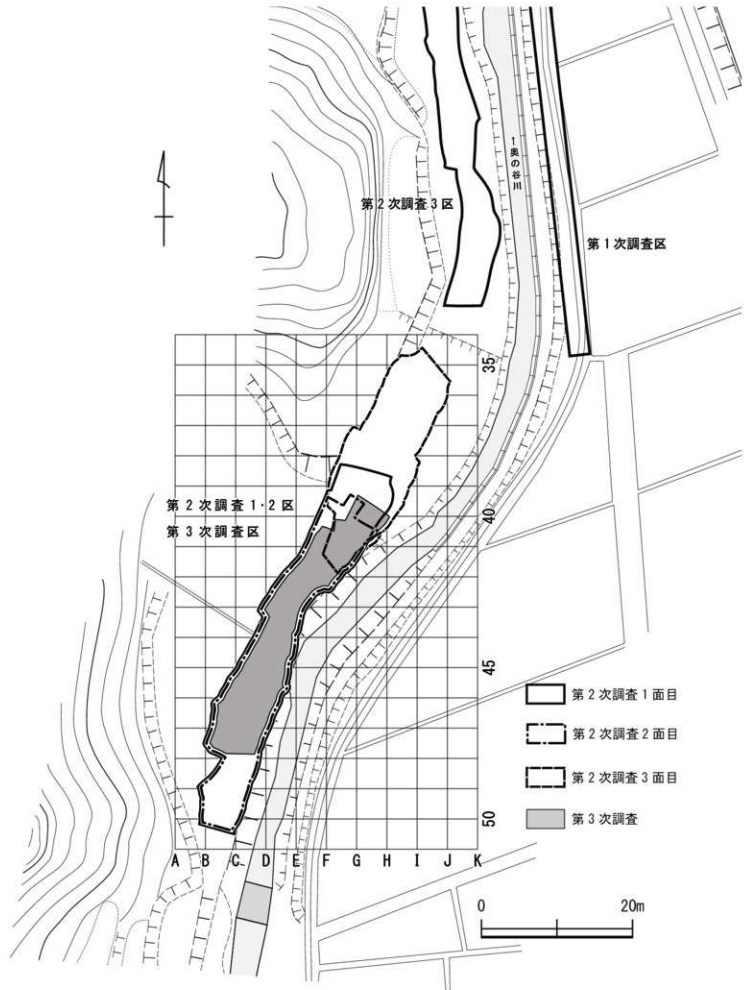
註 遺跡は、現在の海岸線から最短距離でも2km、大型寺川河口から3km以上離れているが、標高は3m前後、現在の奥の谷川河床は海拔以下である。また、夏の海水期のため奥の谷川の水位が下がり、川が逆流するのを調査中何度か目にした。明確な製塩炉の痕跡は確認しておらず、周辺の地形から奥の谷川はある時期に丘陵裾に移設されたものと考えるのが妥当であり、当時、遺跡周辺に河川があったかは不明であるが、周辺まで（製塩できる濃度の）海水が入り込んでいたと想像するに難くない。であれば、三木周辺は、現在、陸の交通の要地であるが、かつては水の交通の要地であったといえるであろう。



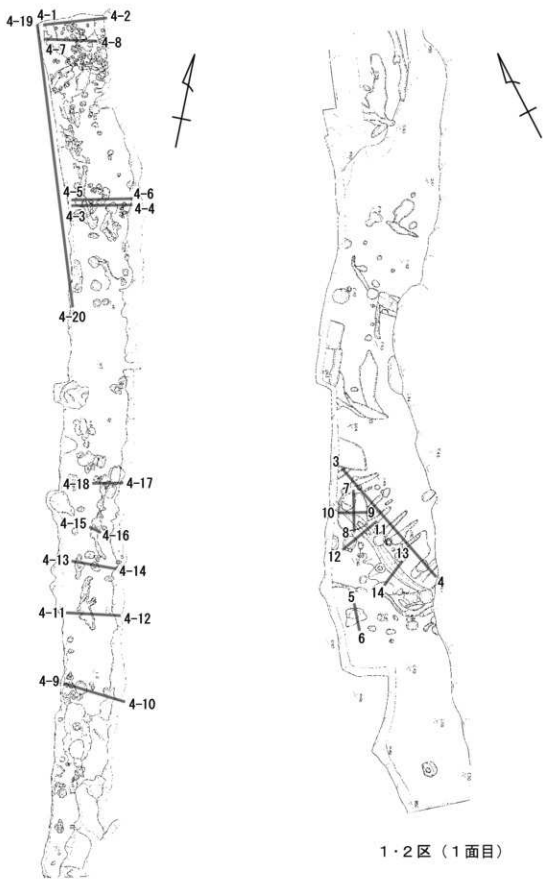
第5図 第2・3次調査グリッド配置図 (S = 1/1,000)



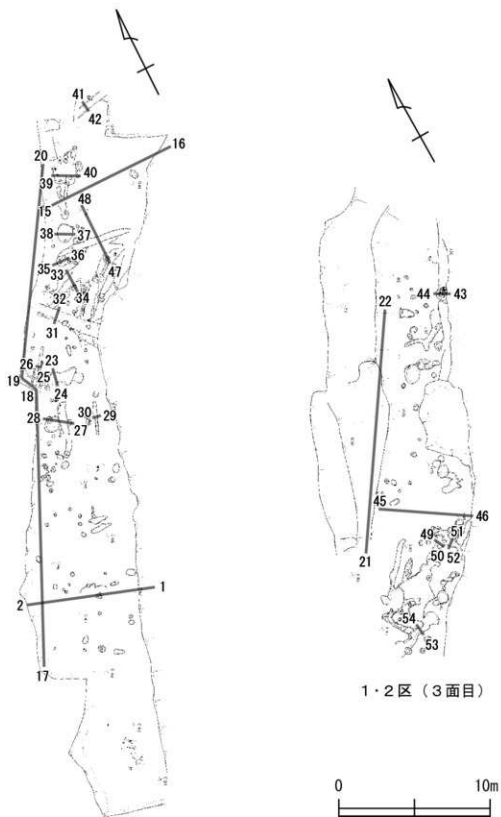
第6図 基本層序



第7図 第2・3次調査遺構面範囲図 (S=1/500)



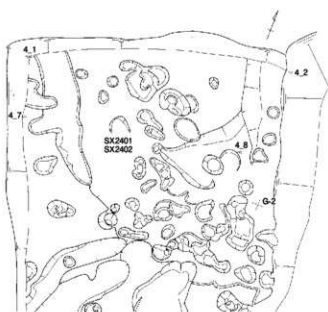
第8图 第2次調査遺構配置・実測断面位置図1 (S=1/250)



1・2区（2面目）

1・2区（3面目）

第9図 第2次調査遺構配置・実測断面位置図2（S=1/250）



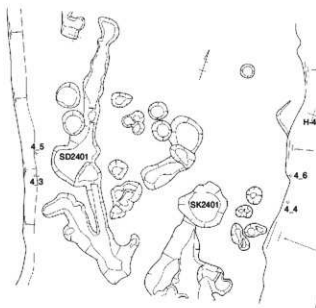
4区北壁土層断面 (4-1-4-2)

1. 褐色砂 75YR4/4 (ややしまりなし。砂の間に腐植土が入る。)
2. 暗褐色砂 75YR3/4 (しまりあり。)
3. 灰褐色砂 75YR4/2 (固くしまる。土層が集中して入る。SK2401。)
4. 褐色砂 75YR4/4 (固くしまる。土層が集中して入る。SK2402 上位。)
5. 高灰黄褐色砂 10YR4/2 (固くしまる。部分的に土層が集中して入る。SK2402 下位。)
6. 黄褐色砂 25Y5/3 (岩盤との界面層。土層断片少量含む。)
7. に近い黄褐色砂 10YR5/3 (土層断片少量含む。SK2403 につながる。)
8. 黄褐色砂 75YR7/8 (岩盤上にたまる砂層。)



SK2401、SK2402 (4-7-4-8)

1. 黒褐色砂 10YR3/1 (土層断片なし。腐植断片出土。P2406。)
2. 黒褐色砂 10YR2/2 (1層よりやや褐色がかる。土層断片多く含む。SK2401 及び SK2402。)
3. 高灰黄褐色砂 10YR4/2 (地山のシルトの層だが、ごく少量の土層を含む。)
4. 濁オリブ灰色砂 25GY/5/1 (淡黄色岩が少し混ざる。)
5. 高黄褐色砂 10YR7/8 (地山、岩盤。)
6. に近い黄褐色砂 10YR6/4 (地山、砂。)



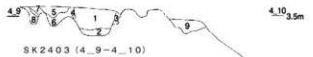
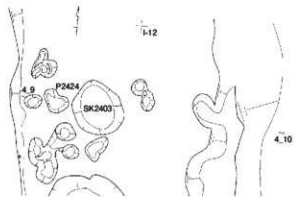
4区 (G-4区) 土層断面 (4-5-4-6)

1. 高暗褐色砂 75YR3/3 (淡黄色地山ブロック含む。土層多く含む。)
2. 高黄褐色砂 25Y5/3 (5~10cm 大の淡黄色地山ブロックの間に黒褐色砂が入り込む。風化した岩盤層上面。)
3. 濁に近い黄褐色砂 25Y6/3 (淡黄色地山ブロックを多く含む。岩盤上に乗った砂層。地山。)
4. 濁黄褐色砂 25Y4/1 (地山ブロック混。)
5. 高灰黄褐色砂 10YR5/2 (地山ブロック混。)
6. 黒褐色砂 10YR2/1 (地山ブロック混。炭化物が入る。)
7. 高灰黄褐色砂 25Y6/2 (地山ブロック混。)
8. 高暗黄褐色砂 25Y4/2



4区 (G-4区) 土層断面 (4-3-4-4)

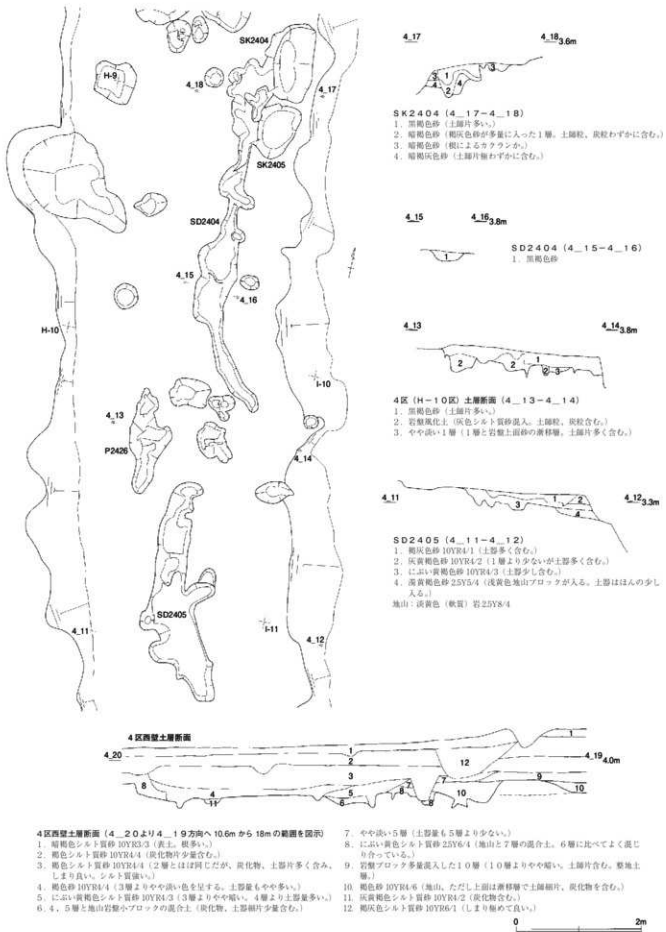
1. 濁灰色砂 5Y5/1
2. 高灰黄色砂 25Y6/2 (鉄分沈着。)
3. 高暗褐色砂 10YR4/1 (灰黄褐色砂と褐色砂がブロック状に混。)
4. 濁オリブ砂 5Y5/2 (固くしまる。)
5. 高暗褐色砂 75YR4/4 (淡黄色地山ブロック含む。ヤシントに近い。)
6. 高暗褐色砂 75YR3/3 (淡黄色地山ブロック含む。土層多く含む。)
7. 高黄褐色砂 25Y5/3 (5~10cm 大の淡黄色地山ブロックの間に黒褐色砂が入り込む。風化した岩盤層上面。)
8. 濁に近い黄褐色砂 25Y6/3 (淡黄色地山ブロックを多く含む。岩盤上に乗った砂層。地山。)



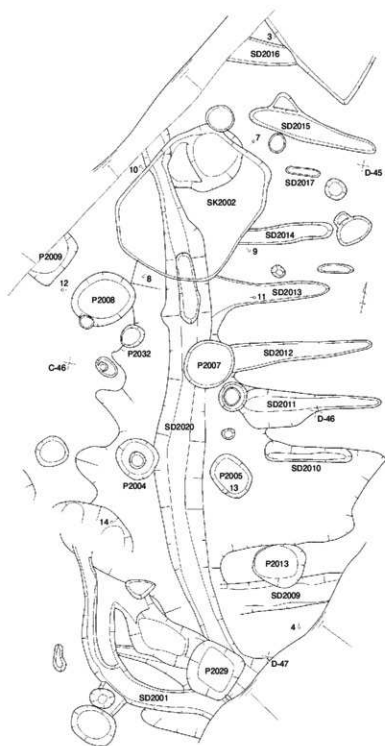
SK2403 (4-9-4-10)

1. 暗褐色砂 75YR3/3
2. 黒褐色シルト質砂 75YR3/1
3. 濁灰色砂 10YR4/1 ~ 3/1 (炭化物、土層断片含む。)
4. 黄褐色岩盤風化した 25Y5/3 ~ 6/3
5. 灰黄褐色砂 10YR4/2 (炭粒、土層断片含む。)
6. 灰黄褐色砂 10YR4/2 (5層より岩粒多く含む。炭粒、土層断片含む。)
7. 灰黄色砂 25Y6/2
8. に近い黄色シルト 25Y6/3 (岩粒多数混入。根によるカクラン小。)
9. 暗灰色砂 (土層断片含む。)

第10図 第2次調査 4区遺構図1 (S=1/60)



第11図 第2次調査 4区遺構図2 (S=1/60)



SD2020 (11-12, 13-14)

1. 高褐色シルト 3YR7/8 (赤褐色の鉄分沈着アロクと灰色粘質シルトとの混合。鉄屑の層土と同じもの。須臾部等が出土。)
2. 暗赤褐色シルト 2.5YR3/2 (シルト質の土が鉄分の沈着により2-3mmの赤褐色の膜状となる。この層から土器の出土はほとんどなく3層との境に少量出土。)
3. 暗褐色シルト 7.5YR3/3 (粘性を帯びる。基本層序の3層としたものが。)



SK2002 (7-8, 9-10)

1. 暗灰色シルト 10YR6/1 (粘性を帯びる。基本層序の1も層。)
2. 高褐色シルト 5YR6/6 (鉄屑か?)



SK2001 (5-6)

1. 高明高褐色シルト 10YR6/8 (黄褐色アロクと灰色粘質土が混ざる。加工に使った?石が多量に出土。)
- 地山: 高黄褐色シルト (基本層序の3層、山積)。黒褐色シルト (基本層序の2層、用土。)

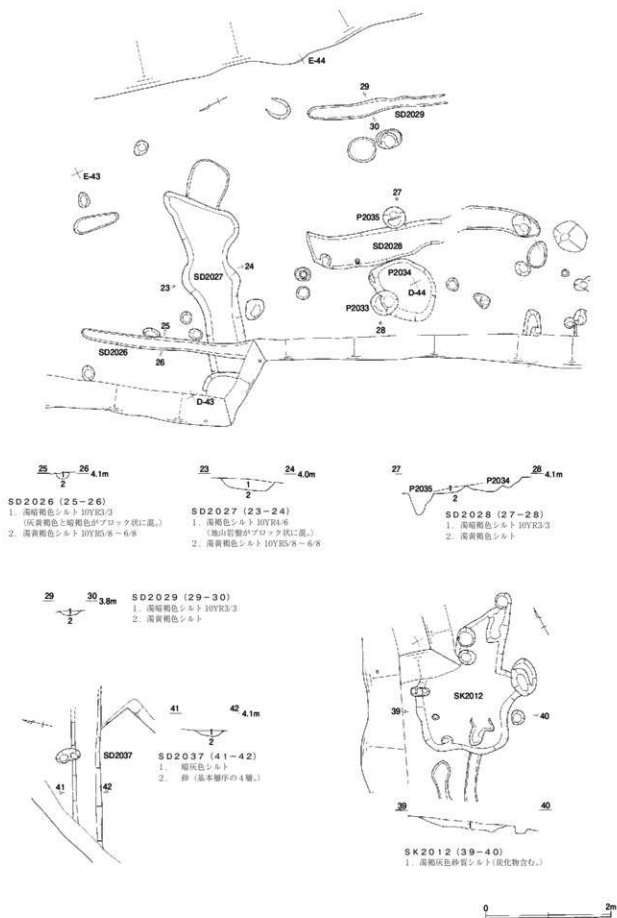


鉄屑土層断面 (3-4)

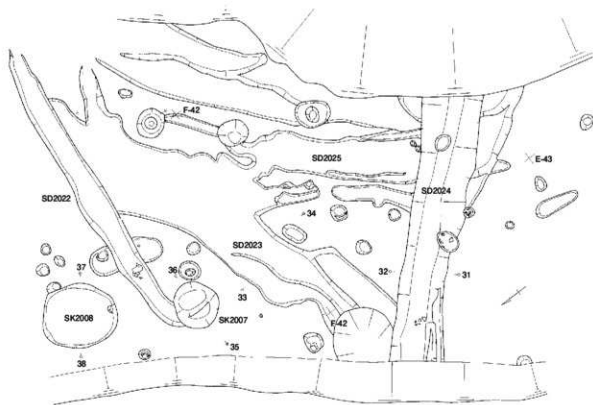
1. 高褐色シルト 5YR6/6 (褐色シルトと鉄分沈着土が混ざり合い全体に赤色を呈する。)
- 地山: 暗褐色シルト 10YR3/1 (基本層序の2層。)



第12図 第2次調査 1・2区遺構図1 (S=1/60)



第13図 第2次調査 1・2区遺構図2 (S=1/60)



SK2008 (37-38)

1. 高褐色砂質シルト (炭化物含む)
2. 1層と4層の混合
3. 暗灰色シルト
4. 高黄褐色シルト



SK2007 (35-36)

1. 暗灰色シルト質砂
2. 高黄褐色シルト
3. 暗灰色シルト (炭化物含む)
4. オリーブ灰色砂 (基本層序の4層)



SD2024 (31-32)

1. 高暗褐色シルト 10YR2/3
2. 高暗褐色シルト 10YR4/1 (砂混じり, 土砂多く含む)
3. 高灰黄褐色シルト 10YR5/2 (砂混じり, 固くしめる)
4. 高灰黄褐色シルト 10YR4/2 (砂3層より多い)
5. 高暗褐色シルト 10YR5/1 (粘質)
6. 薄い高黄褐色シルト 10YR5/3
7. 高黄褐色シルト 10YR5/8-6/8



SD2023 (33-34)

1. 灰色シルト質砂 (炭含む)
2. 高暗褐色シルト 10YR3/3 (SD2025と同一)
3. 高黄褐色シルト (軟石混じり)



1区 (F-41区) 土層断面 (47-48)

1. 高暗黄褐色砂 2.5Y4/2 (SD207, 土砂大量に含む)
2. 高黒褐色シルト 2.5Y3/1 (SD207, 粘質, 土砂含む)
3. 高オリーブ黒色シルト 5Y3/1 (土砂を含む, 粘質, 固くしめる)
4. 灰色シルト 5Y4/1 (粘性3層より強い)
5. 高暗黄褐色シルト 2.5Y5/2 (粘性あり)
6. 高黄褐色シルト 2.5Y4/1 (粘性あり)
7. 高暗褐色シルト 10YR4/1 (鉄分が沈着し, 軟状になる)
8. 灰黄褐色シルト 10YR5/2
9. 灰色シルト 5Y4/1
10. 高オリーブ灰色シルト 5GY4/1
11. オリーブ灰色シルト 2.5GY5/1
12. 暗黄褐色シルト 5Y4/1
13. 高黄褐色シルト 2.5Y7/6 (砂少量混入, 軟石も混入)

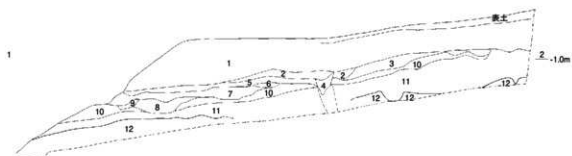


1区2区間土層断面 (15-16)

1. 高暗黄褐色シルト 2.5Y4/2 (砂混, 鉄分も含む)
2. 高黒褐色シルト 10YR2/2 (やや砂混, 土質土砂出土, 基本層序の2層としたものか)
3. 高灰黄褐色砂 10YR4/2 (灰色や黄褐色の砂が薄層をなす, 水脈によるクラック)
4. 灰褐色シルト 10YR3/2 (粘性強い, 炭化物が混)
5. 薄い高暗褐色シルト 10YR4/3 (鉄分沈着, 基本層序の3層としたものか)
6. 薄い高暗褐色シルト 2.5Y5/4 (灰色粘質シルトに黄褐色シルトが混ざる)
7. 黒褐色シルト 10YR2/1 (粘性やや強い, 炭化物を含む)
8. 高暗黄褐色シルト 2.5Y4/2 (鉄分が少し入る, やや砂混)
9. 黒色シルト 10YR2/1 (炭化物を含む, やや粘性あり)
10. 灰色シルト 5Y4/1 (粘性強い, 部分的にややオリーブがかり, さらに粘性が強い)
11. 高黄褐色シルト 2.5Y5/3 (灰色粘質シルトと褐色シルト (鉄分) が小さなブロック状に入り込む, 高砂セクションの4層)
12. 高暗黄褐色シルト 2.5Y5/3 (褐色の軟石を多く含む)
13. 薄い高暗褐色シルト 7.5YR7/4 (灰色粘質シルトと褐色砂質シルトがブロック状に混, 砂も含むが粘性を帯び, 基本層序の4層としたものか)



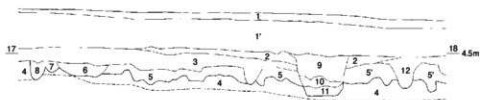
第14図 第2次調査 1・2区遺構図3 (S=1/60)



1区土層断面(1-2)

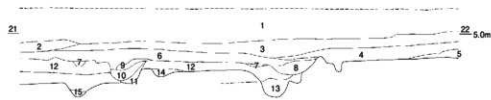
表土、黒褐色シルト

1. にぶい黄褐色シルト 10YR6/4 (粘性弱い、均質な土、盛土か、基本層序の1層。)
2. 黒灰色粘土 10Y6/1 (鉄分が少し沈着する。)
3. 黒灰色粘土 10Y4/1 (2層より細かい、やや固くしめる、鉄分が少し沈着する。)
4. 黄褐色シルト 2.5Y5/4 (水によるカクタンが砂が堆積層になって入る。)
5. 深灰サリブ色シルト 5Y5/2 (粘質の灰色シルトに黄褐色土(鉄分?)が粒状に混ざる。砂の層厚も入る。)
6. 黒灰色シルト 5Y4/1 (3層に近い層、粘性が強い。)
7. 深にぶい黄褐色シルト 10YR5/3 (10cm 大の鉄分の塊が入る。1cm 大の鉄分の塊と灰色粘土が混る。)
8. 深にぶい灰色粗砂 7.5YR4/2 (3~4cm 大の鉄分の塊と粗砂の混ざった層。)
9. 灰サリブ色粘土 5Y4/2 (鉄分入る。)
10. オリーブ灰色シルト 5Y3/1 (粘性強い、基本層序の2層。)
11. 黄褐色シルト 2.5Y4/1 (土の上方は粘質で下の方は砂質、鉄分が沈着したり、還元され灰色を呈するところもある、基本層序の3層。)
12. 黒暗灰黄色シルト 2.5Y5/2 (赤黄色の地山がブロック状に混、黄褐色シルト、灰色粘土、軟石が混ざり合う、基本層序の4層。)



1区西壁土層断面(17-18(17より18方向へ3.2mから10mの範囲を図示))

1. 黒褐色シルト 10YR2/2 (表土。)
- 1'. にぶい黄褐色シルト 10YR6/4 (盛土か、地山ブロック少量混ざる。)
2. 黒色シルト 10YR2/1 (ほとんど赤黄色地山ブロック(1cm 大)を含む。)
3. にぶい黄褐色シルト 10YR4/3 (土層質の上部が少量混ざる。)
4. 黒暗灰黄色シルト 2.5Y5/2 (やや黄褐色がかかる。少量の砂混ざる。下方に軟石を含む。)
5. 黒褐色シルト 10YR3/1 (土層質の上部を大量に含む。)
- 5'. 黒灰色シルト 10YR4/1 (5層よりやや灰色がかかる。上部の入り方は5層に近いものがある。)
6. 黒褐色シルト 10YR3/1 (土層質の上部が大量に含まれる。灰化物も少量混る。)
7. 黒暗黄褐色シルト 10YR4/2 (赤黄色地山ブロックが混ざる。)
8. 黒黒褐色シルト 10YR3/2 (黒褐色シルトに黄褐色シルトがブロック状に入り込む。)
9. 灰黄褐色シルト 10YR5/2
10. 深にぶい黄色シルト 2.5Y6/3 (灰色粘質シルトに明黄褐色軟石が混る。)
11. 暗灰色シルト 10YR5/1 (粘性を帯びる。)
12. 深にぶい褐色シルト 7.5YR5/3 (5~6cm 大の鉄分の塊を含み、全体に鉄分の沈着が見られる。濃淡混濁の鉄分の層。)



2区西壁土層断面(21-22(21より22方向へ12mから19mの範囲を図示))

1. 黄褐色シルト質砂 7.5Y7/8 (土層薄片含む。盛土。黒灰岩粒多く含む。)
2. 浅黄色シルト質砂 5Y8/3 (しりり極めよい、鉄分若干沈着。)
3. 黄褐色シルト質砂 7.5Y7/3 (岩粒小片多く含む。岩粒の風化程度時の2次堆積か、鉄分沈着し赤褐色に着色。)
4. 灰白色シルト質砂 7.5Y7/2 (岩粒ブロック土含む。)
5. 浅黄色軟質腐灰岩 7.5Y7/2 (風化による粉砂土層、灰化物多く含む。風化した岩粒表面。)
6. 1.2層と岩粒ブロック、2層の混合土
7. 浅黄色シルト質砂 5Y8/3 (2層と同じだが鉄分多い。)
8. 6層と同じだが6層より1.2層強く、灰色を呈しシルト気強い。)
9. 6層と同じ。灰化物多量混入。)
10. 6層と同じ。灰化物9層より少ない。)
11. 6層と同じ。灰化物1.0層より少ない。砂質強い。)
12. 灰色シルト質砂 5Y6/1 (灰片含む。)
13. 8層と同じだが8層より灰色を呈しシルト気強い。)
14. 灰色砂質シルト 5Y6/1 (灰片含む。)
15. 灰色シルト質砂 5Y5/1 (灰片多い。1.2層よりシルト気強い。)

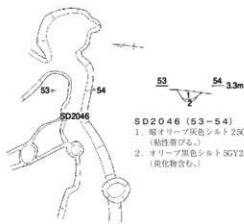
0 2m

第15図 第2次調査 1・2区遺構図4 (S=1/60)

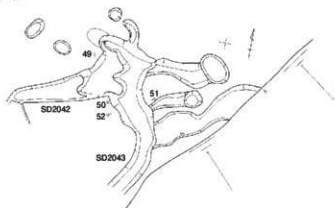


2区 (H-40区) 土層断面 (45-46)

1. 高灰オリブ色シルトSY5/2 (鉄分が沈着、粘性を帯びる、固くしまる。)
2. 灰色シルトSY4/1 (粘性やや密びる、砂も含みしまりややない。)
3. ほぼ白黄色砂25Y6/4 (シルト混じり。)
4. 黄灰色シルト25Y5/1 (粘性帯びる、固くしまる。)
5. 高階灰色シルト10YR4/1 (4層により多くの砂が混、鉄分の粒子が多い。)
6. 灰オリブ色シルトSY6/2 (砂多く固くしまる。)
7. 灰オリブ色シルトSY4/2
8. 灰色砂SY6/1 (基本層作の4層。)

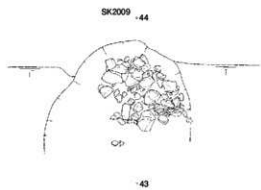


- SD2046 (53-54)
1. 暗オリブ灰色シルト25GY3/1 (粘性帯びる。)
 2. オリブ灰色シルトSGY2/1 (風化物含む。)



- SD2042 (49-50)
1. 黒褐色シルト10YR3/1
 - 1'. 1層に軟石と土跡が入る
 2. オリブ灰色砂25GY6/1

- SD2043 (51-52)
1. 黒褐色シルト10YR3/1
 2. オリブ灰色砂25GY6/1



- SK2009 (43-44)
1. 高灰色シルト質砂
 2. 3層混じりの1層
 3. 黒色シルト質砂
 4. 黄色砂

0 1m
(SK2009平面・断面S=1/30)



3次調査SX2014 (a-a')

1. 高黄灰色シルト25Y4/1 (淡黄色地山ブロック(2~3mm大)と砂とが混ざる、粘性あり、鉄分沈着、風化物粒子も含む。)
2. 高階黄灰色シルト25Y3/2 (4層との境付近で鉄分が沈着する。やや粗く砂混じりの層。)
3. 高オリブ黒色シルトSY3/2 (砂が混ざるが、粘性強い。)
4. 高灰オリブシルトSY4/2 (粒子の大きい砂が混ざる、粘性強い。この面のベース。)



3次調査断面b-b'

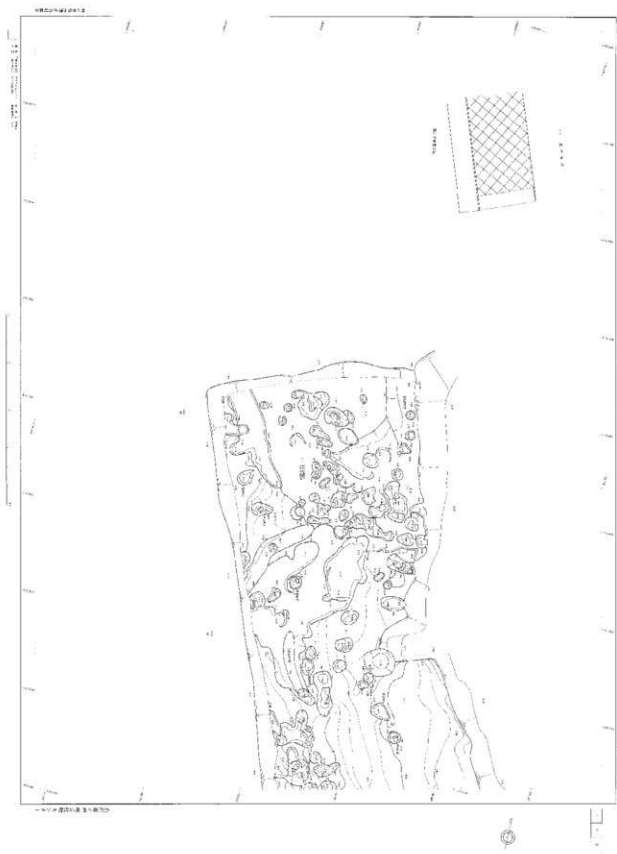
1. 高黄褐色砂質土 (地山砂礫を含む。)
2. 灰褐色砂質土
3. 高明黄灰色砂質土 (地山砂を含む。)
- 3'. 高明黄灰色粘質土
4. 明灰色砂質土
5. 灰色砂質土
6. 高橙褐色砂礫土 (橙褐色砂・凝灰岩風化物)
7. 黄灰色砂質土 (鉄分沈着。)
8. オリブ灰色砂質土
9. 明黄灰色砂・黄灰色砂質土

0 2m

第16図 第2次調査 1・2区、第3次調査 遺構図 (S=1/60)

三木A遺跡1994(北)平面図No. 1

(第2面)



第17図 第2次調査 平面図1 (S=1/80)

三木A遺跡1994(北)平面図No. 2

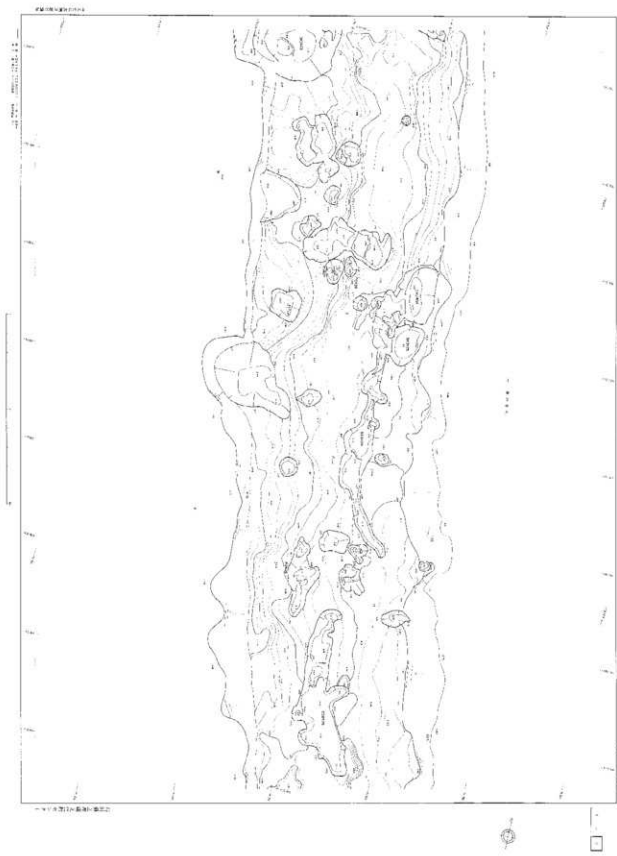
(第2面)



第18図 第2次調査 平面図2 (S=1/80)

三木A遺跡1994(北)平面図No. 3

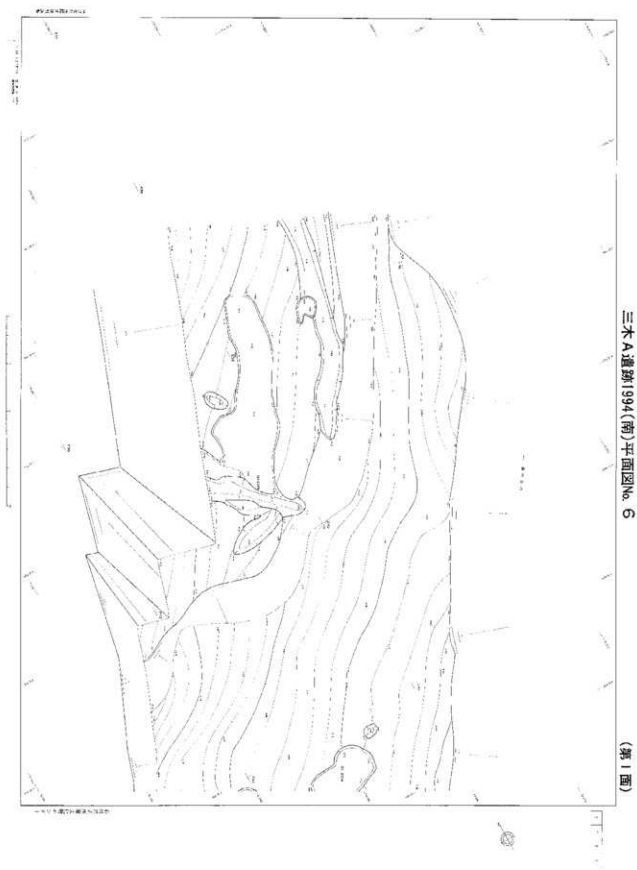
(第2面)



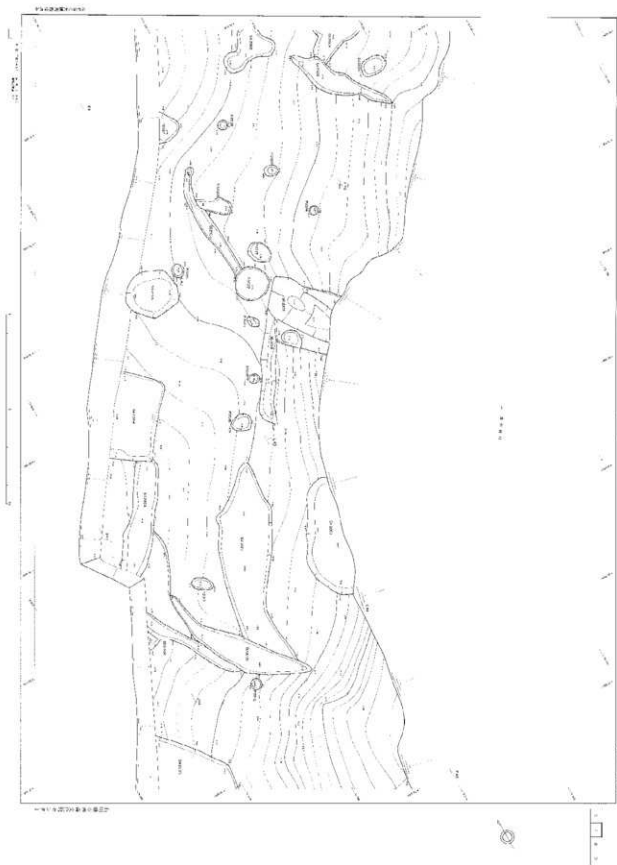
第19図 第2次調査 平面図3 (S=1/80)



第20図 第2次調査 平面図4 (S=1/80)



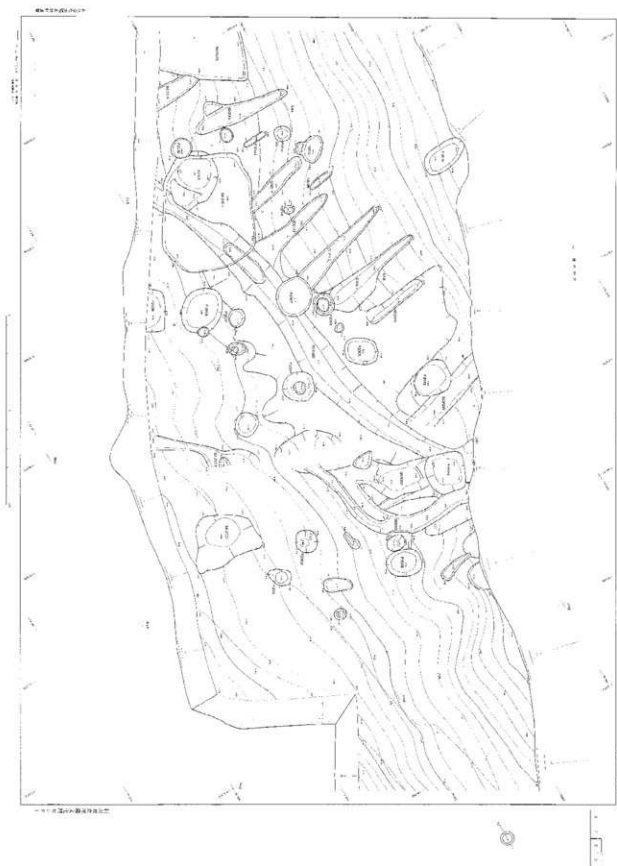
第21図 第2次調査 平面図5 (S=1/80)



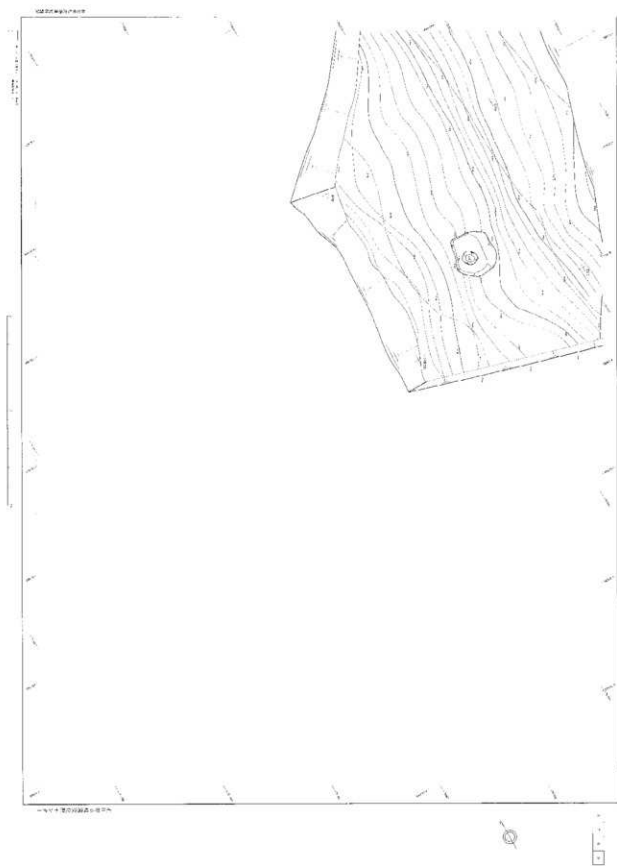
第22図 第2次調査 平面図6 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(南)平面図No. 8

(第1面)



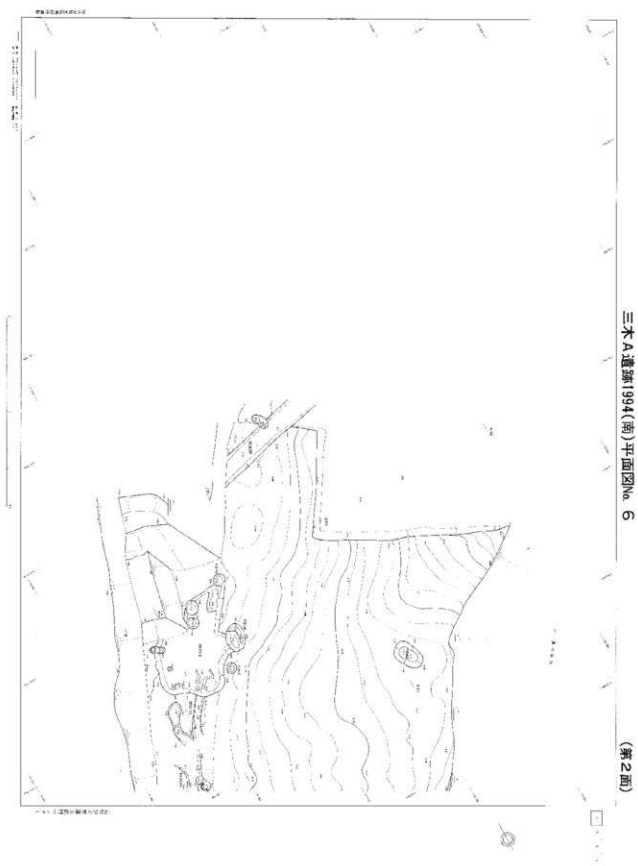
第23図 第2次調査 平面図7 (S=1/80)



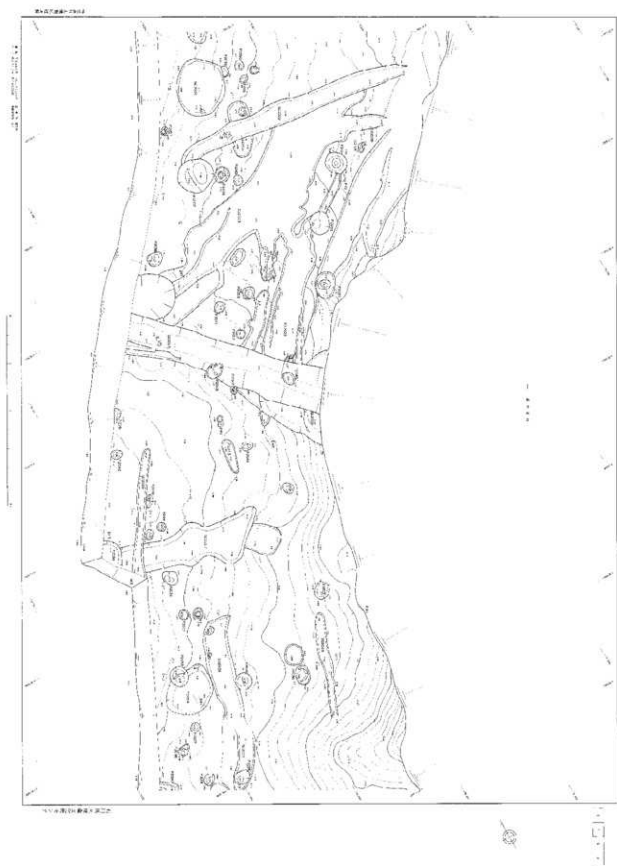
三木A遺跡1994(南)平面図No. 9

(第1面)

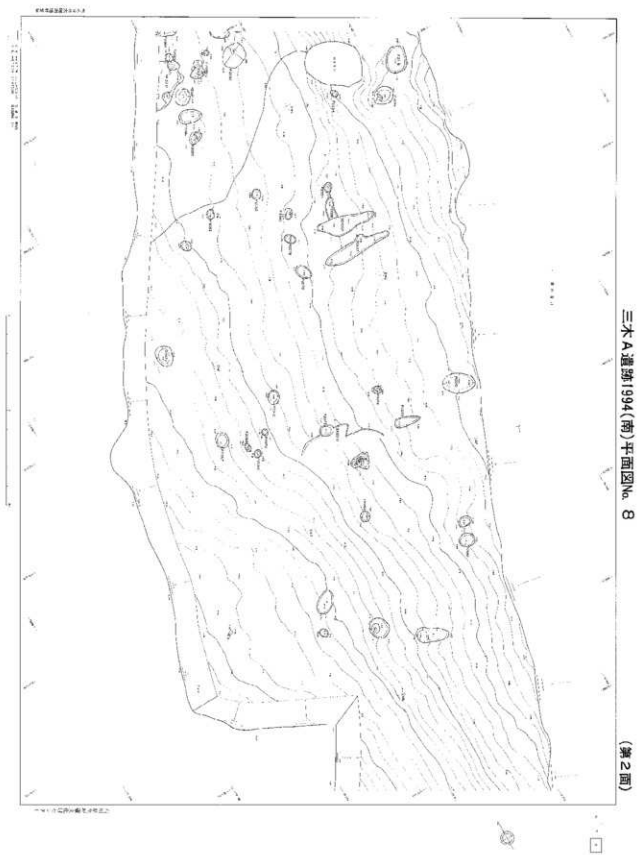
第24図 第2次調査 平面図8 (S = 1/80)



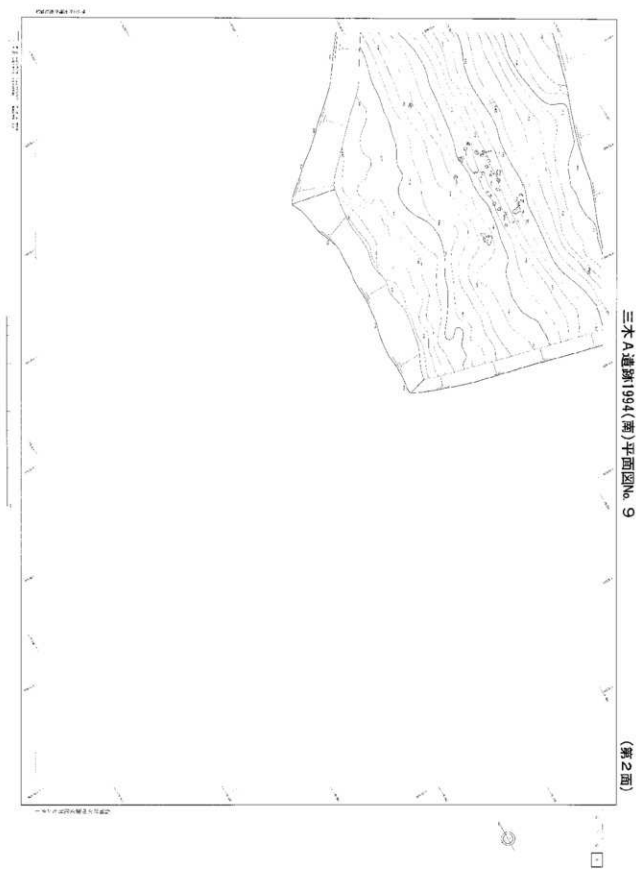
第25図 第2次調査 平面図9 (S = 1/80)



第26図 第2次調査 平面図10 (S=1/80)

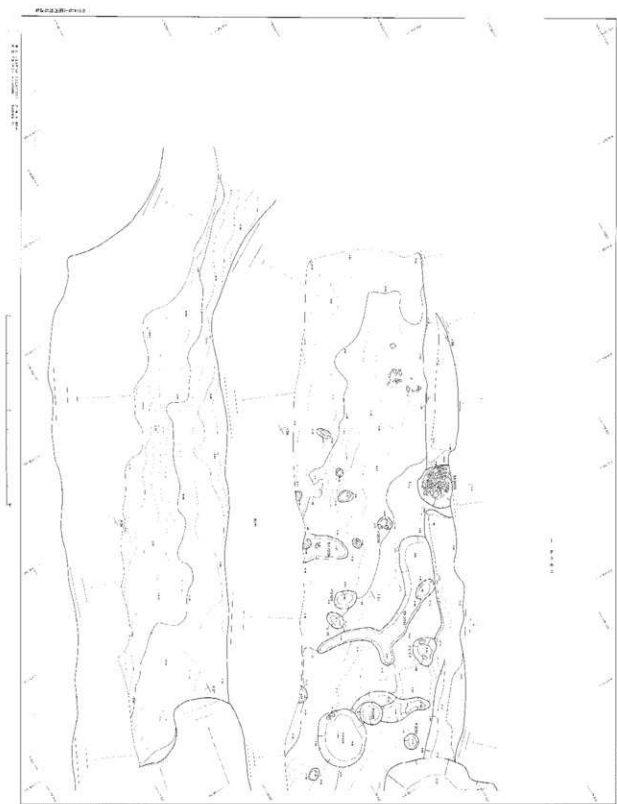


第27図 第2次調査 平面図11 (S=1/80)

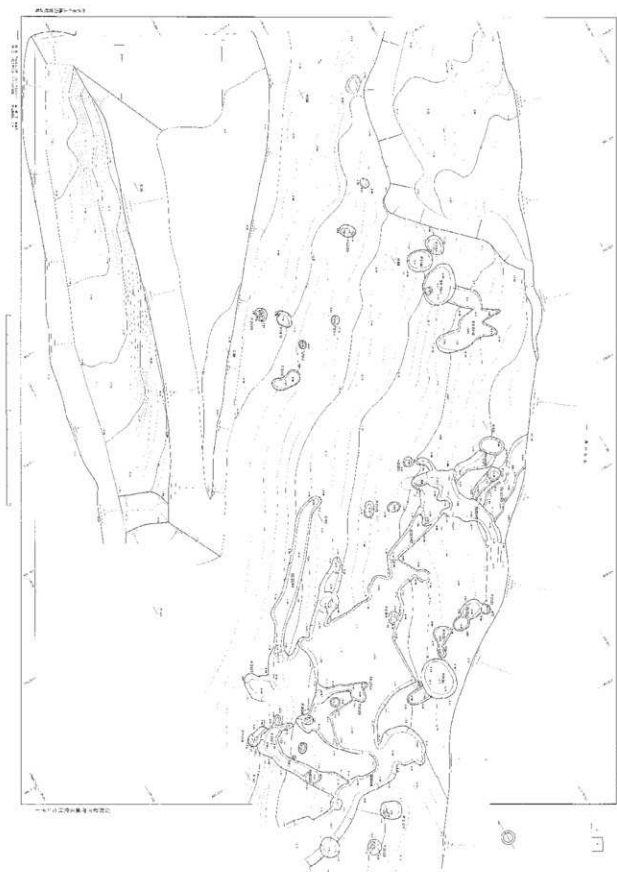


三木A遺跡1994(南)平面図No. 5

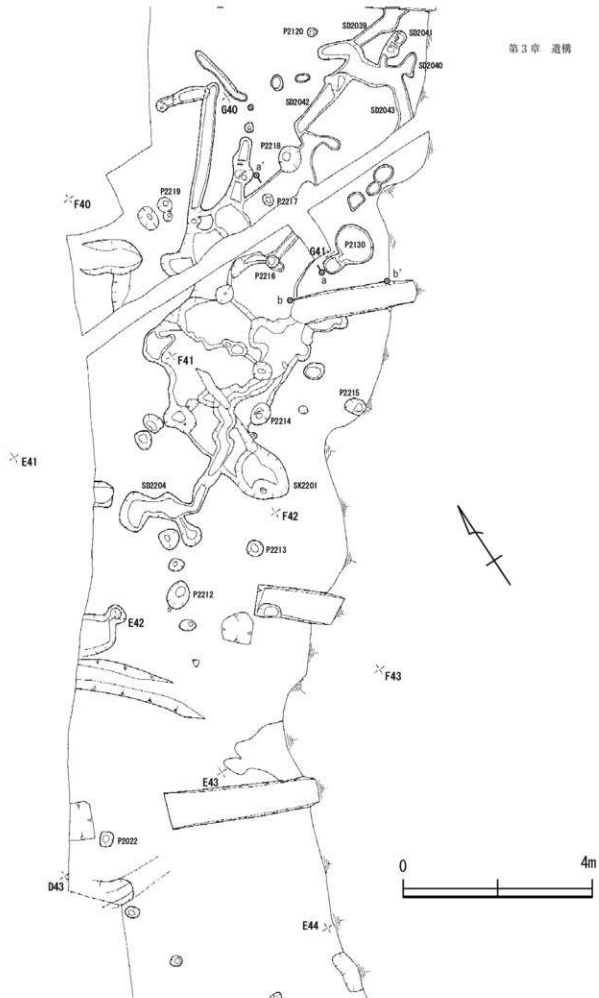
(第3面)



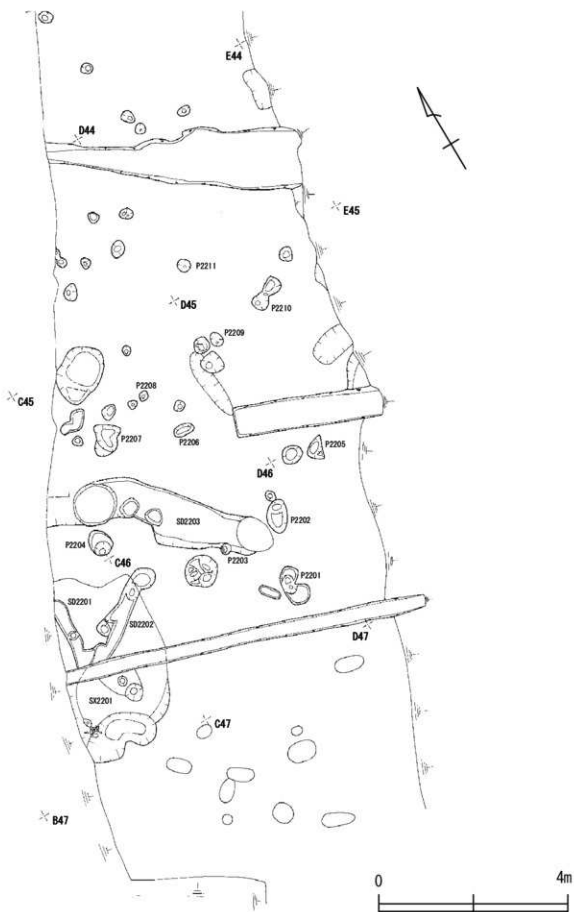
第29図 第2次調査 平面図13 (S=1/80)



第30図 第2次調査 平面図14 (S=1/80)



第31図 第3次調査 平面図1 (S=1/80)



第32図 第3次調査 平面図2 (S = 1/80)

第4章 遺物

本遺跡の調査では、コンテナボックス115箱分（第1次32箱、第2次74箱、第3次9箱）の遺物が出土している。縄文土器から近世陶磁器までの多種多様な土器・陶磁器類の他、石製品類が出土している。それらの中から主要な遺物446点を実測した。詳細は遺物観察表を参照されたい。

縄文土器 コンテナボックス10箱分（第1次4箱、第2次4箱、第3次2箱）出している。時期は縄文時代の早・前期から晩期まで幅広い年代の遺物が出土しているが、後・晩期の遺物が比較的多く出している。早期～前期では、深鉢（382・413）、前期では深鉢（416・420）や前期と推定される深鉢（436）、前期後半の北白川下層Ⅲ式の深鉢（333）が出土している。中期では、中期前半の新保式（343・346）、中期後半の串田新式（142）、大杉谷式（89・425）の深鉢が出土している。

後期では、後期初頭（中津式）の深鉢（68）、後期中葉の深鉢（99・147・151・367・408・415）や浅鉢（103・422）、後期後半（井口式）の深鉢（405・406・423）や浅鉢（390・435）、鉢（412）、後期末（八日市新保式）の深鉢（149・426・437）や浅鉢（393）等が出土している。晩期では、晩期前半の深鉢（148・414）、晩期後半の深鉢（69・70・97・101・110・112・152）、晩期末の壺（153）が出土している。また、晩期後半では、葬式の深鉢（98・111・401）が確認でき、福井県の縄文土器の影響も受けていることが推定される。

弥生土器 前期から終末期までの遺物が出土している。前期では柴山出村式の壺（356）、前期末～中期初頭の条痕文系壺（120）が出土しており、中期では初頭頃の条痕文系壺（104）、中期前半の甕（150）、中葉～後半の壺か鉢（339）、中期後半の甕（322）が出土している。後期では、後期前半（箱橋式）の甕（78）、後期後半～終末期では甕（36、51、56、57、328）が出土している。337は終末期の壺と推定され、口縁部外面に円形刺突文、円形浮文、綾杉文等が付され、内面には赤彩が施されている。

176は小型の壺で、色調は赤橙色を呈し、外面にはミガキ調整後に上下各3条単位の沈線間をタマキ貝とみられる貝による施文が巡る。貝殻腹縁押捺による多条化した二段の截頭山形文の一種とみられ、山陰沿岸東部地域の影響の可能性が指摘されている^(註1)。貝殻施文の土器は、弥生時代前期後半に盛行するが、施文部位は基本的には胴部最大径より上位になされることが多く、また器形もやや扁平状であることなどから、弥生時代中期後半と推定される^(註2)。

329は、形態がアワビのような貝殻状を呈した類例の乏しい土製品である。アワビ特有の瘤状突起は見られない。弥生時代後期～終末期のものとして推定される。

土師器 器種としては、甕、壺、高坏、器台、注口鉢、埴、手捏ね、甕、皿、鉢が出土している。古墳時代前期初頭の白江式（漆町編年5～6群）では、甕（75・92・122・155・326・344）、壺（76）が出土している。古墳時代前期前半頃の遺物は、漆町編年5～7群頃の甕（94）、壺（80・117）、6～7群頃の甕（95）、高坏（140）、7群頃の甕（335）、高坏（248・341）、7～8群頃の器台（219）、甕（224）、8～9群頃の甕（262・307・297）、器台（295）等が出土している。古墳時代前期後半では、漆町編年9群頃の甕（292・298）、9～10群頃の壺（193）、10群頃の甕（237・290）、壺（157・177・285）、高坏（208）等が出土している。古墳時代中期では、漆町編年11～12群頃の甕（291）、壺（351）、12群頃の甕（79・184・325）、壺（82・137・138・240）、高坏（または器台：294）、12～13群では甕（62）、壺（288・352）、高坏（52・247・254・256・315）、13群頃では高坏（249）、甕（357）、14群では甕（27・28）、埴（39）等が出土している。

古墳時代後期では、漆町稲年15群頃の高坏(20・52)等が出土している。古代前半では、7世紀代とみられる注口鉢(12)、中世では、11世紀後半～12世紀中頃の椀(84)が出土している(註3)。

須恵器 コンテナボックス4箱分出土している。器種としては、坏、埴、高坏、盤、甌、甕、壺、甕、甕、甕、甕が出土している。时期的には、古墳時代後期(5世紀末頃)から10世紀中葉前後頃までの遺物が出土しているが、古代前半期であるI1期～I2期(7世紀初頭～中頃)の遺物が比較的多く出土している。古墳時代後期では、5世紀末頃のTK47併行期頃(34・268)、TK47～MT15(43)、6世紀前半頃のMT15～TK10(29、54、358)の遺物が出土している。古代前半では、7世紀初頭～中頃であるI1～I2期(59・121・122・123・143)、I2期(10・11・66・144・158・160・282)、7世紀後半～8世紀初頭のII1～II2期(280)の遺物の遺物が出土している。古代後半期では、V～VI期(23)、V1期(116)、VI2期(132)等が出土している。

製塩土器 第1次調査区や第2次調査F1区SX2401やF1区2層周辺から大量の細片化した製塩土器片がコンテナボックス換算で9箱分出土している。支脚(24・26・40・41・173)も出土している。良好な共存遺物がなないため時期を明確にできないが、10～12世紀代の遺物と推定される。

陶磁器 第1次調査では、備前焼播鉢(42)が出土している。第2次調査では、SK2402から15世紀代の青磁の香炉(162)、SK2401からは唐津焼皿(163)が出土している。また表採等で染付碗(368)、唐津焼皿(369)、18世紀頃の肥前系陶胎染付碗(370)を確認している。第3次調査では、15世紀後半頃の表面には鉄軸がかかった瀬戸の蓋(418)が出土している。

石製品 本遺跡で出土した石製品は、合計約90点であり、それらの中から38点を実測した。

旧石器時代と推定される遺物が2点出土している。1つは石刃(444)で、石材は頁岩または凝灰岩と見られ、硬質で同化面は灰白色を呈し、背面は研磨されており、微細網離痕が見られる。もう1点は彫刻刀削片(443)と推定される遺物である。凝灰岩製と見られ、同化面は灰色を呈し、軟質である。

縄文時代の遺物としては、打製石斧や磨製石斧、石錐、石棒、砥石(48)、磨石類が出土しているが、大型の打製石斧や磨石類の中には弥生時代の遺物である可能性があるものもあると考えられる。

弥生時代の遺物としては、石錐や横刃型石器(304)が出土している。なお未実測ではあるが、ガラス質デイス(下呂石)製の石錐が1点出土している。

古墳時代の遺物では、管玉(222)が1点出土している。石材は凝灰岩で、孔は両側から開けられている。また、第1次調査区では古墳時代中期の石製模造品である滑石製有孔円盤(47)が出土している。未実測ではあるが、第2次調査区でも破片が1点出土している。

中世の遺物では、火山礫凝灰岩(シャクダニ石)製の行火蓋(183)が出土している。蓋の内面の反りが緩やかであることは越前産の特徴であり、時期は16世紀後半以降と推定される。

金属製品 第2次調査で、古墳時代後期の銅製の耳環(379)が出土している。その他、F-40区1b層から錆付著しい洪武通寶1枚が出土し、4区南端では寛永通寶(文銭)を1枚表採している。

註

(註1) 財団法人山口県ひとづくり財団山口県埋蔵文化財センター乗安和二三氏の御教示による。

(註2) 縄文土器は久田正弘氏、弥生土器は久田氏・林大智氏の御教示を得た。

(註3) 土師器・須恵器は田嶋明人氏、石製品は本田秀生氏・西田昌弘氏の御教示を得た。

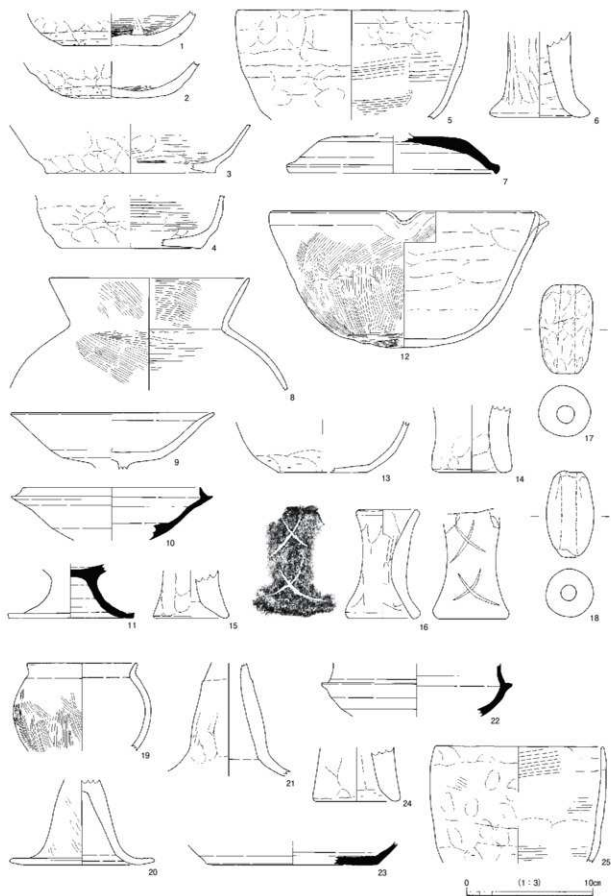
参考文献

1986『漆町遺跡I』石川県立埋蔵文化財センター

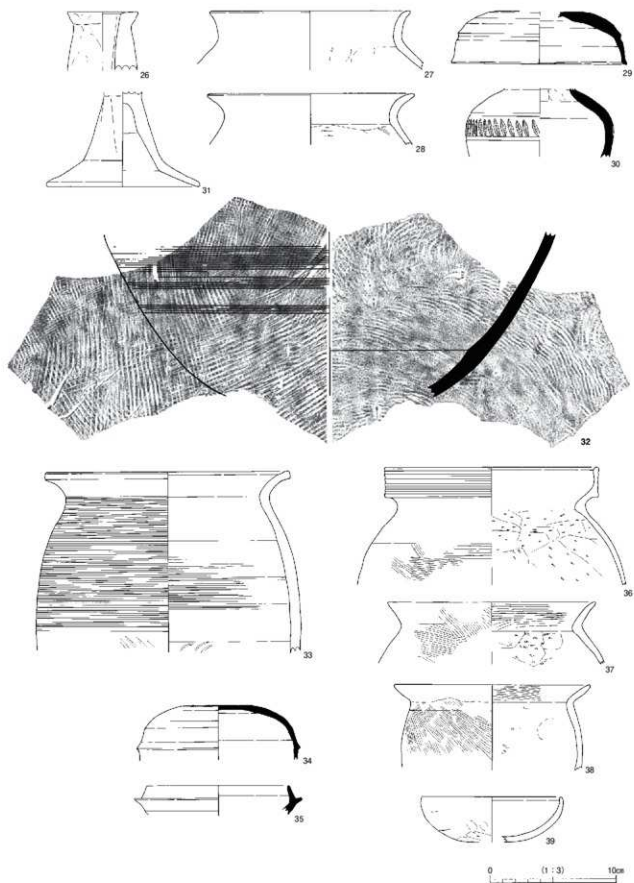
2002『金沢市藤江C遺跡』Ⅳ・Ⅴ 第1分冊縄文時代編 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター

堀内光次郎 1990『中世北陸の暖房文化』『石川考古学研究会々誌』33 石川考古学研究会

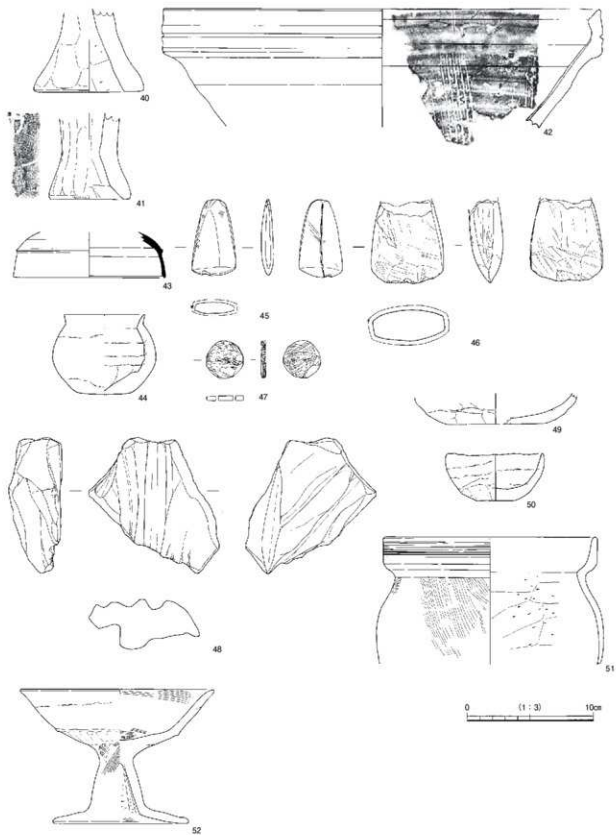
北陸古代土器研究会 2000『シンボジウム古代の須恵器貯蔵具Ⅱ-貯蔵具の製作技術を復元する』



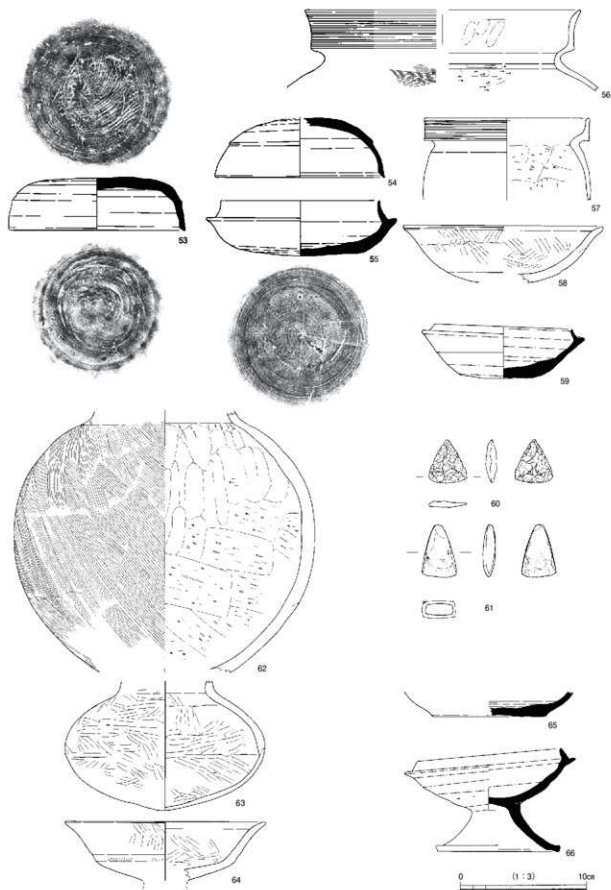
第33图 第1次調査 出土遺物実測図1



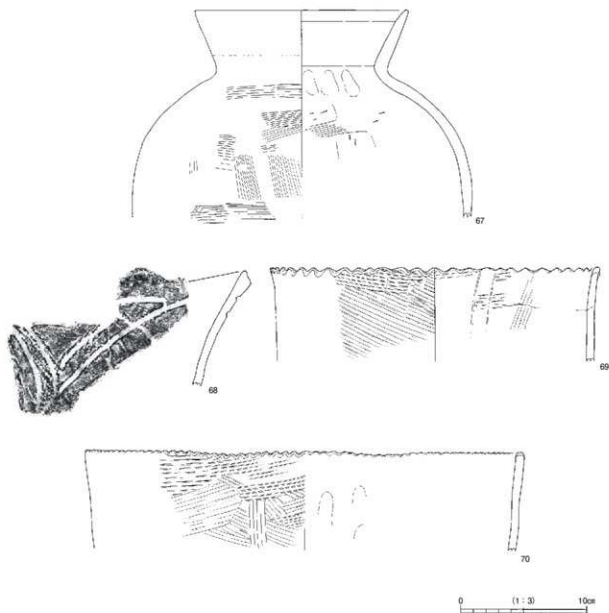
第34图 第1次調査 出土遺物実測図2



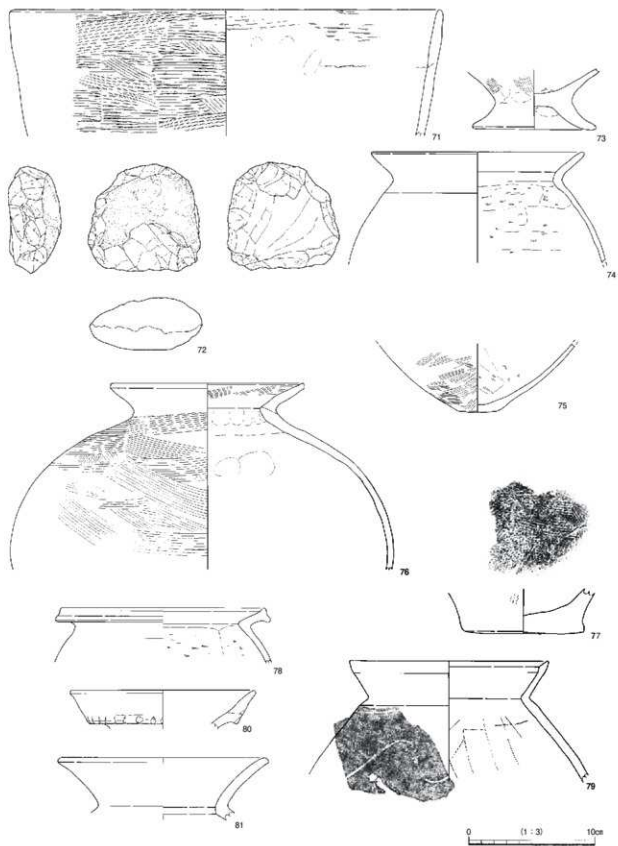
第35图 第1次調査 出土遺物実測図3



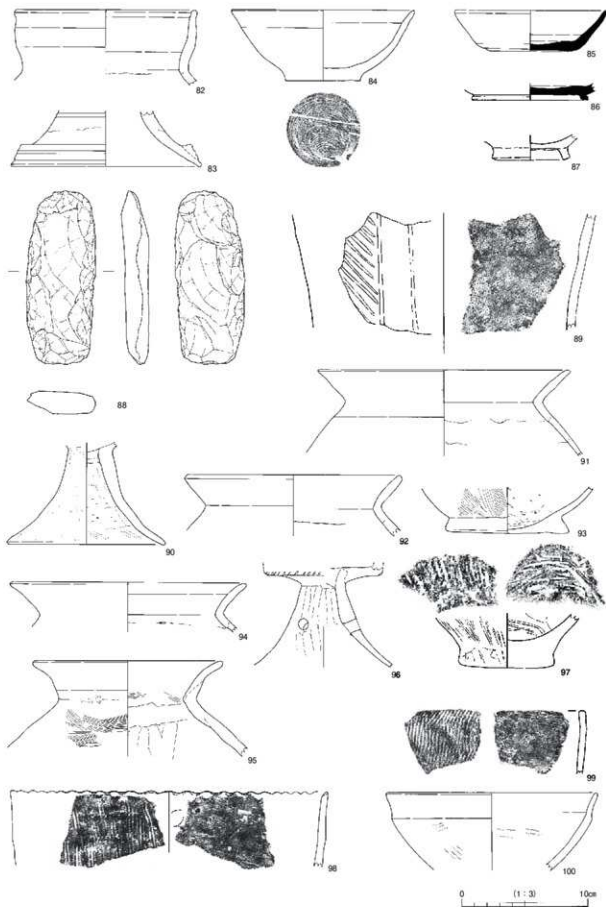
第36图 第1次調査 出土遺物実測図4



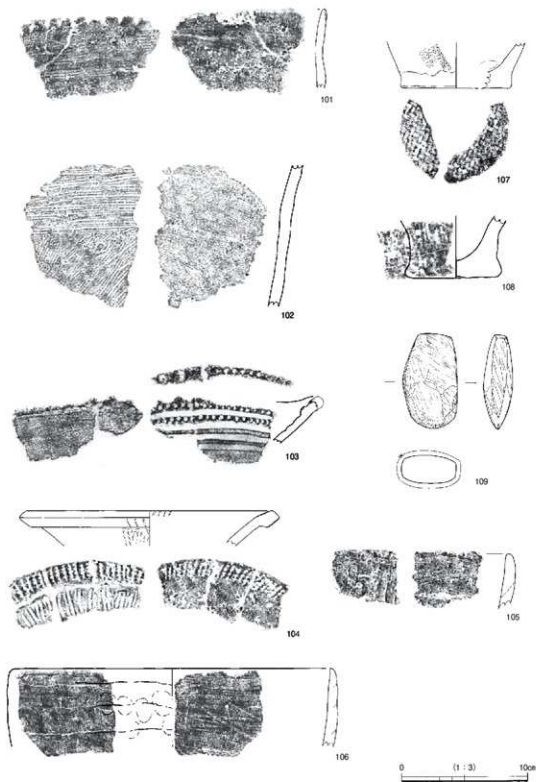
第37図 第1次調査 出土遺物実測図5



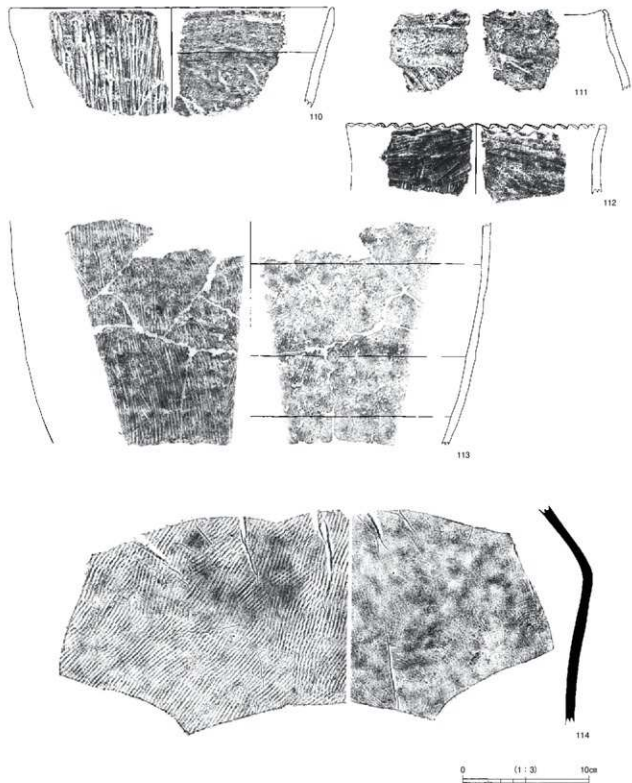
第38图 第1次調査 出土遺物実測図6



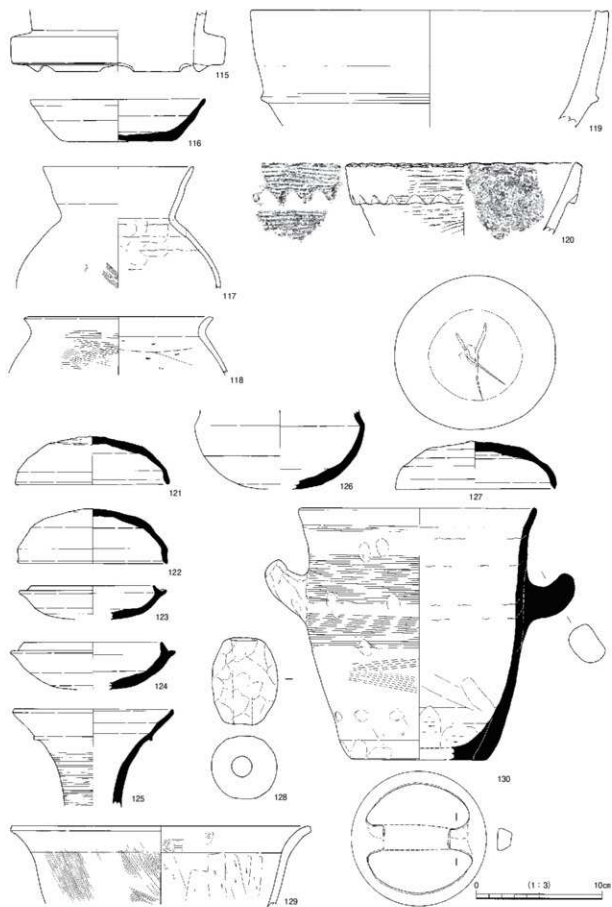
第39図 第1次調査 出土遺物実測図7



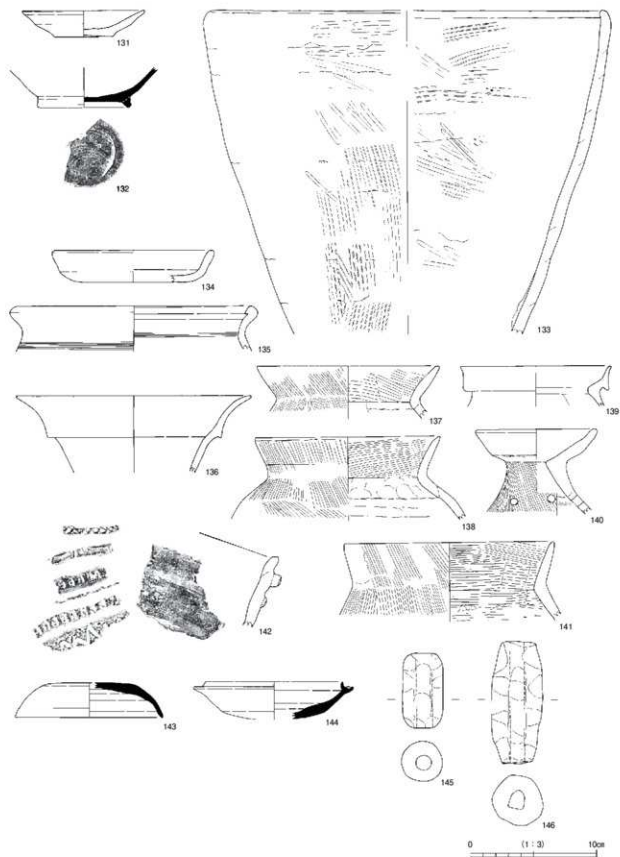
第40图 第1次調査 出土遺物実測図8



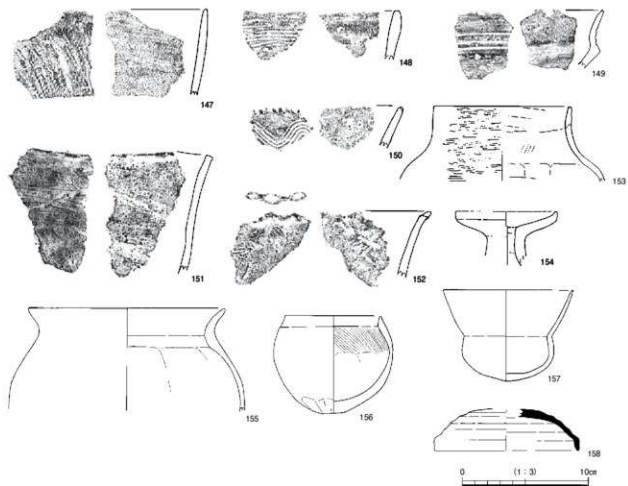
第41図 第1次調査 出土遺物実測図9



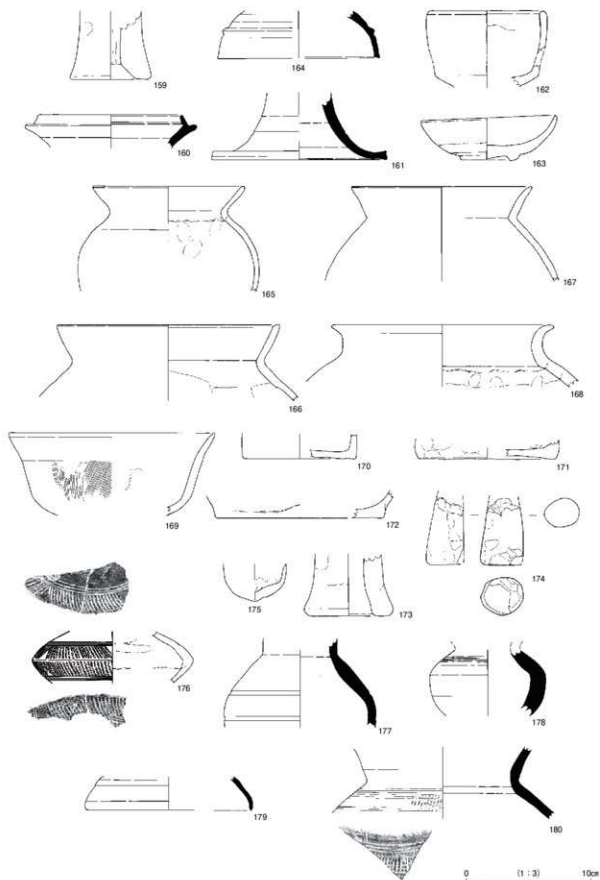
第42图 第1次調査 出土遺物実測図10



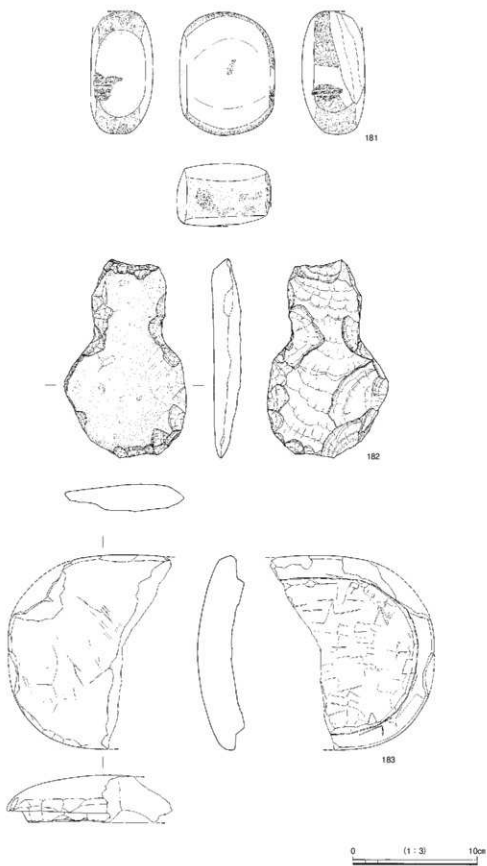
第43图 第1次調査 出土遺物実測図11



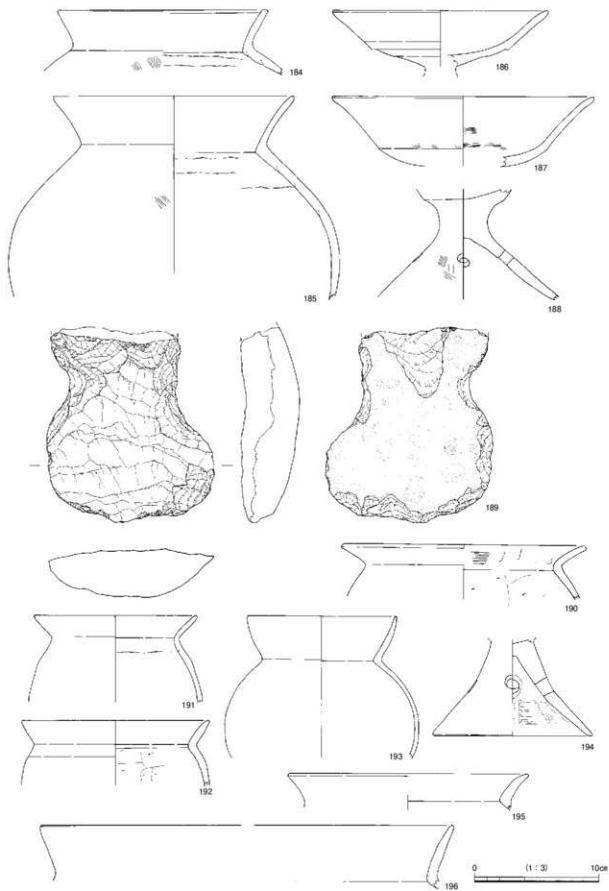
第44图 第1次調査 出土遺物実測図12



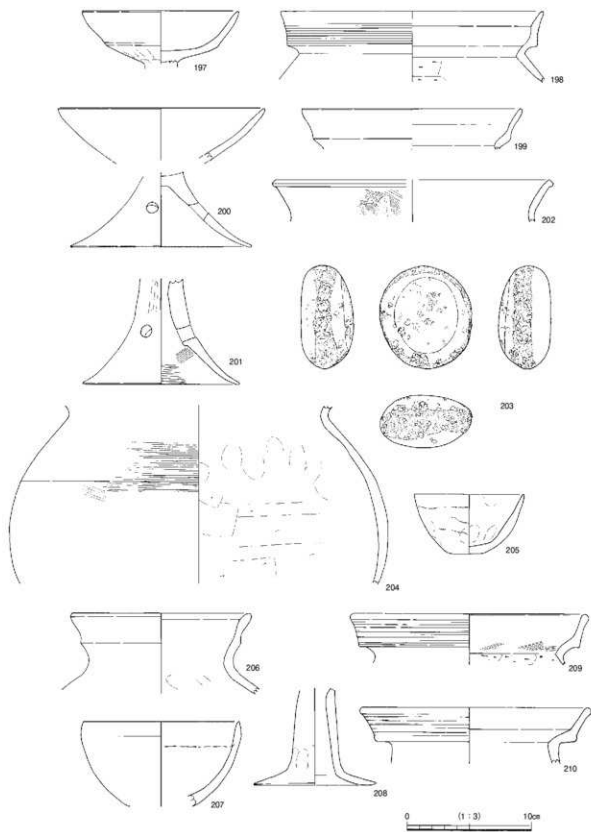
第45图 第2次調査 出土遺物実測図1



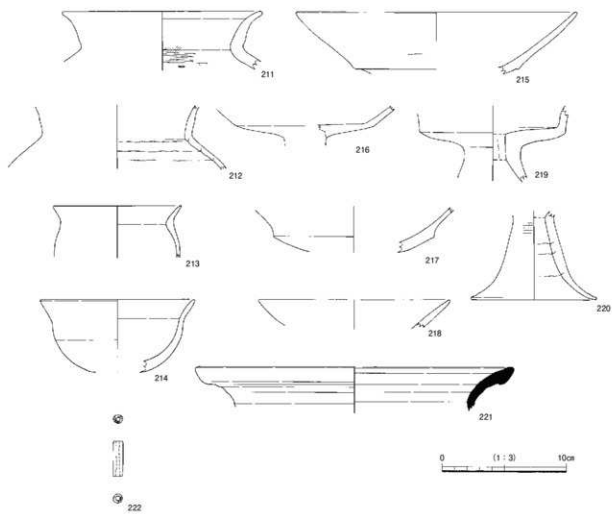
第46图 第2次調査 出土遺物実測図2



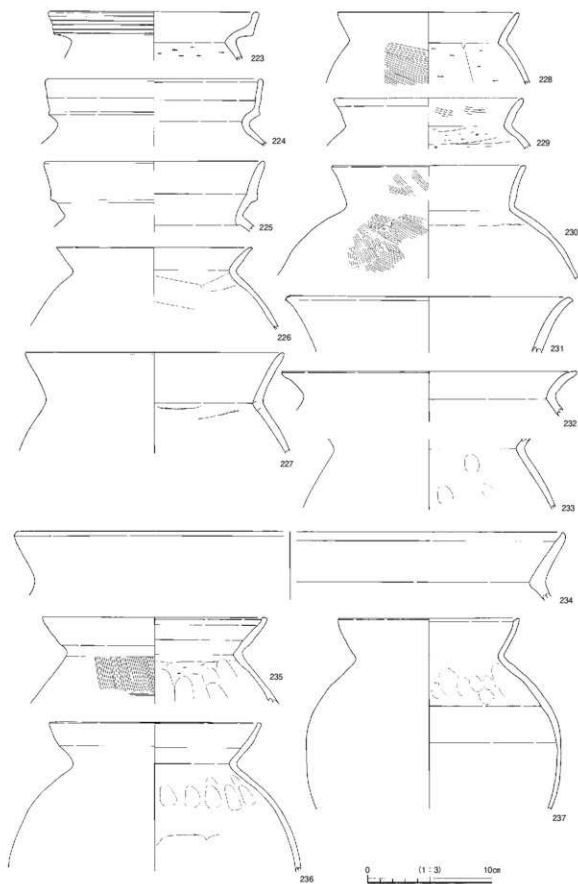
第47图 第2次調査 出土遺物実測図3



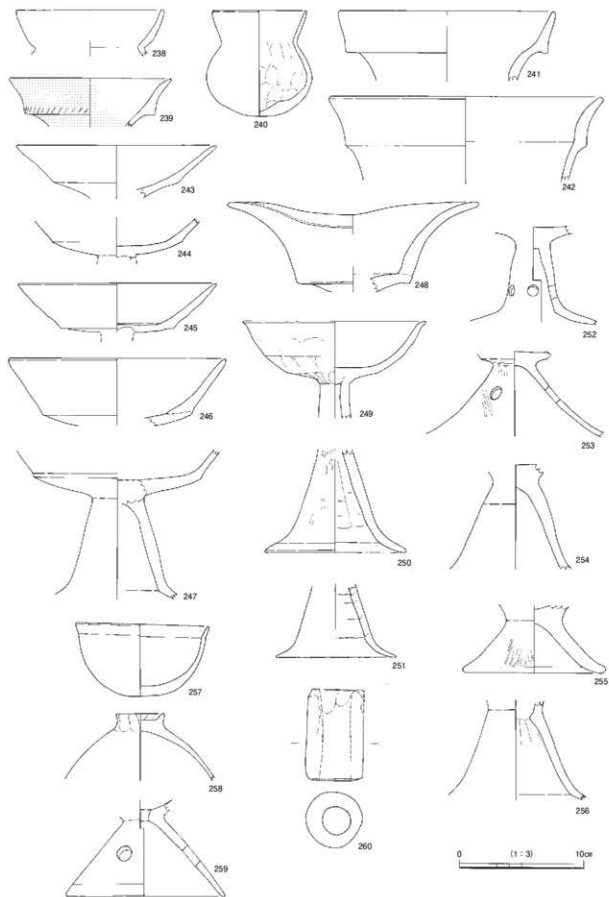
第48图 第2次調査 出土遺物実測図4



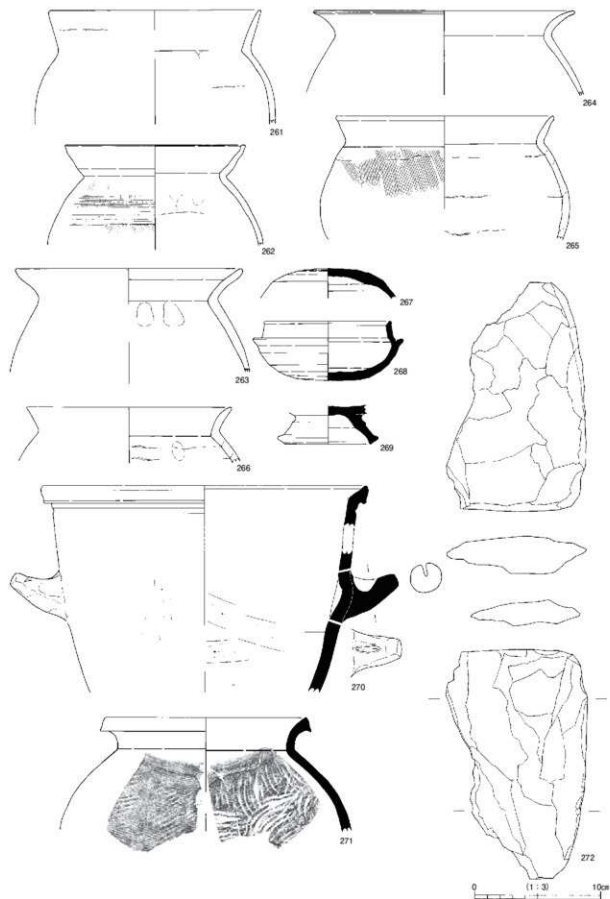
第49図 第2次調査 出土遺物実測図5



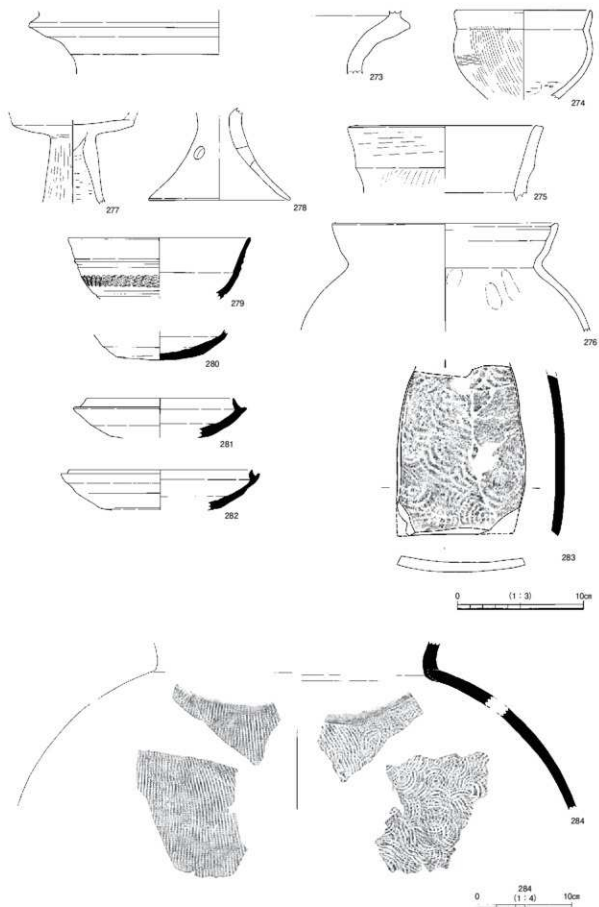
第 50 图 第 2 次調査 出土遺物実測図 6



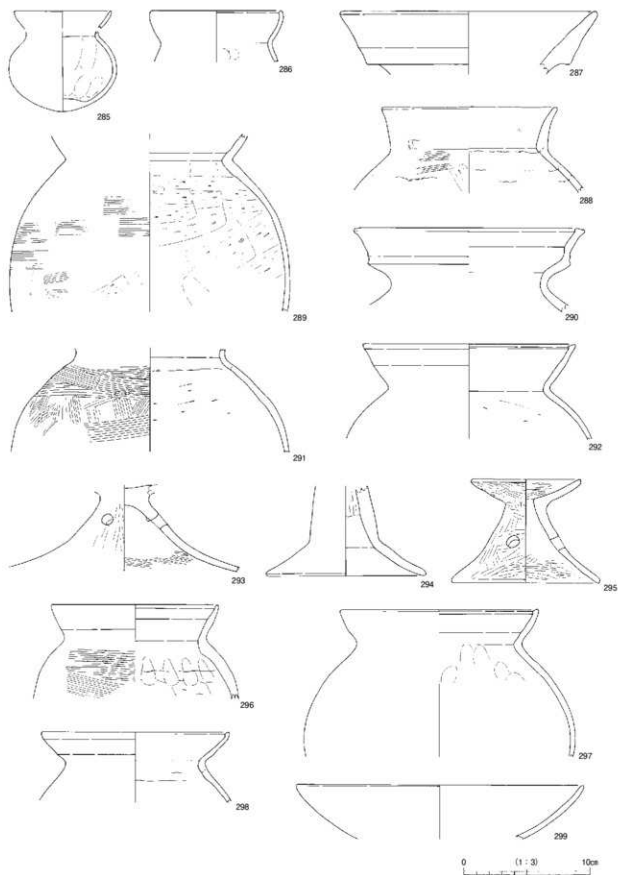
第51图 第2次調査 出土遺物実測図7



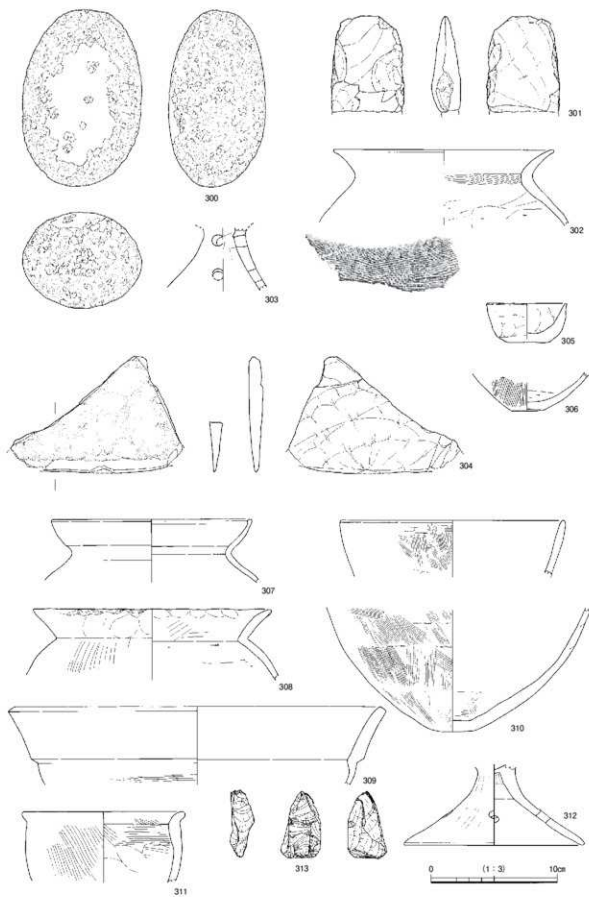
第 52 图 第 2 次調査 出土遺物実測図 8



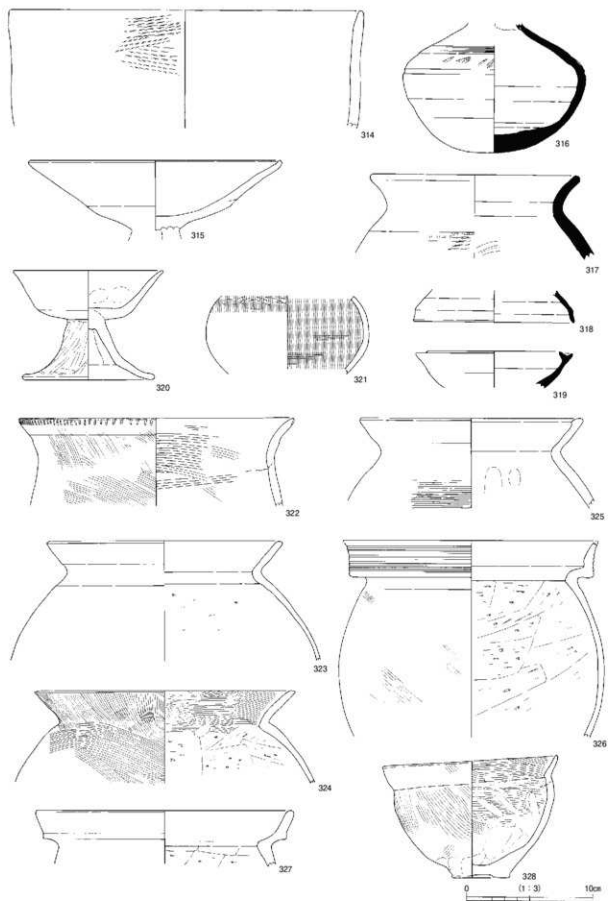
第53図 第2次調査 出土遺物実測図9



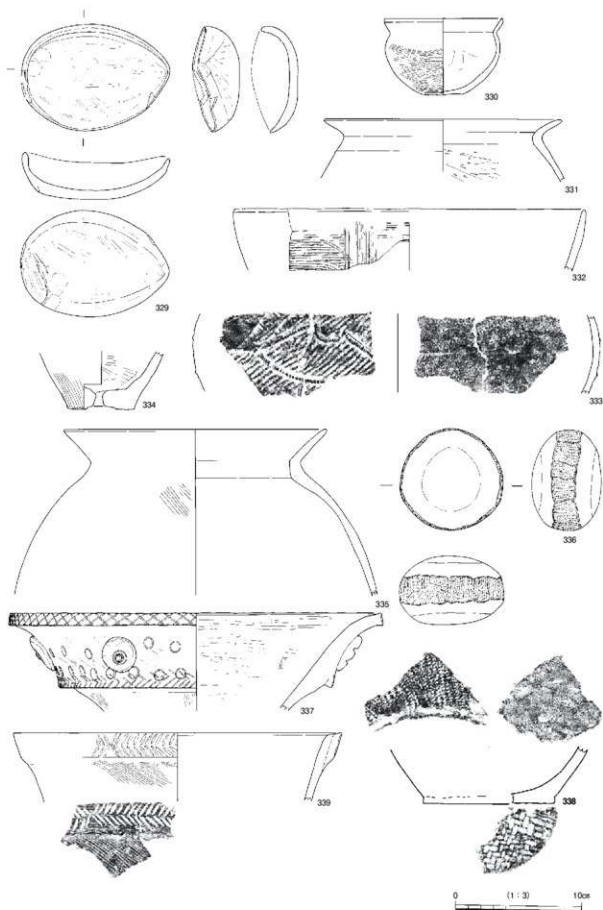
第54图 第2次調査 出土遺物実測図10



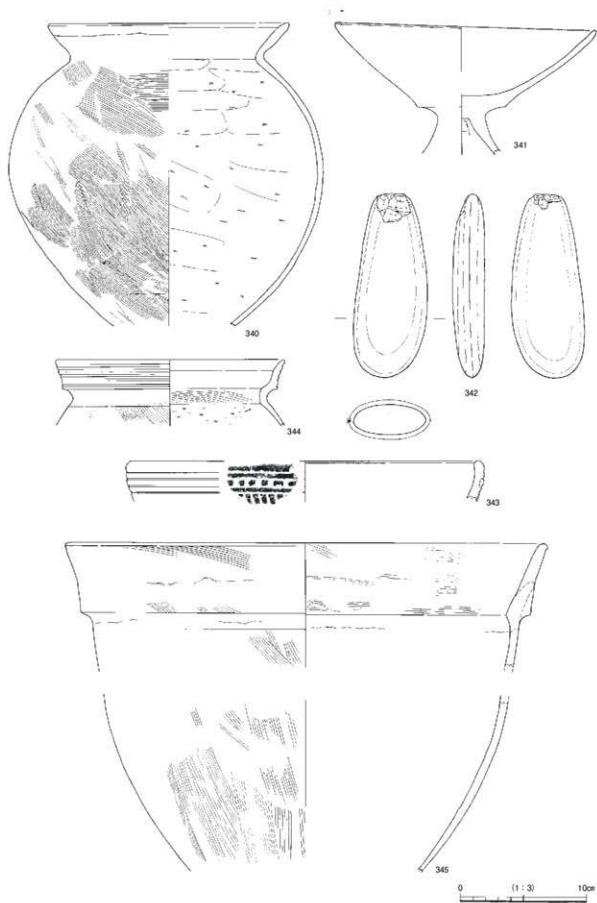
第 55 图 第 2 次調査 出土遺物実測図 11



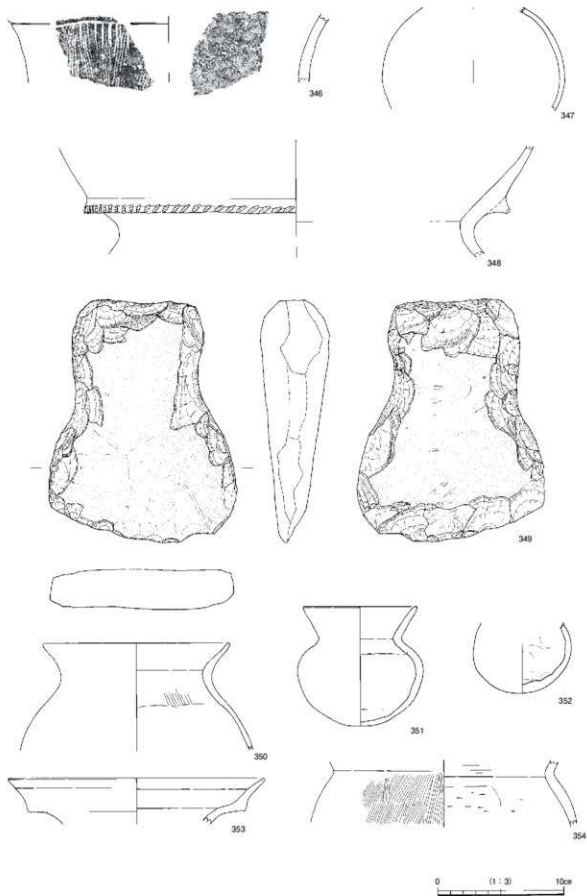
第56图 第2次調査 出土遺物実測図12



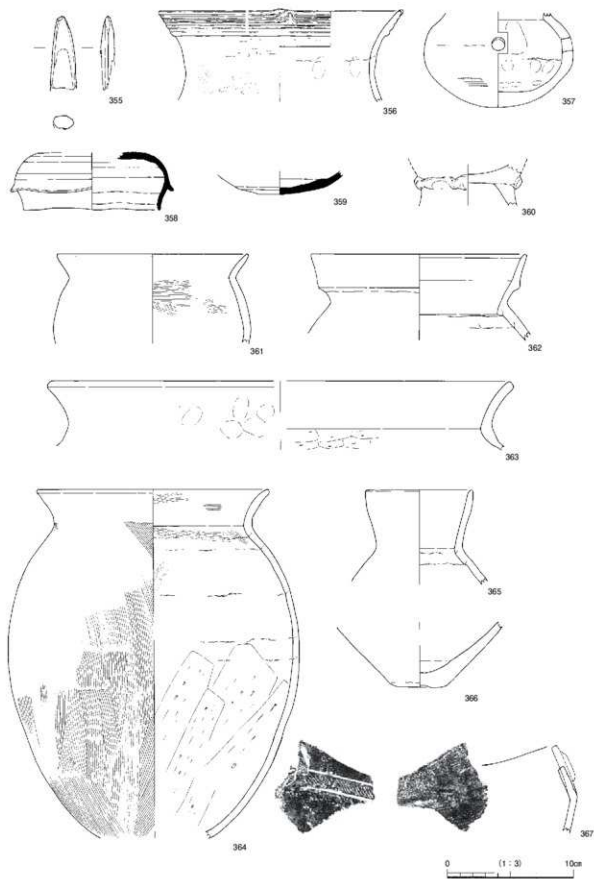
第57图 第2次調査 出土遺物実測図13



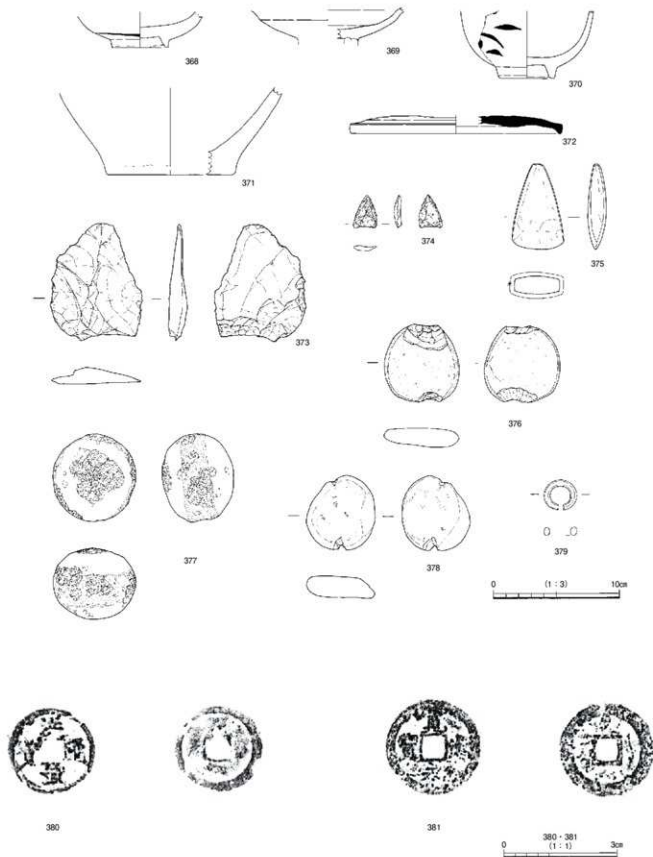
第58图 第2次調査 出土遺物実測図14



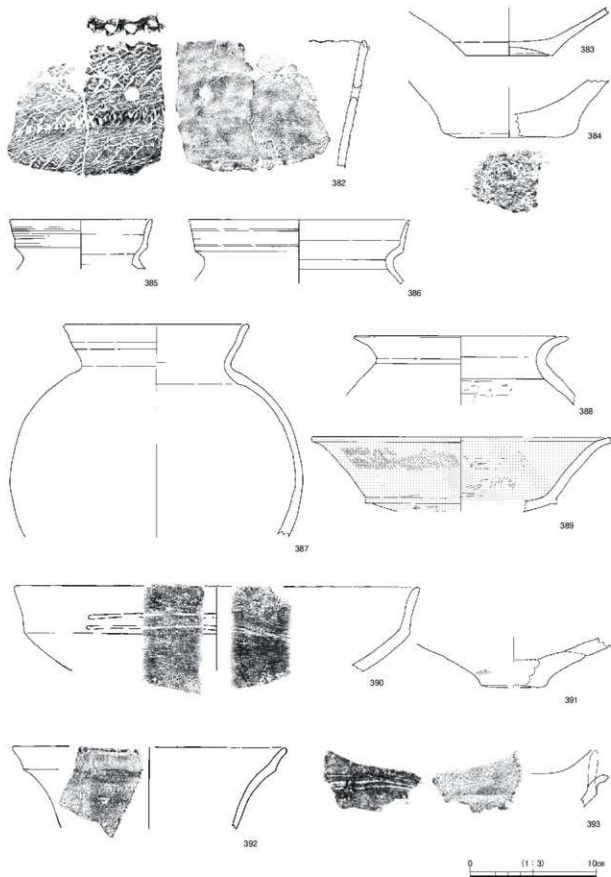
第59図 第2次調査 出土遺物実測図15



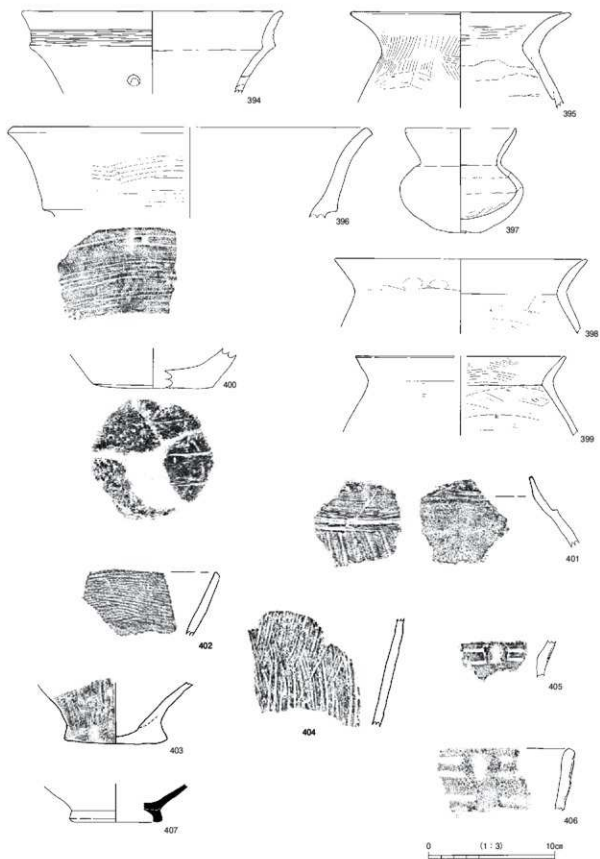
第60图 第2次調査 出土遺物実測図16



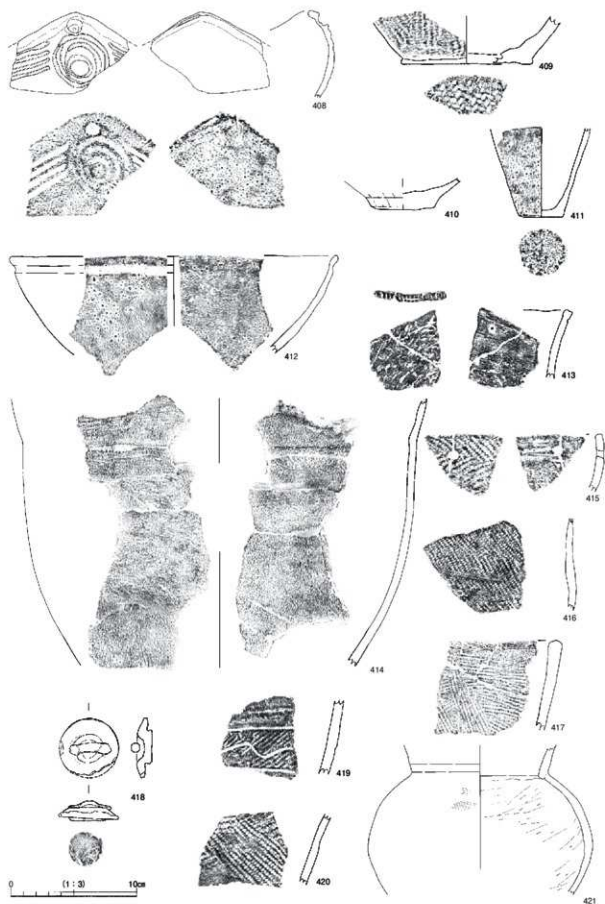
第61図 第2次調査 出土遺物実測図17



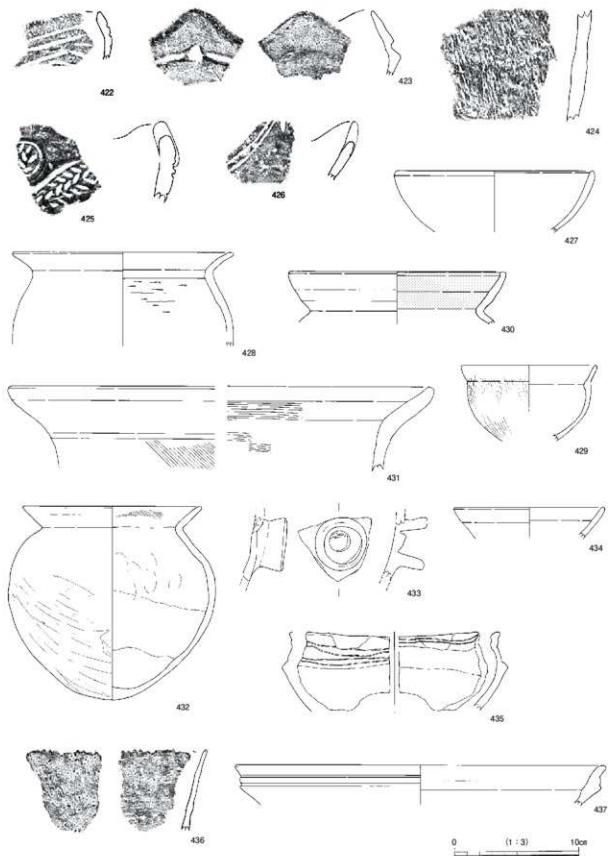
第 62 图 第 3 次調査 出土遺物実測図 1



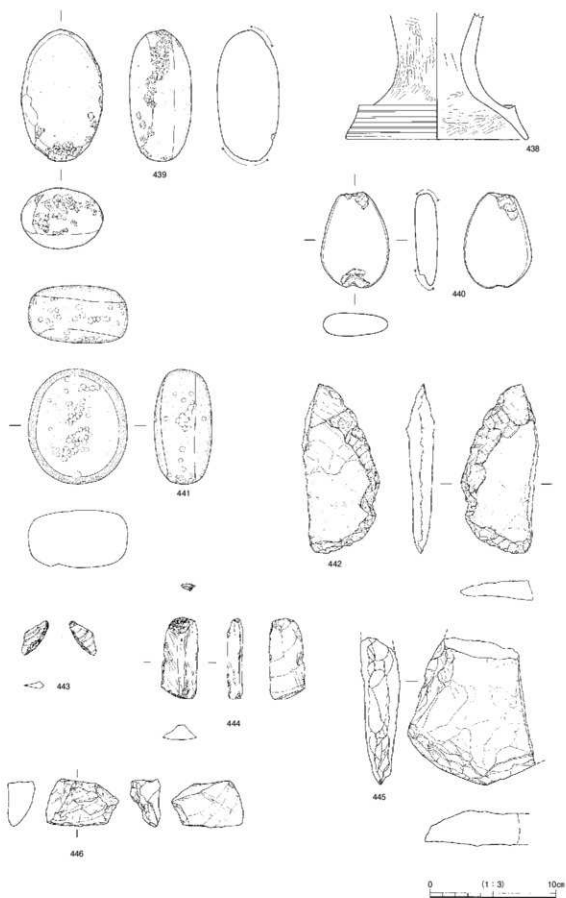
第63図 第3次調査 出土遺物実測図2



第64图 第3次調査 出土遺物実測図3



第65图 第3次調査 出土遺物実測図4



第66图 第3次调查 出土遗物实测图5

第1表 土器・陶磁器観察表1

観測 番号	年度	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	塗料		遺存度	その他
								内	外		内	外		
1	D7	第11区 中央～東 青灰砂土層～中層 No.7	製土器	平底		7.8	(2.9)	緑	緑	砂粒多	ハケ	タテリ、ナデ	底面1/12	
2	D5	第11区 中央～東 青灰砂土層～中層	製土器	平底		8.4	(2.9)	赤褐	緑	砂粒多、小礫	ハケ	指ナデ、指面 内面、タテリ	底面9/12	
3	D9	第11区 中央～東 青灰砂土層～中層	製土器	平底		13.6	(3.9)	緑	緑	砂粒多	ハケ	指面正直	底面3/12	
4	D8	第11区 中央～東 青灰砂土層～中層	製土器	平底		11.9	(4.1)	緑	緑	砂粒多	ナデ、ハケ	指面正直		
5	D6	第11区 中央～東 青灰砂土層～中層	製土器	土脚	支脚	18.4	(8.8)	黄緑	黄緑	砂粒多、赤色粒	指面正直、 ハケ	ナデ、指ナ デ、指面正直	口縁1/12	
6	D12	第11区 中央～東 青灰砂土層～中層	土器器	支脚		8.0	(6.9)	緑	緑	細砂、砂粒	横方向のナ デ	エガキ	底面3/12	
7	D17	第11区 中央～東 青灰砂土層～中層	赤恵忠	蓋	平面	16.4	(3.0)	灰黄	灰	コクロナデ	ケズリ、 口コロナデ	口縁2/12	蓋ね焼き痕	
8	D199	第11区 中央 青灰砂層 No.17	土器器	甕	高外	16.0	(9.0)	緑	緑	砂粒多	ハケ	口縁1/12		
9	D23	第11区 中央 青灰砂層 No.19	土器器	高外	16.2	(1.6)	黄緑	黄緑	細砂少	不明	ココナデ、新 なナデ	口縁1/12		
10	D26	第11区 中央 青灰砂層 No.20	赤恵忠	坏弁	14.2	(1.3)	暗灰	暗灰	砂粒、石黄	コクロナデ	コクロナデ、 ケズリ?	口縁2/12		
11	D25	第11区 中央 青灰砂層 No.20	赤恵忠	高外	10.0	(4.4)	暗灰	灰	細砂多	コクロナデ	コクロナデ	底面3/12		
12	D19	第11区 中央 青灰砂層 No.19	土器器	江口 跡	21.0		黄	黄緑	砂粒	横方向のナ デ	ナデ、ハケ	口縁3/12		
13	D194	第11区 中央 青灰砂層 No.19	土器器	甕		7.0	(4.2)	灰白	黄緑	砂粒、焼土塊	ナデ	ナデ、タテ リ	底面4/12	
14	D18	第11区 中央 青灰砂層 No.19	土器器	支脚		6.2	(5.4)	緑	緑	砂粒多	ナデ、 指面正直	指面正直	底面2/12	
15	D11	第11区 中央 青灰砂層 No.19	土器器	支脚		6.0	(3.9)	緑	緑	細砂多	不明	指面正直	底面2/12	
16	D195	第11区 中央 青灰砂層 No.20	土器器	土脚		5.3	8.8	灰白	灰白	砂粒多、焼土塊	工具による ナデ?	工具による ナデ?		へう記号あり、中が5/6あり
17	D192	第11区 中央 青灰砂層 No.20	土製品	土練				灰白	砂粒、透明粒	指ナデ				
18	D179	第11区 中央 青灰砂層 No.20	土器器	土脚					にぎみ	粗砂定				最大径1.7cm 最大幅3.8cm 最大厚1.4cm 重量12g
19	D13	第11区 青灰砂下層 薬圃一區 No.9	土器器	蓋	8.6	(1.1)	黄褐～ 灰黄		砂粒	ナデ	ココナデ、 ハケ	口縁2/12		
20	D18	第11区 青灰砂下層 薬圃一區 No.9	土器器	高外	11.5	(6.9)	灰黄褐～ 黒		細砂の細砂、赤色 粒	不定方向の ナデ	エガキ、 ココナデ	底面2/12	外面黒炭	
21	D22	第11区 青灰砂下層 薬圃一區 No.8	土器器	器台		(9.1)	黄緑	灰黄	細砂、赤色粒	上下方向の ナデ、不定 方向のナデ	不定方向の ナデ、エガ キ		外面黒炭	
22	D15	第11区 薬圃 青灰砂層 No.11	赤恵忠	坏弁		(4.3)	灰黄	黄緑	細砂、赤色粒	コクロナデ	コクロナデ	体面1/12		
23	D27	第11区 西側 灰砂層 No.15	赤恵忠	甕		11.8	(1.9)	灰	灰	砂粒少	コクロナデ	コクロナデ、 へう記号	底面2/12	
24	D28	第11区 西側 灰砂層 No.15	製土器	支脚		7.0	(4.4)	灰黄褐	黒	砂粒多	工具による ナデ、タテ リ	不明	底面1/12	
25	D29	西ス 青灰砂層 No.15	製土器	土脚		13.6	(9.3)	黄緑	黄緑	砂粒、赤色粒	ナデ、ハケ	ハケ、指ナ デ、ケズリ	口縁2/12	
26	D29	第11区 西側 青灰砂層 No.3	製土器	支脚		5.6	(4.8)	緑	緑	砂粒	工具による	不明		
27	D30	第11区 青灰砂下層 No.4	土器器	甕	16.0	(1.8)	黒褐	黒	砂粒	ココナデ、 横方向のナ デ	ココナデ	口縁3/12	外面黒付着	
28	D31	第11区 青灰砂下層 No.5	土器器	甕	16.5	(4.1)	黄緑	黄緑	細砂、砂粒少	ココナデ、 ケズリ	ココナデ	口縁3/12		
29	D16	第11区 青灰砂下層 No.5	赤恵忠	蓋	14.0	(4.2)	灰	灰	砂粒多、小礫	不定方向の ナデ、コク ロナデ	同様にケズ リ、コクロナ デ、沈着	口縁1/12	外面黒炭	
30	D14	第11区 青灰砂下層 No.5	赤恵忠	蓋		(5.5)	灰	灰	砂粒	ココナデ、 コクロナデ	ナデ、沈着 跡			
31	D30	第11区 青灰砂下層 No.6	赤恵忠	高外	12.2	(7.8)	黄	黄	砂粒	指ナデ、 ココナデ	工具による ナデ、ココ ナデ	底面1/12		
32	D1	第21区 50区 薬下層 No.24	土器器	甕		(13.1)	灰	灰	砂粒多	タテリ、ナ デ	タテリ、ナ デ		外面上部黒炭	
33	D31	第21区 50区 薬下層 No.27	土器器	長脚 甕	19.4	(14.5)	緑	緑	細砂多	ココナデ、 コクロナデ	ココナデ、 タテリ、ナ デ	口縁2/12		
34	D33	第21区 51区 薬下層 No.29	赤恵忠	甕		(4.4)	暗灰	暗灰	砂粒少	ナデ、 コクロナデ	コクロナデ、 ケズリ			
35	D36	第21区 53区 薬下層 No.49	赤恵忠	坏弁	11.4	(3.3)	灰	灰	砂粒少	コクロナデ	コクロナデ、 ケズリ	口縁2/12		
36	C127	第21区 52区 薬下層 No.45	土器器	甕	16.8	(9.4)	灰黄	灰黄緑	砂粒多、赤色粒	ナデ、ケズ リ	指面正直、 ナ デ、ハケ	口縁2/12	外面黒付着	
37	C138	第21区 52区 薬下層 No.48	土器器	甕	16.6	(5.0)	灰黄	黒	砂粒多	ハケ、ケズ リ	ココナデ、 ハ ケ	口縁2/12	外面黒付着	
38	C139	第21区 55区 薬下層 No.56	土器器	甕	13.6	(6.8)	灰黄褐	黒	砂粒多	ハケ、ケズ リ、指面 正直	ナデ、ハケ	口縁1/12	外面黒付着	
39	D27	第21区 52区 薬下層 No.43	土器器	甕	11.0	(3.7)	黄緑	黄緑	砂粒、石黄少	コクロナデ	コクロナデ、 ケズリ、 指面正直	口縁1/12		
40	D38	第21区 52区 下層 No.37	製土器	支脚		8.7	(6.7)	黄緑	黄緑	砂粒	ケズリ?	工具に沈着 方向のナデ	底面3/12	
41	D31	第21区 52区 下層 No.37	製土器	支脚		8.3	(7.0)	緑	緑	砂粒	工具による ナデ、ナ デ	工具に沈着 方向のナデ	底面4/12	
42	D32	第21区 52区 下層 No.35	甕前	器鉢	35.0	(16.3)	黄緑	黄緑	小礫少	コクロナデ	コクロナデ	口縁2/12		
43	D35	第21区 54区 下層 No.50	赤恵忠	蓋	12.2	(3.7)	灰	灰	砂粒多	コクロナデ	コクロナデ、 ケズリ	口縁1/12		

第2表 土器・陶磁器観察表2

観測 番号	年次	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	装飾		保存度	その他	
								内	外		内	外			
44	D05	33-1-51区 地下層	土師器	小壺	6.1	4.3	6.1	灰白	灰白	砂粒多、白磁、焼 土焼	ナデ、上白	ナデ	口縁1/12 底面1/12		
49	D197	第11-1中央部 青灰砂粒No.19	土師器	埴ケ	9.0	6.2	10.5	浅黄緑	黄緑	砂粒	工具による ナデ	ナデ、ケズリ 白、粗砂粒	底面4/12		
50	D04	31-11-1中央部 青灰砂粒上面	土師器	手捏 ハ	7.5	3.1	3.8	緑	緑	砂粒、白磁、 赤色粒	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	先形		
51	C140	第27-1	土師器	壺	16.8		(10.2)	黄緑	灰黄緑～ 黄	砂粒多、赤色粒	コナナデ、 ケズリ	陶器類、コ ナナデ、ハケ	口縁1/12	外面覆付着	
52	D3	第33-1 青灰砂下層 東側一帯No.19	土師器	高杯	15.3	10.5	10.8	緑	緑	砂粒多、赤色粒	コナナデ、 ケズリ	コナナデ、器 類によるナ デ、ハケ、ナ デ、コナナ デ	口縁1/12 底面4/12		
53	D47	1区 第33-1 52区下層 No.62	赤恵器	高杯	11.0	11.1	4.3	灰	灰	細砂、砂粒多、小 礫少	コナナデ、 99%状況 痕	コナナデ	口縁 11/12 底面劣形		
54	D41	1区 第33-1 52区下層 No.65	赤恵器	高	13.5		4.8	灰	灰	砂粒多	コナナデ、 ヘラケズリ、 泥漚	コナナデ、 ヘラケズリ、 泥漚	口縁4/12		
55	D02	1区 第33-1 52区下層 No.62	赤恵器	杯身	12.6	7.2	4.4	灰白	灰白、灰	砂粒、白磁	コナナデ、 ヘラケズリ	コナナデ、 ヘラケズリ、 和陶へウツ リ	口縁 10/12 底面劣形	自然熱、ヘウツリ等あり	
56	C136	1区 第33-1 52区下層 No.62	土師器	壺	(21.0)	(6.5)		黄緑	黄緑	砂粒多	コナナデ、 ケズリ	陶器類、コ ナナデ、ハケ	口縁1/12		
57	C135	1区 第33-1 52区下層 No.62	土師器	壺	13.0	(6.6)		黄緑	灰黄緑	砂粒	ナデ、ケズリ	陶器類、 ナデ	口縁2/12		
58	D42	1区 第33-1 52区下層 No.62	土師器	高杯	15.8		(1.6)	細砂、砂粒多			ニギキ、ハ ケ、コナナ デ	ニギキ	口縁2/12		
59	D01	1区 第33-1 50区下層 No.68	赤恵器	杯身	10.8	5.8	4.4	灰白	灰白	砂粒	コナナデ、 ナデ	コナナデ、 ヘラケズ リ、和陶へ ウツリ	口縁5/12		
62	D4	1区 第33-1 S02 土器 No.1、No.9	土師器	壺			(21.0)	黄緑	黄緑	砂粒多、小礫少	コナナデ、 10%目、ケズ リ、自然によ りナデ、ケズ リ	コナナデ、ハ ケ、ナデ		外面下部黒染	
63	D08	1区 第33-1 S02 No.58	土師器	壺			(10.1)	灰黄緑	灰黄	細砂、砂粒、赤色 粒	ニギキ	ニギキ	口縁10/12		
64	D54	1区 第33-1 S02 No.1 No.58	土師器	高杯	15.8		(1.8)	灰黄	灰黄	細砂多、砂粒、赤 色粒	ニギキ、 コナナデ	ニギキ、 コナナデ	口縁4/12		
65	D50	1区 第33-1 S02 No.1 No.58	赤恵器	無台 杯		9.2	(2.1)	黄緑	黄緑	細砂、砂粒	コナナデ	コナナデ、 ヘラケズリ	底面4/12		
66	D52	1区 S02 No.192	赤恵器	高杯	11.4	9.7		灰白	灰白	細砂、石英	コナナデ、 ナデ	コナナデ、 ケズリ	底面4/12、 器身4/12		
67	D53	1区 第33-1 S02四辺 No.61	土師器	壺	17.0		(11.7)	緑	緑	砂粒、石英	陶器類、 ケズリ	コナナデ、 ハケ	口縁4/12		
68	D44	1区 第4小-1号土器 No.124	縄文 土師器	深鉢			(8.3)	灰黄緑	黒褐	砂粒多、小礫多、 赤色粒	手織竹管、 織文、ナデ		小片		
69	D7	1区 第4小-1号土器 器身No.90	縄文 土師器	浅鉢	20.2		(7.5)	灰黄	浅黄緑	砂粒、小礫、赤色 粒	条痕、ナデ	条痕	口縁1/12	外面覆付着、口縁状	
70	D6	1区 第4小-1号土器 器身No.98	縄文 土師器	深鉢	35.0		(7.0)	黄緑	浅黄緑	砂粒	ナデ	条痕	口縁1/12	口縁状	
71	D5	1区 第4小-2号土器 器身No.72	縄文 土師器	深鉢	31.0		(10.1)	黄灰	黄灰	砂粒、小礫多	条痕、ナデ	条痕	口縁1/12	外面覆付着	
73	C139	1区 第4小-2号土器 器身No.1、No.9	縄文 土師器	有台 鉢		9.9	(1.9)	灰黄	灰黄	砂粒多	ケズリ、 指組痕	ハケ、 指組痕	底面 10/12		
74	75	C133	1区 第4小-2号土器 器身No.9、No.100	土師器	壺	17.0	3.1	(8.5-8.6)	灰黄	灰黄	砂粒多、赤色粒	コナナデ、 ケズリ	コナナデ、ハ ケ、コナナ デ	口縁3/12 底面劣形	外面黒染
76	C128	1区 第4小-2号土器 器身No.3、No.9	土師器	壺	15.2		(11.9)	黄緑	黄緑	砂粒多、小礫少	ハケ目、ナ デ	コナナデ、 ナデ、コナ ナデ	口縁2/12		
77	D76	1区 第4小-2号土器 器身下層No.103	縄文 土師器	鉢		9.5	(3.6)	増灰黄	増灰黄	砂粒多、細砂粒	条痕、 ナデ	条痕? ナデ	底面劣形		
78	C123	1区 第4小-1号溝 No.107	弥生 土師器	壺	16.2		(4.1)	黄灰	黄灰	砂粒多	コナナデ、 ナデ、ケズリ	コナナデ、 ナデ	口縁2/12		
79	D77	1区 第4小-1号溝 No.113	土師器	壺	15.8		(9.7)	黄灰	黒、黄灰	砂粒、透明粒	コナナデ、 ケズリ	コナナデ、 ヘラケズリ	口縁1/12		
80	C124	1区 第4小-1号溝No.116	土師器	壺	14.6		(3.1)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多、赤色粒少	ニギキ	ニギキ	口縁2/12		
81	D103	1区 第4小-1号溝No.114	土師器	壺	16.2		(5.0)	黄緑	黄緑	砂粒、粘土塊	不明	不明	口縁2/12		
82	D93	1区 第4小-1号溝No.108	土師器	壺	11.2		(6.0)	黄緑	黄緑	砂粒、細少、赤色 粒少	コナナデ、 ナデ	コナナデ、 ナデ	口縁2/12		
83	C128	1区 第4小-1号溝No.114	土師器	器身		11.9	(4.3)	黄緑	緑	砂粒多、赤色粒少	ナデ	ナデ	底面3/12		
84	D72	1区 第4小-1号溝No.109	土師器	壺	11.6	4.0	5.7	浅黄緑、 黄灰	浅黄緑、 黄灰	砂粒、透明粒、 陶灰	コナナデ	コナナデ、 陶灰未切	口縁2/12 底面劣形		
85	D78	1区 第4小-1号溝No.113	赤恵器	無台 杯	12.0	8.2	3.3	灰	灰	砂粒多、白磁少	コナナデ	コナナデ、 和陶へウツ リ	口縁1/12 底面劣形		
86	D101	1区 第4小-1号溝No.114	赤恵器	有台 杯		9.2	(1.3)	灰	青灰	砂粒	コナナデ	コナナデ、 和陶へウツ リ	底面3/12		
87	D104	1区 第4小-1号溝No.109	土師器	壺		8.2	(2.0)	灰白	緑	砂粒、透明粒、 赤色粒少	コナナデ	コナナデ	底面劣形		
89	D07	1区 第4小-西側1号溝 床土および縄文層 No.120	縄文 土師器	深鉢			(9.2)	灰黄緑	灰黄緑	砂粒、細少、透明 粒	ナデ	手織竹管	小片		
90	C125	1区 第4小-1号溝東面 磁器部底No.121	土師器	高杯		12.4	(8.2)	黄灰	黄灰	砂粒少、細砂多、 赤色粒少	10%目、 ケズリ、 ハケ目、ナ デ	ニギキ	底面4/12		

第3表 土器・陶磁器観察表3

観測 番号	調査 番号	年次	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調剤		遺存度	その他
									内			外			
									内	外		内	外		
91	C129	1区	第4小-1 土器蓋上の No.5, No.9	土師器	甕	19.9		16.9	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多、小礫、 赤色粒	不明	不明	口縁6/12	
92	D109	1区	第4小-1 土器蓋上の No.73	土師器	甕	16.8		13.9	黄緑	黒、黄緑	砂粒、焼土塊	コナナダ、 ナダ	コナナダ	口縁1/12	外面煤付着
93	C134	1区	第4小-1 土器蓋上の No.75	土師器	甕		9.8	13.8	灰黄緑	灰黄	砂粒多、赤色粒	ケクリ	ハケ、ナダ	底部先形	外面黒染
94	C127	1区	第4小-1 須口 土器蓋上の No.82	土師器	甕	18.4		14.0	黄緑	黄緑	砂粒多、小礫多	コナナダ?	コナナダ	口縁 16/12	
95	C131	1区	第4小-1 土器蓋上の 須口 No.82	土師器	甕	15.2		17.7	黄緑	黄緑	砂粒多	ナダ、ハケ、 ナダおひ	コナナダ、 ハケ、ナダ	口縁1/12	
96	C132	1区	第4小-1 土器蓋上の 須口 No.82	土師器	高弁			16.0	浅黄緑	浅黄緑	細砂、赤色粒	ナダ	ナダ?	ナダ、 ヒガキ	三方透かし
97	D15	1区	第4小-1 土器蓋上の 須口 No.82	縄文土器	深鉢		7.6	14.1			砂粒多、礫少、 焼土塊	ナダ、赤飯	ナダ、赤飯	底部先形	
98	D216	1区	第4小-1 縄文 No.3	縄文土器	深鉢	25.2		16.0	灰黄緑	灰黄緑	砂粒、小礫	ナダ、 指押さえ	赤飯	口縁1/12	
99	D207	1区	第4小-1 西スミ 埴輪 土層 下の砂層 (縄文層) No.166	縄文土器	深鉢				黄緑	黒灰	砂粒、少礫	工具による ナダ?	工具による ナダ?	小片	外面煤付着
100	D8	1区	第4小-1 西スミ 埴輪 土層 下の砂層 (縄文層) No.168	縄文土器	浅鉢	16.7		16.2	黒灰	黒灰	砂粒	ナダ	ナダ	口縁1/12	外面煤付着
101	D90	1区	第4小-1 西溝 埴輪 粘土層 下の砂層 (縄文層) No.169	縄文土器	深鉢			16.3	黄緑	黄緑	砂粒、細砂粒、 焼土塊	ナダ? 赤 飯?	赤飯、 瓜形文?		
102	D99	1区	第4小-1 西溝 埴輪 粘土層 下の砂層 (縄文層) No.169	縄文土器	鉢?			11.3	灰黄緑	灰黄緑	砂粒、細砂粒、焼 土塊	工具による ナダ?	赤飯		
103	D40	1区	第4小-1 西溝 埴輪 粘土層 下の砂層 No.165	縄文土器	浅鉢			13.7	黒灰	黒灰	砂粒	新灰文、 平行沈線 1本	ナダ、 新灰文		
104	D91	1区	第4小-1 西溝 埴輪 粘土層の砂層 (縄文層) No.166, 168	弥生土器	甕	19.6		12.9	黄緑	黄緑	砂粒、礫少、焼土 塊	赤飯、ナ ダ、貝殻 練	ナダ、 貝殻練 練 新灰文	口縁2/12	
105	D209	1区	第4小-1 西スミ 埴輪 粘土層 下の砂層 (縄文層) No.169	縄文土器	深鉢				暗灰黄	暗灰黄	砂粒、透明粒	工具による ナダ?	縄文	小片	外面煤付着
106	D200	1区	第4小-1 西スミ 埴輪 粘土層砂層 (縄文層) No.166	縄文土器	鉢	25.2		16.3	灰黄緑	灰黄緑	砂粒、透明粒	工具による ナダ	ナダ、 指押さえ	口縁1/12	
107	D98	1区	第4小-1 西溝 埴輪 粘土層 下の砂層 (縄文層) No.165, 166	縄文土器	鉢?		8.8	13.7	暗灰黄	暗灰黄	砂粒、礫少	赤飯? 工 具による ナダ?	縄文、網代	底部6/12	
108	D92	1区	第4小-1 西溝 埴輪 粘土層 下の砂層 (縄文層) No.165	縄文土器	鉢?		4.8	15.0	灰黄緑	灰黄緑	砂粒、礫少、 透明粒	赤飯?	赤飯、 ナダ、 瓜形文	底部先形	
110	D43	1区	第4小-1 縄文 No.2 No.161	縄文土器	深鉢	25.6		18.0	灰黄緑	灰黄緑	砂粒多	コナナダ	赤飯	口縁1/12	
111	D36	1区	第4小-1 縄文 No.2 No.161	縄文土器	深鉢			13.8	黒灰	黒	砂粒多	ナダ	コナナダ、 赤飯	小片	外面煤付着
112	D208	1区	第4小-1 西スミ 埴輪 粘土層 下の砂層 (縄文層) No.166	縄文土器	深鉢	20.1		15.0	灰黄緑	灰黄緑	砂粒、少礫、透明 粒	工具による ナダ?	工具による ナダ?	口縁1/12	
113	D45	1区	第4小-1 縄文 No.3 No.161	縄文土器	深鉢			11.8	灰黄緑	灰黄緑	砂粒多、小礫多	ナダ	赤飯	小片	
114	D39	1区	第2小-1 臥区 釜下層 No.34	弥生土器	甕			17.0	灰	灰	砂粒、石英	タタキ	タタキ		
115	D99	1区	第4小-1 1~3層 No.140	土師器	甕			14.9	浅黄緑	浅黄緑	砂粒、黒炭屑	コナナダ?	コナナダ?		
116	D87	1区	第4小-1 中央部含層 No.132	弥生土器	外弁	13.9	8.0	3.4	灰白	灰白	砂粒	コナナダ?	コナナダ?	口縁1/12 ナダ、斜紋 ?の跡ナダ	
117	D49	1区	第1調査区1区-1 北側第6.7層 No.154	土師器	甕	12.0		19.8	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多、赤色粒	指間直線	ハケ	口縁3/12	外面煤付着
118	D193	1区	第4小-1 4~5層 No.156	土師器	甕	14.1		17.7	浅黄緑	浅黄緑	砂粒	コナナダ、 ケ	コナナダ、 ハケ	口縁3/12	
119	D96	1区	第4小-1 包含層 No.131	土師器	大型甕	26.4		19.3	黄緑	黄緑	砂粒多、小礫少、 透明粒、焼土塊	コナナダ?	コナナダ?	口縁1/12	
120	D98	1区	第4小-1 西溝包含層 No.135	弥生土器	甕	17.8		15.7	黄灰	黄灰	砂粒、細砂粒、 透明粒	赤飯?	赤飯? ナ ダ?	口縁1/12	
121	D68	1区	SS01 No.176	弥生土器	蓋	12.2		3.9	灰白	灰白	砂粒、白礫	コナナダ?	コナナダ?	口縁1/12	ゆいみみあり
122	D70	1区	SS01 No.174	弥生土器	蓋	11.8		1.4	灰白	灰白	砂粒多、白礫	コナナダ?	コナナダ?	口縁2/12	
123	D71	1区	SS01 No.174	弥生土器	外弁	9.8		12.7	灰白	灰	砂粒	コナナダ?	コナナダ?	口縁2/12	
124	D72	1区	SS01 No.174	弥生土器	外弁	11.0		13.8	灰白	灰白	砂粒多、 赤色酸化鉄多	コナナダ?	コナナダ?	口縁3/12	へう記号か? 自然熱
125	D101	1区	SS01 No.174	弥生土器	蓋	12.6		12.8	灰	暗灰、灰 灰白、灰	砂粒、白礫	コナナダ?	コナナダ?	口縁3/12	自然熱、ゆいみみあり
126	D74	1区	SS01 No.174	弥生土器	蓋		3.0	16.3	灰	灰白、灰	砂粒	コナナダ?	コナナダ?	底部3/12	自然熱
127	D69	1区	SS01 No.176	弥生土器	蓋	12.6		3.9			砂粒、白礫	コナナダ?	コナナダ?	口縁3/12	へう記号あり、ゆいみみあり、 自然熱
128	D97	1区	SS01 No.170	土製品	土師				橙、灰白	砂粒、焼土塊				指にによるナ ダ?	最大径2.5cm最大幅1.5cm最大厚 5.1cm孔径1.6cm重量166g
129	D102	1区	SS01 No.174	土師器	甕	23.7		16.5	黄緑	黄緑	砂粒	コナナダ、 ケ	コナナダ、 ハケ	口縁6/12	
130	D1	1区	SS01 No.174	弥生土器	甕	18.8	10.8	20.3	灰白	灰白	砂粒多	コナナダ?	コナナダ?	ほぼ先形	
131	D98	1区	SS02 須口 No.172	土師器	甕	9.7	4.6	3.1	灰白	灰白	砂粒、赤色粒少	コナナダ?	コナナダ?	口縁3/12	赤記号? (煤粒)

第4表 土器・陶磁器観察表4

観測 番号 番号	年次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調剤		遺存度	その他
								内	外		内	外		
132	D79	302岡町 No.172	東志部	有台 杯		7.0	(3.2)	灰	灰	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 田楽赤胎	底面2/12	
133	B9	Ⅰ区No.206	縄文土器	深鉢	31.0	(23.8)	灰黄緑	灰黄	砂粒多	ナデ、赤胎 赤胎多	土器赤、赤胎	口縁1/12	外面覆付着、内面9ヶ付着	
134	D02	Ⅰ区No.21	土師器	皿	12.0	9.6	3.6	灰白	灰白	砂粒極、赤色胎少	不明	不明	口縁少/12	
135	D198	Ⅰ区 140 青灰砂土 No.2	土師器	鉢	18.8	(3.7)	黄緑	黄緑	砂粒	ロクロナデ、 赤胎	ロクロナデ、 赤胎	口縁1/12		
136	D94	Ⅰ区No.211	土師器	壺	16.8	(6.2)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒少、赤色胎	不明	不明	口縁少/12		
137	D64	Ⅰ区No.210	土師器	壺	11.6	(3.3)	黄灰	黄灰	小砂少、砂粒	黒いハタケ ナデ	黒いハタケ ナデ	口縁少/12		
138	D59	Ⅰ区No.210	土師器	壺	11.8	(6.7)	灰白	黄緑	砂粒	ハタケ、黄胎 比類、ココナ デ	ハタケ	口縁少/12		
139	D208	Ⅰ区No.210	土師器	壺	12.0	(3.2)	黄灰	黄灰	砂粒多	ココナデ、 ケズリ	ココナデ、 ケズリ	口縁1/12		
140	D60	Ⅰ区No.210	土師器	深台	9.4	(6.9)	灰白	灰白	焼土塊、赤色胎、 砂粒多	不明	ハタケ	底部少/12	孔数不明	
141	D56	Ⅰ区No.210	土師器	壺	16.8	(6.4)	灰白	灰白	細砂、赤色胎少	ハタケ、ケズリ	ハタケ	口縁少/12		
142	D63	Ⅰ区 表段 No.196	縄文土器	深鉢			黒胎	黒胎	小砂多	ナデ	ココナデの ナデ、赤胎	小片	外面覆付着、口縁波状	
143	D55	Ⅰ区No.187 56～57表土	東志部	高	11.8	2.8	灰白	灰白	細砂少、 赤色胎化粒多	ロクロナデ、 ナデ	ロクロナデ、 ココナデ後へ ナデによる 調整ナ	口縁少/12	外面自然剥	
144	D56	Ⅰ区No.187 56～57表土	東志部	杯身	11.0	(3.0)	灰	灰	石灰質粒、 赤色胎化粒	ロクロナデ、 ナデ	ロクロナデ、 ナデ	口縁少/12		
145	D96	Ⅰ区 50～55 表土 No.190	土製品	土縄					砂粒、細砂、石質 少	指に上るナ デ	江口型ナ デ	小片	最大径6.0cm最大幅3.2cm 最大厚3.3cm孔径1.2cm 重量66g、黒胎	
146	D95	Ⅰ区 50～55 表土 No.190	土製品	土縄					砂粒、小砂少、 赤色胎少	指に上るナ デ	先形	小片	最大径10.8cm最大幅4.2cm 最大厚4.0cm孔径1.3cm 重量109g	
147	D204	Ⅰ区 表段 No.190	縄文土器	深鉢					砂粒多	ナデ	縄文	小片		
148	D201	Ⅰ区 表段 No.190	縄文土器	深鉢					明灰黄	明灰黄	砂粒	ナデ	赤胎	小片
149	D202	Ⅰ区 表段(全周区) No.203	縄文土器	深鉢					黒胎	黒胎	砂粒	土器赤	小片	
150	D203	Ⅰ区 表段 No.190	弥生土器	壺					黄胎	黄胎	砂粒	ナデ	キズミ、 波状文	小片
151	D66	Ⅰ区No.208	縄文土器	深鉢					黄胎	黄胎	砂粒少、赤色胎	ナデ	縄文、竹管 指に上る紅 線、取付後粘 着に目録、網 布施装灰文	小片
152	D205	Ⅰ区 表段 No.190	縄文土器	深鉢					黄胎	黄胎	砂粒少	ナデ	小片	口縁波状
153	D62	Ⅰ区 表段 No.190	縄文土器	壺	11.0	(6.0)	灰褐	灰褐	細砂、砂粒	羅子ナデ、 指に上るココ ナデ、ハタケ	赤胎電鍍な 指に上るココ ナデ、土器赤	口縁少/12	外面覆付着	
154	D196	Ⅰ区 表段 No.198	土師器	深台	8.1	(4.3)	緑	緑	砂粒少	不明	不明	口縁少/12		
155	D65	Ⅰ区 表段 No.178	土師器	壺	10.4	(6.3)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	不明	不明	口縁1/12		
156	D54	Ⅰ区 表段 No.114	土師器	無知底		1.4	7.9	灰白	灰白	砂粒多	ハタケ	ケズリ	口縁少/12	
157	D83	Ⅰ区 川崎 34号調査 No.215	土師器	高	10.3	1.0	7.3	浅黄緑	浅黄緑	砂粒少、焼土塊	ナデ	不明	口縁 4/12、 底部光相	砂粒5ヶあり
158	D61	Ⅰ区 50区下層 No.184	東志部	高	11.6	(3.3)	灰白	灰白	砂粒少	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ	口縁少/12		
159	D156	2区 S32021	土師器	支脚	6.1	(3.5)	灰白、緑	緑	砂粒	不明	不明	底部6/12		
160	D154	2区 S32021	変化器	杯身	11.3	(2.7)	灰白	灰白	砂粒、白色砂	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁1/12		
161	D155	2区 G-7(K S82 8021層)	東志部	壺	13.8	(5.3)	灰	灰	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 沈殿	砂粒5ヶあり		
162	D127	2区 G-7(K S82 802 層下層床面)	有釉	香炉	9.0	(6.6)						口縁1/12	輪、透明がたのたオリブ の小砂り、均一 気泡あり 貫入あり	
163	D117	2区 H-4(K S82 801 灰色砂)	津津	皿	10.6	4.6	3.7					口縁1/12	輪内底面オリブ、外面黄 灰、灰オリブ 均一にたが りていひ、気泡あり 貫入なし、 磨地滑	
164	D121	2区 G-3(K 2層)	東志部	高	(11.8)	(3.8)	灰	灰	砂粒、白色砂	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ	口縁1/12		
165	D166	2区 F-1(K 2層)	土師器	壺	12.0	(8.1)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	不明	不明	口縁1/12	外面に覆付着、黒胎	
166	D199	2区 H-6(2層)	土師器	壺	12.6	(6.1)	緑	緑	砂粒、小砂、透明 粒子、焼土塊	ココナデ、 ケズリ	ココナデ	口縁少/12		
167	D122	2区 F-2(K 2層) 92409下層)	土師器	壺	11.3	(7.5)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒、焼土塊	不明	不明	口縁少/12		
168	D171	2区 F-3(K 2層) 92409下層)	土師器	壺	17.7	(5.0)	明黄緑	黄緑	砂粒多、赤色胎化 粒少	不明、ナデ	不明、ココナ デ	口縁少/12		
169	C119	2区 S20234	土師器	高杯	16.3	(6.6)	黄緑	黄緑	砂粒、透明粒子、 焼土塊	ココナデ	ココナデ、ハ タケ	口縁 1/12		
170	D114	2区 F-4(K 2層～ 器底上)	製土器	平底	9.0	(2.1)	明赤褐	明赤褐	砂粒	ナデ	ナデ	底部2/12		
171	D173	2区 F-3(K 2層)	製土器	平底	11.0	(1.6)	緑	緑	砂粒多	ナデ、指割 3ヶ	ナデ、指割 3ヶ	底部2/12		
172	D113	2区 G-7(K 2層)	製土器	平底	13.4	(2.2)	浅黄緑	緑	砂粒少、透明粒 子、焼土塊	ナデ	ナデ	底部2/12		
173	D168	2区 F-2(K 2層)	製土器	支脚	6.3	(5.0)	緑	緑	砂粒多、小砂少	ナデ	ナデ	底部2/12		
174	D152	2区 16層下	土師器	小型 土器		(3.0)			砂粒、透明粒子	ナデ、指割 1、149	ナデ 指割、底 部変形	口縁 2/12、底 部変形		

第5表 土器・陶磁器調査表5

調査番号	年次	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	装飾		遺存度	その他	
								内	外		内	外			
175	0115	208	G-51K 2層	製土 土器	脚部			緑		磁粒、植土塊				最大径(5.1)cm最大幅 3.5cm最大厚3.0cm	
176	0128	208	F-21K 2層	赤土 土器	蓋		(1.2)	赤黒	赤黒	磁粒少、透明粘土	ナデ			3層年、貝殻 視鏡研究 文マ沈殿	
177	0157	208	208 1層5カ	赤土 土器	蓋		(7.2)	灰	灰	磁粒、白色砂	ロクロナデ			ロクロナデ、 縄文	
178	0186	208	G-31K 2層	赤土 土器	罐		(5.3)	灰	灰	磁粒、縄	ロクロナデ			縄文 ロクロナデ、 3カ、 ナデ	
179	0165	208	F-11K 2層	赤土 土器	蓋	13.1	(2.7)	灰白	灰黄	磁粒少	ロクロナデ			ロクロナデ、 白 縄文	
180	0172	208	F-11K 2層	赤土 土器	蓋		(5.8)	灰	灰	磁粒少	ロクロナデ、 ナデ			ロクロナデ、 ナデ ナデ	
184	C38	208	F-41K SD2022F	土師器	壺	16.0	(3.2)	灰白	灰黄	磁粒、植土塊	ロクロナデ、 ナデ			ロクロナデ、 ナデ	
185	C35	208	F-41K SD2022b	土師器	壺	19.1	(16.3)	緑	緑	磁粒、植土塊	ロクロナデ、 ナデ			ロクロナデ、 ナデ	
186	C14	208	F-41K SD2022a	土師器	高杯	12.4	(4.5)	緑	緑	磁粒、植土塊	ロクロナデ			不明	
187	C13	208	F-41K SD2022a	土師器	高杯	20.8	(3.5)	浅黄緑	浅黄緑	磁粒、小磯、赤色 酸化粒	ロクロナデ			不明	
188	C16	208	F-41K SD2022b	土師器	高杯		(8.7)	浅黄緑	浅黄緑	磁粒、植土塊	不明			不明	
189	C13	208	F-42K SD2023a	土師器	壺	19.0	(4.3)	灰白	灰白	磁粒、植土塊多	ロクロナデ、 ナデ			不明	
194	C38	208	F-41K SD2023	土師器	壺	12.8	(7.0)	灰白	灰白	磁粒、植土塊	不明			不明	
192	C8	208	F-41K SD2023	土師器	壺	11.9	(3.2)	灰黄緑	灰黄緑	磁粒、植土塊	ロクロナデ、 ナデ			不明	
193	C13	208	F-41K SD2023c	土師器	蓋	11.8	(11.4)	緑	緑	磁粒、小磯少、磯 土塊	不明			不明	
194	C9	208	F-41K SD2023c	土師器	高杯		(7.7)	緑	緑	磁粒、植土塊	ナデ、工具 ナデ			不明	
195	C21	208	F-47K SK2001	土師器	壺	19.2	(2.9)	浅黄緑	浅黄緑	磁粒	不明			不明	
196	C22	208	F-47K SK2001	土師器	壺	(31.0)	(5.1)	黄緑	黄緑	赤黄色酸化粒、磁粒	不明			不明	
197	C39	208	F-47K SK2003	土師器	高杯	12.6	(4.3)	浅黄緑	浅黄緑	赤黄色酸化粒、磁粒	不明			不明	
198	C36	208	F-41K SK2007	土師器	壺	21.0	(5.7)	灰白	黄緑	赤黄色酸化粒、細砂	ナデ			不明	
199	C38	208	F-40K SK2121	土師器	壺	17.2	(3.3)	緑	緑	赤黄色酸化粒、磁粒	不明			不明	
200	C29	208	F-41K SK2008	土師器	高杯	16.4	(11.0)	浅黄緑	浅黄緑	磁粒	不明			不明	
201	C27	208	F-40K SK2012	土師器	高杯		(2.6)	赤黒	赤黒	磁粒少	ハタ			不明	
202	C16	208	F-40K SD2014	土師器	壺	21.8	(4.4)	灰白	灰白、黒	磁粒	ナデ			不明	
204	C7	208	D-42K SD2024	土師器	壺		(14.2)	灰白、緑	緑、黒	磁粒、透明粘土、 植土塊	ロクロナデ、 ナデ			不明	
205	C8	208	F-42K SD2024	土師器	手取 おケ	8.7	2.2	4.8	浅黄緑	浅黄緑	磁粒、透明粘土、 植土塊	ナデ			不明
206	C3	208	D-43K SD2026	土師器	蓋	14.2	(6.5)	緑	緑	磁粒、植土塊	指圧直置き			不明	
207	C12	208	D-43K SD2026	土師器	高杯	12.4	(6.8)	灰白	灰白	磁粒、植土塊	不明			不明	
208	C4	208	D-43K SD2026	土師器	高杯		(2.8)	緑	緑	磁粒、細砂、植土 塊	不明			不明	
209	0131	208	F-41K SD2016	土師器	壺	18.8	(3.1)	浅黄	緑～黒	磁粒	ロクロナデ、 ナデ			不明	
210	C1	208	F-41K SD2016	土師器	壺	17.3	(4.3)			磁粒、縄、赤黄色 酸化粒	ナデ、ナデ			不明	
211	C21	208	F-41K P2012	土師器	壺	15.8	(4.8)	黄緑	浅黄緑	磁粒、植土塊	ハテ、ナデ			不明	
212	C24	208	F-41K SK2001	土師器	壺	18.3	(3.7)	緑	緑	赤黄色酸化粒、磁粒	不明			不明	
213	C24	208	C-46K P2030	土師器	小蓋	10.2	(4.2)	灰白	灰白	磁粒多	不明			不明	
214	0108	208	F-42K P2053	土師器	蓋	12.2	(3.8)			磁粒、小磯	不明			不明	
215	C26	208	F-40K P2127	土師器	高杯	22.2	(5.0)	浅黄緑	浅黄緑	磁粒、赤黄色酸化 粒	不明			不明	
216	C22	208	D-44K P2060	土師器	高杯		(2.6)	浅黄緑	浅黄緑	赤黄色酸化粒、砂	不明			不明	
217	C25	208	F-41K P2027	土師器	高杯		(3.5)	浅黄緑	浅黄緑	植土塊、磁粒	不明			不明	
218	C28	208	F-41K SK2011	土師器	高杯	(15.4)	(2.4)			磁粒	不明			不明	
219	C28	208	F-42K P2021	土師器	深付 高杯		(6.2)	浅黄緑	浅黄緑	磁粒、石莖	不明			不明	
220	C23	208	C-43K P2034	土師器	高杯		(7.1)	赤黒	赤黒	細砂	不明			不明	
221	0125	208	F-48 2層ナデ	赤土 土器	壺	25.4	(2.5)	灰	灰	磁粒少	ロクロナデ			不明	
223	C73	208	F-42K 2層	土師器	壺	16.9	(3.9)	緑	黄緑	磁粒多	ロクロナデ、 ナデ			不明	
224	C65	208	F-41K 2層	土師器	壺	17.2	(5.4)	黄緑	黄緑	磁粒多	不明			不明	
225	C49	208	D-43K 2層	土師器	壺	17.3	(3.7)	浅黄緑	黄緑	磁粒多、赤黄色化 粒	ナデ			不明	
226	C57	208	F-41K 2層	土師器	壺	15.6	(6.7)	緑	緑	磁粒多	不明			不明	
227	0108	208	F-42K 2層	土師器	壺	20.5	(2.9)	緑	浅黄緑	磁粒、小磯、植土 塊	不明			不明	
228	C31	208	F-41K 2層	土師器	壺	11.4	(3.7)	浅黄	灰白	磁粒	ハタ			不明	
229	0147	208	F-41K 2層	土師器	壺	18.0	(4.1)	緑	緑	磁粒、小磯	ハタのちろ ナデ			不明	
230	C38	208	C-44K 2層	土師器	壺	15.1	(9.2)	浅黄	灰黄	磁粒多、赤黄色化 粒	不明			不明	
231	C35	208	F-41K 2層	土師器	蓋	20.2	(4.8)	黄緑	浅黄緑	磁粒	不明			不明	
232	0122	208	F-41K 2層	土師器	壺	23.4	(3.6)	緑	緑	磁粒	ロクロナデ、 ナデ			不明	
233	C68	208	F-41K 2層	土師器	壺		(5.5)	浅黄緑	浅黄緑	磁粒多	指圧直置き			不明	
234	C71	208	F-42K 2層	土師器	壺	(13.0)	(3.4)	緑	黄緑	磁粒多	不明			不明	
235	C36	208	F-42K 2層	土師器	壺	16.0	(7.0)	浅黄緑	浅黄緑	磁粒、赤黄色化 粒	ロクロナデ、 ナデ			不明	
238	C62	208	D-42K 2層	土師器	壺	17.0	(11.9)	灰	灰白	磁粒多	指圧直置き、 ハテ			不明	
237	C38	208	F-41K 2層	土師器	壺	14.4	(15.3)	緑	緑	磁粒多	不明			不明	
238	C72	208	F-42K 2層	土師器	蓋	11.8	(3.7)	緑	緑	磁粒少	不明			不明	

第6表 土器・陶磁器観察表6

観測 番号	年次	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調剤		遺存度	その他	
								内	外		内	外			
239	C64	2R	F-411C 2層	土師器	蓋	12.8	(13.8)	浅黄緑	黄緑	赤色酸化剤、細砂	不明	不明	口縁2/12	赤灰	
240	C31	2R	D-411C 2層	土師器	小型 壺	7.1	8.5	黄緑	黄緑	赤酸化剤、小礫、細砂	不明	不明	口縁2/12	外面一部に黒炭	
241	C39	2R	F-411C 2層	土師器	壺	17.3	(15.7)	灰白	浅黄緑	赤灰、赤色酸化	不明	不明	口縁1/12		
242	C62	2R	F-411C 2層	土師器	壺	21.1	(6.9)	灰白	浅黄緑	赤灰	不明	不明	口縁1/12		
243	C27	2R	C-451C 2層下層	土師器	高杯	16.0	(1.3)	浅黄緑	浅黄緑	細砂	不明	不明	口縁2/12		
244	C61	2R	F-411C 2層	土師器	高杯	15.7	(13.2)	浅黄緑	浅黄緑	小礫わずら	不明	不明	口縁2/12		
245	C36	2R	D-431C 2層	土師器	高杯	15.7	(1.0)	浅黄緑	灰白	赤灰、赤色酸化	不明	不明	口縁2/12	外面一部に黒炭	
246	C32	2R	D-441C 2層	土師器	高杯	17.2	(5.4)	黄緑	黄緑	赤灰、赤色酸化	不明	不明			
247	C39	2R	D-411C 2層	土師器	高杯		(12.1)	黄緑	黄緑	赤灰	不明	不明			
248	C13	2R	F-411C 2層	土師器	高杯	20.0	(7.2)	黄灰	黄灰	赤灰、粘土	不明	不明	口縁2/12	ゆがみあり	
249	C48	2R	D-431C 2層	土師器	高杯	11.6	(7.8)	明黄緑	浅黄緑	赤灰、炭、珪砂、小礫	不明	不明			
250	C06	2R	F-411C 2層	土師器	高杯	11.2	(8.2)	浅黄緑	黄緑	細砂	不明	不明	口縁1/12		
251	C53	2R	F-411C 2層	土師器	高杯	9.7	(5.9)	黄緑	黄緑	赤灰	不明	不明	口縁2/12		
252	C163	2R	C-441C 2層	土師器	高杯	12.8	(7.8)	黄緑	黄緑	赤灰、炭、黄土	不明	不明		口縁2層	
253	C47	2R	D-421C 2層中	土師器	高杯	16.8	(8.1)	浅黄緑	浅黄緑	赤灰、小礫、赤色酸化	不明	不明		三方透かし	
254	C156	2R	D-441C 2層	土師器	高杯		(8.1)	黄緑	黄緑	赤灰、小礫、黄土	不明	不明			
255	C76	2R	F-421C 2層	土師器	高杯	11.0	(6.4)	灰白	灰白	赤灰、赤色酸化	不明	不明			
256	C26	2R	C-441C 2層	土師器	高杯		(8.0)	黄緑	黄緑	小礫、細砂	不明	不明			
257	C147	2R	D-421C 2層	土師器	蓋	10.5	1.5	6.0	浅黄緑	浅黄緑	赤灰、小礫、黄土	不明	不明	口縁2/12、 底面定形	
258	C54	2R	F-411C 2層	土師器	蓋		(5.1)	浅黄	浅黄	細砂	不明	不明		指留土紐す 指跡あり	
259	C74	2R	F-421C 2層	土師器	器台	12.8	(8.1)	黄緑	黄緑	細砂	不明	不明	口縁2/12	三方透かし	
260	C131	2R	D-421C 2層	土師器	土牌	12.0				赤灰、小礫、黄土	不明	不明		指留土紐	
261	C75	2R	F-421C 黄褐色層上	土師器	壺	17.0	(8.2)	灰白	灰白	細砂	不明	不明	口縁2/12	口縁2層内	
262	C106	2R	F-421C 黄褐色層上	土師器	壺	11.3	(6.0)	浅黄緑	黄緑	細砂、白色粒、黄土	不明	不明	口縁2/12	外面に黒付着	
263	C76	2R	F-411C 新5.3層	土師器	壺	18.0	(8.1)	灰白	黄黄	赤灰	不明	不明	口縁2/12	内面に付着	
264	C77	2R	F-411C 新5.3層	土師器	壺	20.8	(6.8)	黄緑	黄緑	赤灰	不明	不明	口縁2/12		
265	C181	2R	F-391C 16層下層	土師器	壺	17.5	(9.9)	浅黄緑	黄緑	赤灰、小礫	ナゾ	不明	口縁2/12	小片	
266	C174	2R	F-391C 16層下層	土師器	壺	16.2	(1.3)	灰黄	黄緑	不明、ナゾ、指留土痕	不明	不明	口縁2/12		
267	C182	2R	F-391C 16層下層	赤土器	坏壺		(2.1)	灰	黄灰	赤灰	不明	不明		小片	
268	C164	2R	F-391C 16層下層	赤土器	坏壺	10.0	4.8	灰白	灰	赤灰、小礫	不明	不明	口縁2/12	蓋に焼き痕、黒炭、口縁ゆがみ	
269	C180	2R	F-391C 16層下層	赤土器	台付 坏壺	8.1	(3.2)	灰	灰	赤灰	不明	不明	口縁2/12	黒炭、ゆがみあり	
270	C189	2R	F-391C 16層下層	赤土器	瓶	25.7	(16.6)	灰白	灰白	赤灰	不明	不明			
271	C138	2R	F-401C 1層	赤土器	壺	16.0	(9.0)	灰白	灰白	赤灰	不明	不明	口縁1/12		
272	C175	2R	F-401C 1e~2層	土師器	壺		(5.1)	黄緑	黄緑	赤灰、赤色酸化	不明	不明		小片	
273	C134	2R	F-401C 1e~2層	土師器	蓋	10.8	(7.2)	浅黄	浅黄	赤灰	不明	不明	口縁2/12		
274	C30	2R	F-401C 1e~2層	土師器	蓋	19.0	(6.1)	黄緑	黄緑	赤灰、小礫、赤色酸化	不明	不明	口縁2/12		
275	C30	2R	F-401C 1e~2層	土師器	壺	17.8	(13.7)	浅黄緑	黄緑	赤灰、小礫、赤色酸化	不明	不明		小片	
276	C81	2R	F-401C 16層下	土師器	高杯	16.7				赤灰、小礫、赤色酸化	不明	不明		小片	
277	C82	2R	F-401C 16層下	土師器	高杯					赤灰、小礫、赤色酸化	不明	不明		小片	
278	C23	2R	F-401C 16層下	土師器	器台	11.2	(7.4)	浅黄緑	浅黄緑	不明	不明	口縁1/12	三方透かし		
279	C183	2R	F-401C 1e~2層	赤土器	高杯	14.4	(4.9)	灰	灰	赤灰	不明	不明		小片	
280	C178	2R	F-401C 1e~2層	赤土器	坏台 坏	4.8	(2.4)	灰白	灰白	赤灰、小礫	不明	不明	口縁2/12	黒炭、内面にゆがみ	
281	C177	2R	F-401C 1e~2層	赤土器	坏身	11.7	(3.2)	灰	灰	赤灰	不明	不明	口縁2/12	黒炭	
282	C176	2R	F-401C 1e~2層	赤土器	坏身	11.6	(3.3)	灰	灰	赤灰	不明	不明	口縁1/12		
283	C184	2R	F-401C 1e~2層	赤土器	坏口	(13.7)	10.3	1.5	灰	灰	赤灰	不明	不明		小片
284	C176	2R	F-391C 16層下層	赤土器	坏口		(17.8)	灰	灰	赤灰	不明	不明		小片	
285	C78	2R	F-401C 2層	土師器	蓋	7.7	8.0	黄緑	黄緑	赤灰、小礫	不明	不明	口縁1/12	外面黒炭	
286	C132	2R	F-411C 2層	土師器	蓋	10.1	(4.2)	黄緑	黄緑	細砂	不明	不明	口縁2/12		
287	C84	2R	F-401C 2層	土師器	蓋	20.3	(11.1)	黄緑	灰白	不明	不明	不明	口縁1/12		
288	C39	2R	F-411C 2層	土師器	蓋	13.8	(6.9)	浅黄	浅黄	赤灰	不明	不明	口縁1/12		
289	C79	2R	F-401C 2層	土師器	壺		(11.3)	黄緑	黄緑	赤灰	不明	不明		外面黒炭	

第7表 土器・陶磁器観察表7

観測 番号	年度	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調剤		遺存度	その他	
								内	外		内	外			
															内
296	C08	208	P-411K 2層	土師器	甕	18.3	16.7	黄緑	黄緑	砂粒多、小礫、赤色酸化剤少	不明	ココナデ			
291	D133	23K	P-411K 2層	土師器	甕		16.4	黄緑	黄緑	細砂多、砂粒少、赤色酸化剤	ケズリ	ハケ			
292	D106	208	P-411K 2層	土師器	甕	17.0	(17.7)	黄緑	黄緑	細砂多、砂粒少、小礫	ケズリ、ココナデ	ココナデ	口縁3/12		
293	D129	208	P-411K 2層	土師器	高坪 高坪の附台		16.9	黄緑	黄緑	細砂、砂粒少	ハケ	ヒガキ		3方透3/12	
294	C08	208	P-411K 2層	土師器	甕		12.6	(12.2)	黄緑	黄緑	砂粒、小礫、赤色酸化剤	ケズリ、不明	不明	底面D/12	内外面一部に黒痕
295	D130	208	P-411K 3層下段	土師器	甕	8.7	11.8	灰	黄緑	細砂、砂粒少、小礫、赤色酸化剤	ヒガキ、ナデ	ヒガキ	口縁完形、底面3/12	3方透3/12	
296	C09	22K	P-411K 3層	土師器	甕	13.4	(13)	黄緑	黄緑	砂粒多	ココナデ、ケズリ 後相に上るナデ	ココナデ、ハケ	小片		
297	C05	22K	P-411K 3層	土師器	甕	15.5	(11.8)	黄緑	黄緑	砂粒多 小礫	不明	不明	口縁9/12		
298	D128	22K	P-411K 3層	土師器	甕	15.0	(15.6)	黄緑	黄緑	細砂多、砂粒	不明	不明	口縁3/12	黒痕	
299	D107	22K	P-411K 3層	土師器	甕	22.8	(14.3)	黄緑	黄緑	砂粒多、赤色酸化	不明	不明	口縁1/12		
302	C107	208	G-390K 2層下 (埋灰シスト)	土師器	甕	18.0	(15.1)	黄緑	黄緑	砂粒、小礫多、赤色酸化剤	ココナデ、ナデ、 黒田山焼土	ココナデ、ナデ、ケズリ	口縁2/12		
303	C109	208	G-380K 3層下 (埋灰シスト)	土師器	高坪		18.0	黄緑	黄緑	砂粒、焼土塊	ナデ	ヒガキ		丸、上下二つで3方	
305	D143	22K	G-390K 1e層下	土師器	手捏 丸	6.4	5.7	灰黄	灰黄	細砂	指頭正煎、不明	指頭正煎、不明	口縁0/外 小、底部 完形	外面黒痕	
306	C108	22K	G-390K 1e層下	土師器	甕		2.6	(2.9)	黄緑	黄緑	砂粒、焼土塊少	ナデ、ケズリ	ハケ	底面完形	
307	D136	22K	G-390K 1e層下	土師器	甕	15.8	(15.1)	黄緑	黄緑	砂粒多	不明	ココナデ	口縁2/12	外面履付着	
308	D145	22K	G-390K 1e層下	土師器	甕	19.0	(15.7)	黄緑	黄緑	砂粒多	指頭正煎、ケズリ	指頭正煎、ハケ	口縁1/12	口縁外面に表上に粘土粒が貼付している	
309	C103	22K	G-390K 1e層下	土師器	鉢	29.1	16.3	黄緑	黄緑	砂粒、焼土塊	工具に上るナデ、ココナデ	工具に上るナデ、ココナデ、ハケ	口縁1/12		
310	C102	22K	G-390K 1e層下	土師器	甕	17.7	3.5	灰白	灰、赤	砂粒、透明粘土	ナデ、工具に上るナデ	ハケ	口縁1/12	器高 口縁幅(1.6cm) 胴部 最大径	
311	D144	22K	G-390K 1e層下	土師器	小形 甕	12.8	(8.7)	黄緑	黄緑	砂粒、黄緑	指頭正煎、ハケ	ココナデ	口縁3/12	内面黒痕	
312	C104	22K	G-390K 3層 (埋灰シスト)	土師器	高坪		14.2	黄緑	黄緑	砂粒、小礫、焼土塊	ナデ	ナデ	底面完形	4方透3/12	
314	D119	22K	G-390K 3層下位	縄文土器	鉢	28.2	(19.4)	黄緑	黄緑	砂粒、黒、透明粘土、 焼土塊	不明	赤黒	口縁2/12		
315	C101	22K	G-400K 1e層下	土師器	高坪	20.0	(15.3)	黄緑	黄緑	砂粒、透明粘土、 焼土塊	ココナデ、ナデ ケズリ	不明	口縁3/12		
316	D137	22K	G-400K 1e層下	黄赤土器	甕		16.0	灰	灰	砂粒	ココナデ	ココナデ、ケズリ、 ヒガキ、 黒田山焼土	底面完形	黄緑	
317	D138	22K	G-400K 1e層下	黄赤土器	甕	16.6	16.7	灰白	灰白	細砂多	ココナデ、 ヒガキ	ココナデ、 ヒガキ	口縁小片		
318	D108	22K	G-400K 1e層下	黄赤土器	坏身	12.5	(13.0)	灰	灰	細砂、赤色酸化剤	不明	不明	口縁1/12		
319	D109	22K	G-400K 1e層下	黄赤土器	甕	12.8	(12.6)	灰	灰	細砂	ココナデ、ナデ	ココナデ	口縁1/12		
320	D140	22K	G-400K 2層	土師器	高坪	12.0	10.6	黄緑	黄緑	細砂、赤色酸化剤	ヒガキ	ヒガキ、ハケ	口縁小片、 底部 A/12		
321	D141	22K	G-400K 2層	土師器	鉢		(16.2)	黒	黒	細砂、砂粒、赤色	不明	ヒガキ		内面	
322	C31	22K	G-400K 2層~3層 (埋灰シスト)	弥生土器	甕	21.9	(17.0)	灰白	黄緑	砂粒、小礫	ハケのちナデ	ココナデ、ハケ、口縁完形	口縁5/12	履付着	
323	C39	22K	G-400K 2層	土師器	甕	18.2	(19.6)	黄緑	黄緑	砂粒多、赤色酸化	ケズリ	不明	口縁3/12		
324	C35	22K	G-400K 2層下 (埋灰シスト)	土師器	甕	20.0	(17.5)	黄緑	黄緑	砂粒、小礫多	ハケ、ケズリ	ハケ	口縁3/12		
325	C106	22K	G-400K 2層	土師器	甕	17.6	(17.2)	黄緑	黄緑	砂粒多、小礫	ココナデ、ナデ	ココナデ、ハケ	口縁2/12		
326	C36	22K	B-400K 2層下 (埋灰シスト)	土師器	甕		(15.6)	黄緑	黄緑	砂粒多、小礫	ココナデ、ケズリ	ココナデ、ハケのちナデ、 黒田山焼土			
327	C112	22K	G-400K 2層下 (埋灰シスト)	土師器	甕	20.4	(14.5)			砂粒、透明粘土、 焼土塊	ナデ、ケズリ	ココナデ	口縁	外面履付着	
328	C38	22K	G-400K 2層下 (埋灰シスト)	土師器	甕(小形)	13.7	4.3	黄緑	黄緑	砂粒多、小礫	ハケ、指頭に上るナデ	ハケのちナデ、ハケのち指頭おさえ	口縁 9/12、底 部完形		
329	C34	22K	G-400K 2層下 (埋灰シスト)	土師器	土製品			黄緑	黄緑	砂粒	ヒガキ	ヒガキ	口縁10/12	最大径8.5cm 最大幅11.8cm 最大厚3.7cm、外面一部に 黒痕 貝殻状の形跡を呈する	
330	D126	22K	G-400K 2層下 (埋灰シスト)	土師器	甕	9.3	3.0	黄緑	黄緑	砂粒、小礫、赤色酸化剤	ココナデ	ココナデ、ハケ	口縁10/12	底面完形	
331	D196	22K	G-400K 2層下	土師器	甕	16.8	(15.0)	黄緑	黄緑	砂粒多、赤色酸化剤	ココナデ、ケズリ	ココナデ	口縁2/12	外面履付着	
332	C92	22K	G-400K 2~3層	縄文土器	深鉢	27.9	(19)	黄緑	黄緑	砂粒	ナデ	ナデのち黒田山焼土	小片		
333	D118	22K	G-400K 2~3層	縄文土器	深鉢		(16.3)	黄緑	灰	砂粒	ナデ	縄文、黒田山焼土		編織土層式第2次型	
334	D142	22K	G-400K 2~3層	土師器	有孔 甕		5.4	(4.7)	黄緑	明黄緑	細砂、砂粒	指頭正煎、ハケ	底部	底部に孔あり	
335	C106	22K	G-400K 2~3層上 面	土師器	甕	20.8	(16.1)	黄緑	黄緑	砂粒、小礫、焼土塊	ココナデ、ケズリ	ココナデ、ハケ	口縁7/12		

第8表 土器・陶磁器観察表8

観測 番号	年度	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調剤		遺存度	その他		
								内	外		内	外				
337	C03	2区	G-40区 3層土層	養生土器	壺	29.6	(7.8)	浅黄緑	灰黄	砂粒、小礫	ヒガキ、赤土	コナダ、ハケ、ハク、格子文、内部刺突文、内部浮文、横砂文	口縁1/12			
338	D111	2区	G-40区 3~4層か	縄文土器	壺		10.5	(1.6)	灰黄緑	灰黄	砂粒、透明粒子	ナダ	縄文、網代	底部1/12		
339	D109	2区	G-40区 3~4層か	養生土器	直口鉢	20.0		(1.5)	黄緑	黄緑	砂粒、透明粒子、赤色酸化粒	ナダ、ハケ、ハク、ナダ、ハケ	格子文、ナダ、ハケ	口縁1/12		
339	C165	2区	G-40区 3層	土師器	壺	19.0	(24.1)	灰黄	灰黄緑	砂粒多、小礫、赤色酸化粒	ケズリ	コナダ、ハケ	口縁	外面覆付着		
341	C111	2区	G-40区 3~4層か	土師器	高杯	20.8		(10.6)	浅黄緑	浅黄緑、黄緑	砂粒、小礫、ナダ、ハケ	不明	不明	口縁1/12	ゆがみあり	
343	D191	2区	G-40区 3~4層か	養生土器	深鉢	26.0		(3.3)	灰白	灰白	砂粒、透明粒子	ナダ	半蔵竹管	口縁1/12		
344	D107	2区	G-41区	土師器	深鉢	17.4		(6.0)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒、小礫、赤色酸化粒	工具によるナダ、ハケ	コナダ、ハケ	口縁1/12		
345	C97	2区	G-40区 土層へ6~7層	土師器	鉢	38.0			緑	緑	砂粒、小礫多	ハケのちナダ、ケズリのちナダ	コナダ、ハケ	口縁5/12	器高 口縁部10.0cm 胴部18.8cm	
346	D112	2区	H-30区 駒ヶ原01e~2層か	縄文土器	鉢			(5.1)	灰黄緑	灰黄緑	砂粒、小礫	ナダ	ナダ、縄文、半蔵竹管	口縁1/12		
347	C4	2区	1区 A層面2~3層	土師器	壺			(6.1)	浅黄緑	浅黄緑	細砂少	不明	不明	不明		
348	C43	2区	1区 A層面2~3層	養生土器	壺			(9.3)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	不明	不明	不明		
350	C24	2区	1区 排水溝	土師器	直	11.6		(8.6)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒、礫	ハケ	不明	口縁1/12		
351	D162	2区	1区 排水溝	土師器	直	9.0		1.4	9.6	灰白	浅黄緑	砂粒、小礫、粘土	不明	不明	口縁1/12	
352	D163	2区	1区 2層土層	土師器	壺			1.5	(6.1)	灰白	灰白	砂粒	指組正組	ナダ	底部完全	ゆがみあり
353	C36	2区	1区 2層土層	土師器	壺	20.6			(3.7)	緑	緑	砂粒多	不明	不明	口縁2/12	内外面に黒塗
354	C45	2区	1区 2層土層	土師器	壺			(5.5)	黄緑	黄緑	砂粒多	ハケのち、ナダ、ケズリ	コナダ、ハケ	口縁		
356	C96	2区	2区 G-40区2層	養生土器	壺	19.1		(1.4)	灰白	暗黄	砂粒、小礫	ナダ	ヒガキ	口縁1/12	蓋状口縁	
357	C41	2区	2区 1e層下	土師器	壺			(7.7)	灰白	灰白	砂粒	指によるナダ	不明	不明	胴部のみ	6/12
358	D146	2区	2区 1b~2層	煮土器	蓋	10.9		(1.6)	灰	灰	砂粒、白色粒	コナダ、コナダ、回転へナダ式	コナダ、回転へナダ式	口縁1/12	ゆがみあり	
359	D140	2区	2区 3層(1層砂土層)	煮土器	杯身	1.9		(1.9)	灰白	灰白	砂粒、白色粒	コナダ	コナダ、回転へナダ式	口縁1/12		
360	C03	2区	2区 2層か	養生土器	高直型土器			(3.1)	灰白	灰白	砂粒	右側突蓋	ナダ	小片		
361	D149	2区	2区 3層(1層砂土層)	土師器	壺	15.0		(7.2)	灰黄緑	灰黄緑	砂粒、焼土塊	コナダ、ハケ	不明	口縁1/12		
362	C35	2区	2区 2層土層	土師器	壺	17.0		(6.8)	灰白	灰白	赤色酸化粒、砂粒	不明	不明	口縁2/12		
363	D185	2区	41区 3層上位	土師器	壺	(36.6)		(5.5)	黄緑	黄緑	砂粒多	ケズリ	指組正組	口縁1/12		
364	C46	2区	3層か(1層砂土層)	土師器	壺	16.3		(28.0)	灰白	黄緑	砂粒多、小礫、赤色酸化粒	コナダ、ハケ、ケズリ	コナダ、ハケ	口縁1/12		
365	D21	2区	4区排水溝	土師器	直	8.0		7.3	灰白	灰白	粗砂定 6mm位の礫、焼土塊含む	コナダナダ	コナダナダ	口縁1/12		
366	D12	2区	G-30区 3層上位 黒色砂~シノト	土師器	壺	4.5		(5.3)	灰黄~黄緑	浅黄緑	1~2mm砂粒多く含む	不明	不明	底部	12/12	
367	D213	2区	G41-29 3層下位	縄文土器	深鉢			6.0	灰黄緑	黄緑	粗砂定	ナダ	浮線、ナダ			
368	D125	2区	2区 表段	甍付	碗			4.5	(2.9)						輪:透明 均一にぬれるが、底部は均一でない 気泡あり、貫入あり	
369	D124	2区	鉢土中	甍付	皿			(2.7)							輪:内外面ナリフ灰 均一にぬれる 白濁している 気泡あり、貫入あり 軸地:オリーブ灰	
370	D126	2区	4区 屋下層瓦土	陶胎染付	碗	4.4		(5.0)							底部0/12	
371	D116	2区	4区 瓦割南側下層包合層	養生土器	壺	10.0		(7.0)	灰白、緑	浅黄緑	砂粒多、小礫、透明粒子、赤色酸化粒	ナダ	赤黄?	底部1/12		
372	D123	2区	4区 鉢土中	煮土器	直	16.6		(1.5)	灰	暗黄緑	砂粒、白色粒、透明粒子	コナダ、コナダ、回転へナダ	コナダ、コナダ、回転へナダ	口縁1/12		
382	D130	3区	B-36区 P2220	縄文土器	深鉢口縁			(10.3)	黒緑	浅黄緑	砂粒多 海南骨針	ナダ	ナダ	口縁部小片		
383	D131	3区	B-42区 P2212	縄文土器	深鉢口縁			7.0	(3.9)	黄緑	緑	砂粒多 海南骨針	ナダ	ナダ 不明	底部完全	
384	D132	3区	G-40区 P2135	縄文土器	鉢 直型	10.2		(1.6)	灰黄	暗黄緑	砂粒多、長石	ナダ	不明	底部2/12		
385	C114	3区	B-46区 SX2201	養生土器	小型壺	11.15		(1.0)	緑	緑	砂粒多、礫少	陶胎製	口縁2/12			
386	C115	3区	B-46区 SX2201	養生土器	壺			(3.9)	緑	緑	砂粒多 礫少 シヤークット	陶胎製	口縁2/12			
387	C113	3区	B-46区 SX2201	土師器	壺	11.5		(17.05)	浅黄	浅黄緑	砂粒多 礫不定多	不明	不明	口縁0/12		
388	D138	3区	B-46区 SX2201	土師器	壺 口縁	17.1		(5.5)	灰白	灰白	砂粒多	ナダ ケズリ	ハケ ナダ	口縁1/12		
389	C116	3区	B-46区 SX2202	養生土器	高杯	28.75		(7.0)	赤	赤	砂粒多、礫多 シヤークット	コナダ、コナダ	ハケ コナダ	口縁部		
390	C117	3区	B-41区 SX2014	土師器	浅鉢	32.4		6.75)	浅黄	浅黄	砂粒多、礫多 海南骨針	ナダ	浅緑 ナダ	小片		
391	D140	3区	B-41区 SX2014	土師器	蓋 直型	5.2		8.0)	灰黄緑	黄緑	砂粒多、海南骨針	ナダ	ナダ ハケ	底部2/12		
392	D141	3区	B-41区 SX2014	縄文土器	浅鉢口縁	21.3		(6.6)	灰黄緑	浅黄緑	砂粒多	ナダ	ナダ			
393	D142	3区	B-41区 SX2014	縄文土器	浅鉢口縁			(1.6)	黄緑	浅黄緑	砂粒多	ナダ	ナダ			

第9表 土器・陶磁器観察表9

検出 番号	年次	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調剤		遺存度	その他	
								内	外		内	外			
364	0130	308	F-41K 3N2014	縄文土器	壺		20.6	(6.6)	灰黄緑	灰黄緑	砂粒多	ヒガキ	ヒガキ	口縁2/12	
365	C118	308	F-47K 3層	弥生土器	壺 口縁		20.2	(7.3)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多, 雑多	不明	ナデ ハケ	口縁2/12 以下	
366	C118	308	F-46K 3層	弥生土器	壺		17.2	(7.7)	灰黄・橙	橙	砂粒多	ヨコナダ	ヨコナダ ハケ ケズリ	口縁2/12	接合痕
367	0145	308	F-44K 3層	土師器	小型 鉢		8.7	(5.4)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	ヨコナダ	不明	口縁2/12	底面
368	0147	308	F-46K 3層	土師器	壺		19.8	(6.0)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多, 雑多 シヤーマット	ナデ ケズリ	ナデ	口縁1/12	
369	0148	308	F-46K 3層	土師器	壺		16.6	(6.33)	浅黄緑	灰黄緑	砂粒多, 雑多 シヤーマット 海綿 骨針	ハケ ケズリ	ナデ	小片	
809	0168	308	F-40K 3層	縄文土器	鉢 底辺部		9.5	(3.2)	橙	赤	砂粒多	不明	板状圧痕	底面 12/12	
801	0172	308	F-42K 3層	縄文土器	深鉢		16.4		浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	ナデ			
802	0174	308	F-42K 3層	縄文土器	鉢			(5.1)			砂粒多	ハケ	赤黒		
803	0175	308	F-42K 3層 (黄緑シムト)	縄文土器	鉢		8.2	(5.0)	浅黄緑	灰黄緑	砂粒多, 雑多	ナデ	ナデ 赤黒	底面11/12 先形	
804	0176	308	F-42K 3層 (黄緑シムト)	縄文土器	鉢 胴部		16.7		浅黄緑	浅黄緑	砂粒多, 雑多 赤色粒 海綿骨針	ナデ	ナデ	胴部小片	
805	0143	308	D-41K 4層	縄文土器	深鉢		13.1		灰白	浅黄緑	砂粒多, 石灰少	ナデ	ナデ		
806	0144	308	D-44K 4層 (灰土)	縄文土器	深鉢 口縁		15.0		浅黄緑	灰白	砂粒多	ナデ			
807	0146	308	F-46K 4層 (灰土)	新石器	有台 坪		7.4	(3.1)	灰白	灰白	砂粒多, 石灰多	ロクロナデ	ロクロナデ	底面1/12	
808	01	308	F-42K 4層 (灰土) No.1	縄文土器	深鉢		16.5		黄緑	浅黄緑	砂粒多	ナデ	沈泥		
809	0166	308	G-39K 4層 (灰土)	縄文土器	鉢		10.4	(3.8)	灰黄	浅黄緑	砂粒多	ナデ	縄文 ナデ	底面 胴状圧痕	
410	0156	308	F-36K 4層 (灰土)	縄文土器	底辺部		5.6	(2.5)	灰黄	灰黄	細砂多	ナデ	ナデ 指痕 圧痕	底面8/12	
411	013	308	F-42K 4層	弥生土器	鉢		3.5	(7.1)	淡黄	艶灰	砂粒多 海綿骨針	ナデ	縄文	底面完形	
412	0187	308	F-42K 4層 (灰土)	縄文土器	鉢		20.0	(7.9)	黒褐色	浅黄	砂粒多, 雑多	ナデ	無文	口縁3/12	
413	0169	308	F-36K 4層 (灰土)	縄文土器	深鉢		15.5		浅黄緑	黄灰	砂粒少	ナデ			
414	01	308	G-41K 4層 (灰土)	縄文土器	深鉢		12.6		灰黄緑	灰黄緑	砂粒多	ナデ	無文		
415	0164	308	G-39K 4層 (灰土)	縄文土器	深鉢		11.6		灰黄緑	灰黄緑	砂粒多	ナデ	縄文		穿孔
416	0165	308	G-39K 4層 (灰土)	縄文土器	深鉢		16.9		灰黄	灰黄	石灰多	ナデ	縄文		底見3/4
417	0172	308	F-44K 斜面	縄文土器	深鉢		17.3		浅黄	浅黄	砂粒多	ナデ	赤黒		
418	0171	308	F-44K 斜面	新石器	蓋		4.8	1.6						口縁2/12	重畳 磨戸
419	0169	308	G-41K (竹皮) 斜面	縄文土器	深鉢		13.9		浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	ナデ	縄文		
420	0161	308	G-41K (竹皮) 斜面	縄文土器	鉢		15.7		艶灰	艶灰	砂粒少	ナデ	縄文		
421	C121	308	F-42K 斜面下部 集中	弥生土器	壺		11.9		浅緑	浅黄緑	砂粒多	ナデ ケズリ	ハケ	胴部4/12	口縁端面欠損
422	0162	308	G-41K 露土(塋地)	縄文土器	浅鉢		13.5		灰白	灰白	砂粒多	ナデ			
423	0163	308	G-41K 露土(塋地)	縄文土器	深鉢		15.2		浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	ナデ			
424	0177	308	F-40K セクション6層	縄文土器	鉢 胴部		18.95		灰黄	灰黄	砂粒少 細砂	ナデ	赤黒	胴部 小片	
425	0151	308	F-40K セクション5層	縄文土器	深鉢		15.55		灰白	灰白	砂粒少 雑多	ナデ	ハケ		
426	0152	308	F-40K セクション5層	縄文土器	深鉢		14.7		灰黄	灰黄	砂粒多	ナデ			
427	0153	308	F-40K セクション4層	土師器	鉢		15.6	(4.9)	浅黄	浅黄	砂粒多, 雑多	ナデ	ナデ	口縁2/12	
428	0154	308	F-40K セクション4層	土師器	壺		17.2	(7.5)	淡黄	淡黄	砂粒多	ナデ ケズリ	ナデ	口縁3/12	
429	0155	308	F-40K セクション4層	土師器	小型 鉢		10.7	(6.1)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	ナデ	ハケ		
430	0156	308	F-40K セクション2層	弥生土器	壺		17.0	(4.2)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多	ヨコナダ	ヨコナダ	口縁4/12	
431	0157	308	F-40K セクション2層	土師器	壺		33.1	(6.9)	淡黄	灰黄	砂粒多, 雑多	ナデ ハケ	ナデ ハケ	口縁1/12	
432	C120	308	F-40K セクション2層	土師器	壺		14.2	(15.5)	浅黄緑	浅黄緑	砂粒多, 雑少 シヤーマット	ハケ ナデ	ナデ ケズリ	口縁先形	
433	0158	308	F-40K セクション2層	土師器	扁平		4.2	(5.1)	淡黄	灰白	砂粒多	ナデ	ナデ		
434	0159	308	F-40K セクション1層	新石器	坪		11.9	(2.5)	灰白	灰白	砂粒少	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁1/12	
435	01	308	F-41K 新石器	縄文土器	浅鉢		18.5		黄緑	浅黄	砂粒多	ナデ	ナデ	口縁 2/12	
436	0169	308	F-41K 新石器 No.1	縄文土器	深鉢		16.5		黒褐色	艶灰	砂粒多	ナデ ハケ	無文		
437	0170	308	F-41K 新石器 No.1	縄文土器	深鉢 口縁		29.2	(3.2)	灰黄	黄緑	砂粒多	ロクロナデ	ロクロナデ		
438	C122	308	G-41K 新石器 (塋地層)	弥生土器	器台 胴部		14.3	(16.15)	灰白	浅黄緑	砂粒多, 雑多 赤色粒多	ケズリ ヒガキ	ヒガキ ナデ 沈泥	口縁3/12	

第10表 石器観察表

報告番号	実測番号	年代	出土地点	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
45	石器4	1次	表層 No.197	石器	磨製石斧	6.3	3.5	0.8	29.5	統紋岩	有溝石跡への転用か
46	石器2	1次	表土 60 ~ 67 No.192	石器	磨製石斧	6.7	5.8	2.6	163	統紋岩	
47	石器3	1次	第1トレ 東辺部 青灰砂粒中層 No.22	石器	滑石製有孔円盤	3.0	3.0	4.0	6.0	滑石	模造品
48	石器1	1次	第2トレ 32区 鏡下層 No.39	石器	有溝砥石	109	104	4.3	269	楕円砂岩	
60	石器7	1次	第3トレ 58区 下層 No.67	石器	石鏃	3.5	3.1	0.9	7.6	玉髄	
61	石器6	1次	第3トレ 60区 下層 No.69	石器	磨製石斧	4.2	2.7	1.0	16.0	統紋岩	
72	石器27	1次	第4トレ 2号土器跡まり No.2、No.93	石器	石核	8.6	9.0	4.1	416	不明	チャートか
88	石器8	1次	第4トレ 1溝	石器	打製石斧	139	5.5	1.9	207	凝灰岩か	
109	石器5	1次	第4トレ 西溝 粗粒粘土層 下の砂層 (種文層) No.169	石器	磨製石斧	7.6	4.4	2.3	118.3	黒色頁岩	
181	石器21	2次	E-10区 2層	石器	磨石類	9.8	7.6	5.0	571	砂岩	前面・最表層あり
182	石器9	2次	G-3区 2層	石器	打製石斧	159	9.8	2.4	360	角礫凝灰岩	
183	石器15	2次	G-4区 SK2041	石器	行火の蓋	(130)	15.6	3.7	540	凝灰岩	O型、シャクタニ石
189	石器10	2次	F-41区 SD20254	石器	打製石斧	15.7	13.4	4.7	1054	花崗岩か	
203	石器28	2次	F-40区 SD2044	石器	磨石類	8.3	7.3	4.2	365	不明	前面・最表層あり
222	石器25	2次	F-41区 F2022	石器	管玉	2.8	0.8	0.7	1.9	緑色凝灰岩	
272	石器18	2次	F-40区 1層	石器	打製石斧未製品か	11.2	18.4	3.3	506	凝灰岩	
300	石器29	2次	F-41区 3層下位	石器	打製石斧	7.7	5.8	2.3	136	流紋岩か	縦跡見られる
301	石器19	2次	F-41区 3層下位	石器	磨石類	14.2	9.5	7.7	1436	不明	前面あるか
304	石器12	2次	G-38区 断ち割り	石器	横溝型石器	9.5	13.7	1.2	135	安山岩	
313	石器23	2次	G-39区 3層 (暗灰シルト)	石器	両極面磨削片	7.4	3.2	1.9	17.1	凝灰岩	
336	石器22	2次	G-40区 3層上面	石器	磨石類	8.2	8.3	6.6	506	安山岩	縦打痕顕著
342	石器13	2次	G-40区 3~4層	石器	すり石?	14.8	5.8	2.6	321	凝灰岩	
349	石器11	2次	1区 A 断面 2~3層	石器	打製石斧	194	15.1	5.5	1781	凝灰岩	
355	石器14	2次	2区 SK2009 焼石	石器	石棒	5.9	2.1	1.0	14.9	黒色頁岩	
373	石器26	2次	2区 挿土	石器	二次加工のある 削片	9.4	7.2	1.3	80.8	安山岩	(リタツナドフレイク)
374	石器17	2次	1・2区 挿土	石器	石鏃	2.6	2.9	0.5	2.8	安山岩	
375	石器16	2次	3層	石器	磨製石斧	6.9	4.1	1.5	59.9	統紋岩	
376	石器24	2次	2区 3層	石器	石鏃	6.3	6.0	1.5	74.7	砂岩	
377	石器20	2次	出土地点不明	石器	磨石類	7.1	6.6	5.7	353	安山岩か	最表層あり
378	石器30	2次	出土地点不明	石器	石鏃	6.0	5.5	1.8	71.1	凝灰岩か	
439	石器50	3次	H-38区 4層 (流土)	石器	縦打石	10.55	6.55	4.95	457.5	安山岩か	
440	石器46	3次	H-38区 4層 (流土)	石器	石鏃	7.7	5.4	1.85	80.7	凝灰岩	
441	石器48	3次	G-39区 4層 (流土)	石器	縦打石	9.2	7.9	3.6	54.9	安山岩	
442	石器58	3次	H-42区 3層	石器	打製石斧	136	5.2	2.3	1704	流紋岩	
443	石器53	3次	H-41区 4層 (流土)	石器	削片	27.5	21.5	6.6	216	凝灰岩	同化面灰色 軟質
444	石器36	3次	F-41区 SD2204	石器	石刃	64.7	27.8	11.8	300.0	頁岩又は 凝灰岩	硬質 同化面灰白色 背面 研着 微細縦溝痕 黒色 粘土含む 断面調整みられる
445	石器55	3次	H-40区 8層 (流土)	石器	打製石斧	11.8	10.15	3.15	421.1	角礫凝灰岩	
446	石器39	3次	F-41区 SD2014	石器	両極面磨削片	3.9	3.1	2.4	4.9	凝灰岩	

第11表 金属製品観察表

報告番号	実測番号	年代	出土地点	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	
379	金属1	2次	2区 2層か	耳環(銅)	27	27	0.7	12.9			
380	銅銭1	2次	F-40区 1b層	銭貨	流式通貨	2.3	2.3	0.2	0.9		孔径 0.6cm。磨化著しい
381	銅銭2	2次	4区 南端表層	銭貨	寛永通貨(文銭)	2.5	2.6	0.2	3.6		孔径 0.6cm



遺跡の垂直空中写真（上が北）



遺跡近景 (南から)



三木の集落より調査区を望む (東から)



調査着手前（北から）



表土掘削の様子



第1次調査完掘状況（北から）



遺物出土状況（北から）



第1次調査完掘状況（北から）



第1次調査完掘状況（南から）



第 2 次調査 4 区完掘状況 (上が南)



4区北端 (F1・F2区) SX2401、SX2402 土器断片検出状況



4区北壁土層断面 (4.1-4.2断面 南か5)



4 区遺構検出状況 (北から)



4 区調査の様子



4区完掘状況（南から）



4区完掘状況（北から）



4 区発掘状況 (南から)



SK2403 (H12 区) 土層断面



4区土層断面 (4_5-4_6 断面 北から)



4区 SD2405 周辺土層断面 (4_11-4_12 断面 南から)



3 区調査状況



3 区道構検出状況



第2次調査1・2区完掘状況（上が南）



1・2 区 (1 面目) 遺構検出状況



1・2 区 (1 面目) 遺構検出状況



1・2区（1面目）完掘状況（北から）



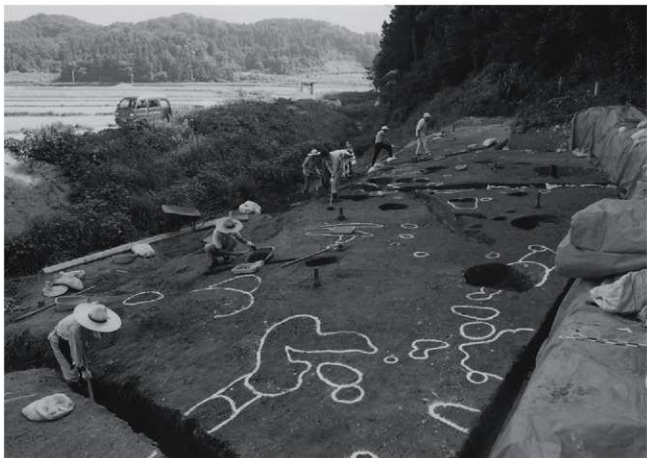
1・2区（1面目）完掘状況（南から）



1-2 区 (1 画面) 完掘状況 (D45 区周辺)



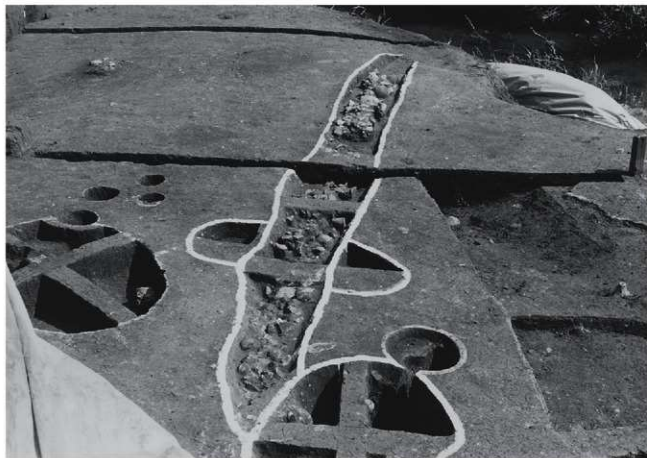
SK2002 (C45 区)



1・2区（2面目）遺構検出の様子（北から）



SD2028（D43区）土器出土状況



SD2022 (E41 区) 土器出土状況



SD2022 土器出土状況



SD2022 調査状況



1・2区(2面目)完掘状況(北から)



1・2区(2面目)完掘状況(南から)



1-2 区 (3 画目) 完掘状況 (北から)



SD2020 (C46 区) 完掘状況 (北から)



第3次調査完掘状況（北から）



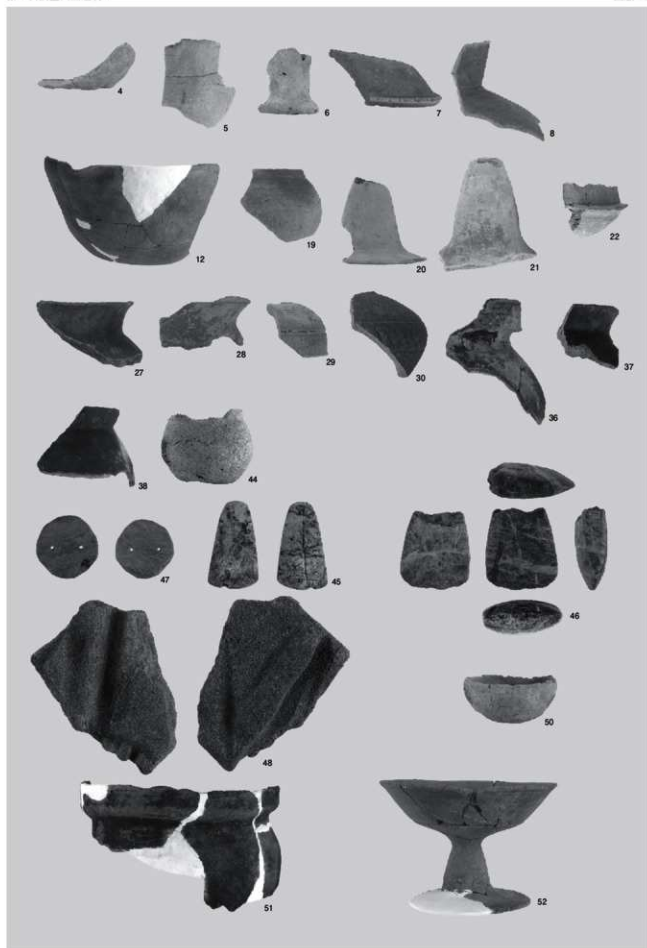
第3次調査完掘状況（南から）

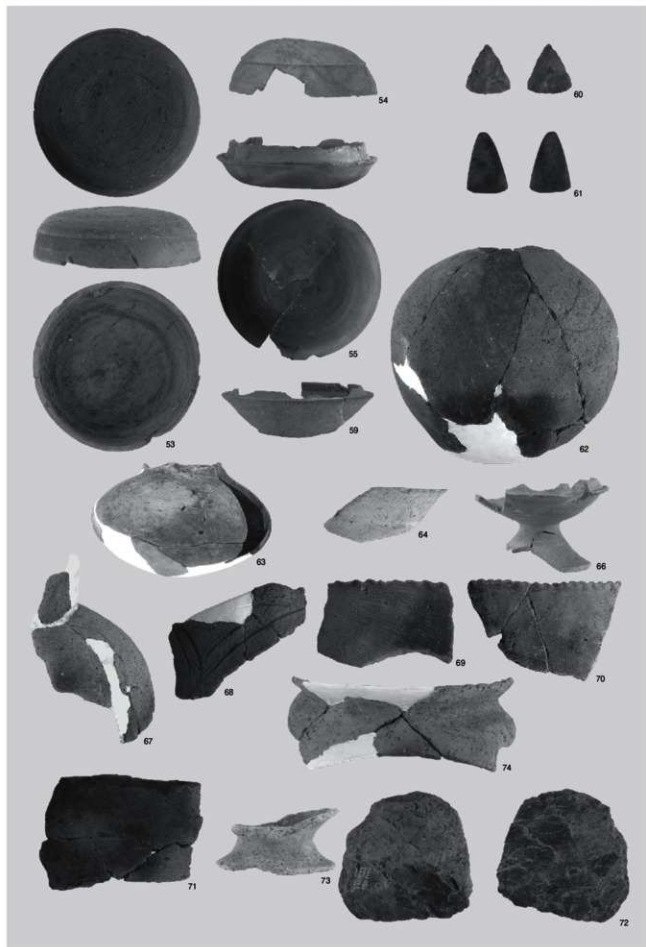


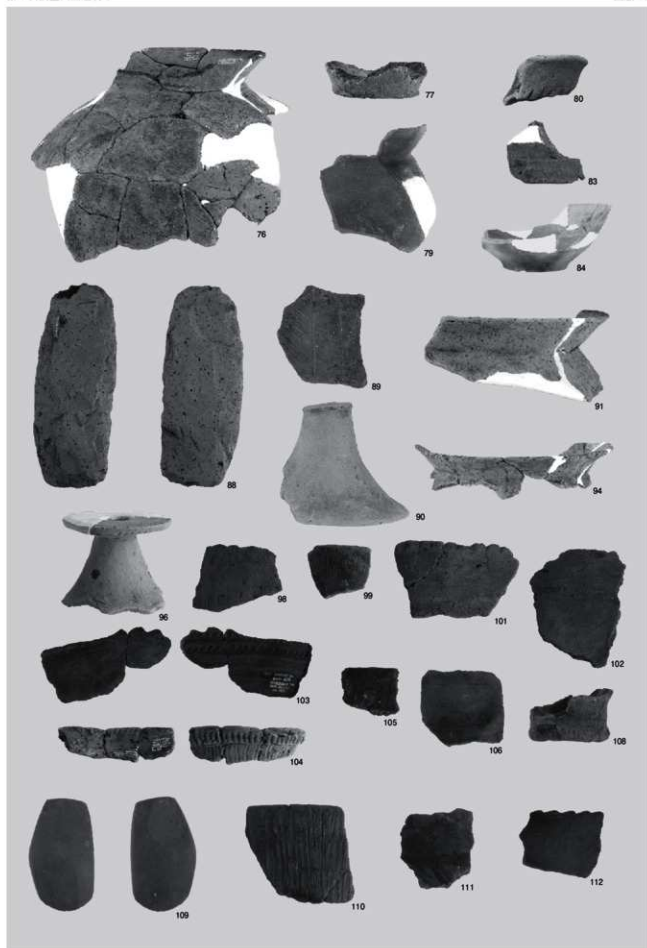
第 3 次調査完掘状況（北から）

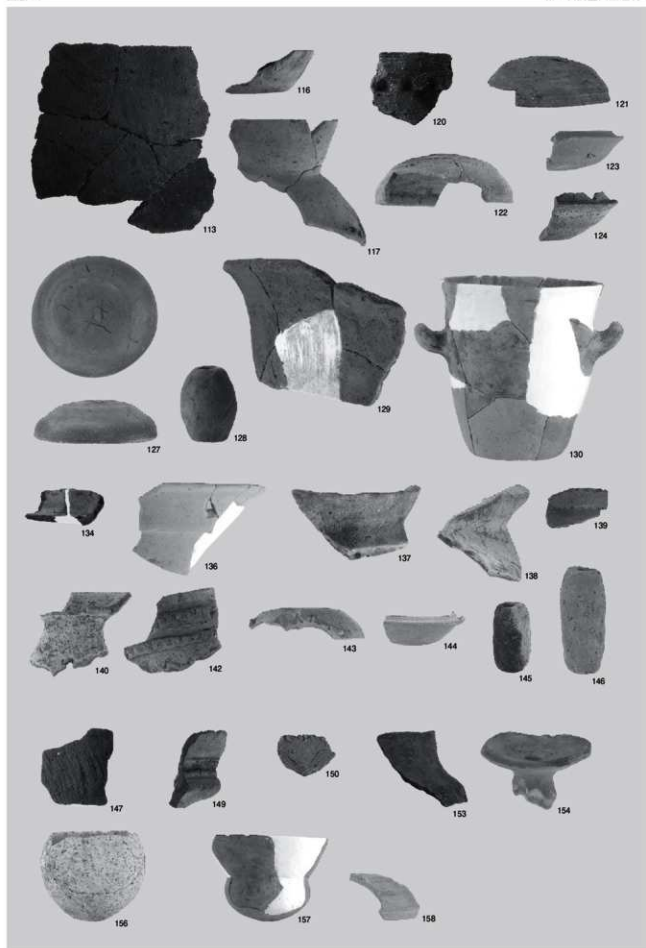


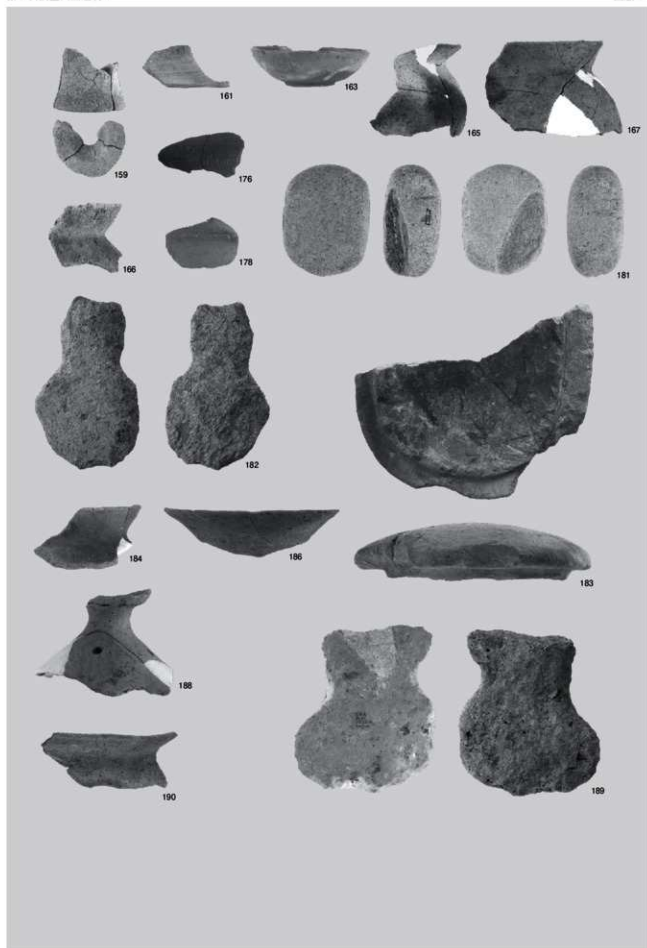
SD2204 完掘状況（北から）

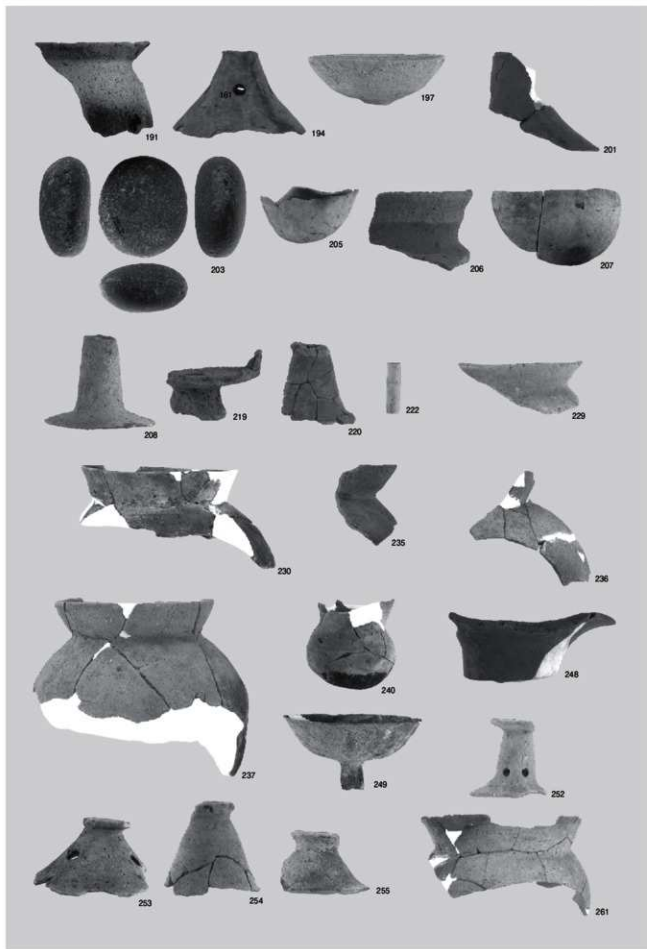


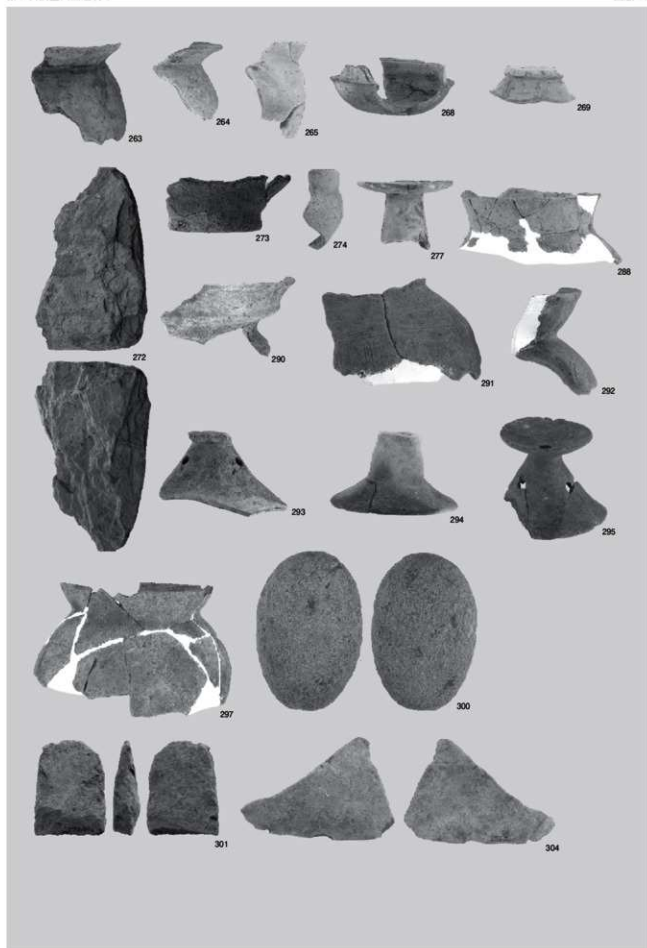


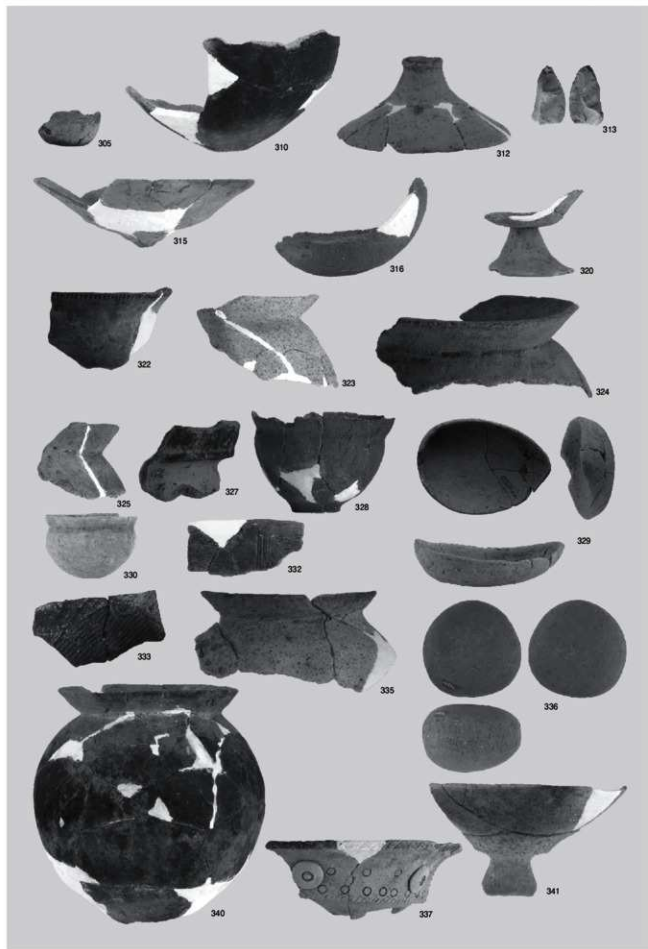


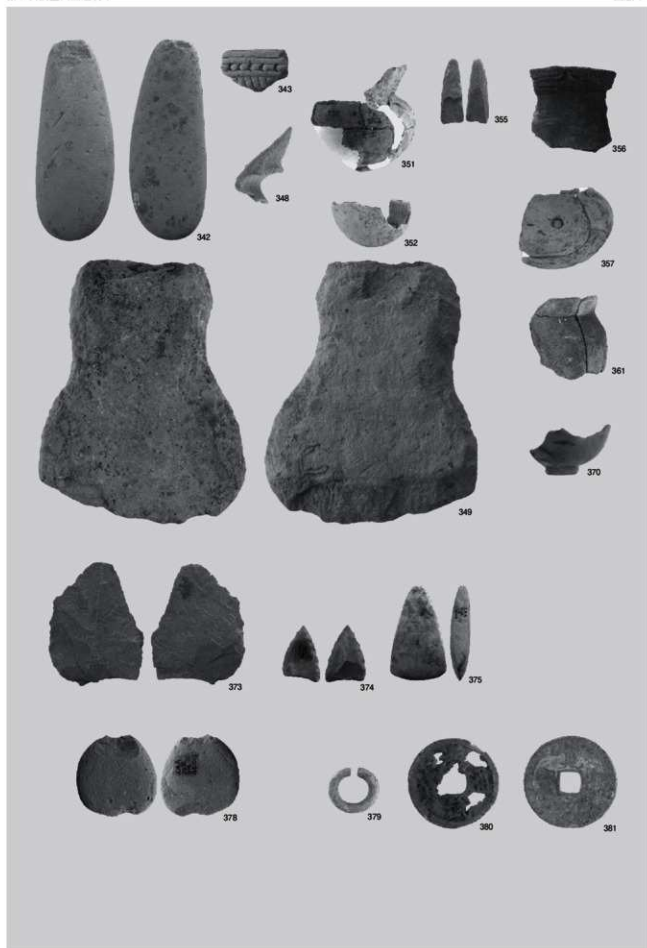


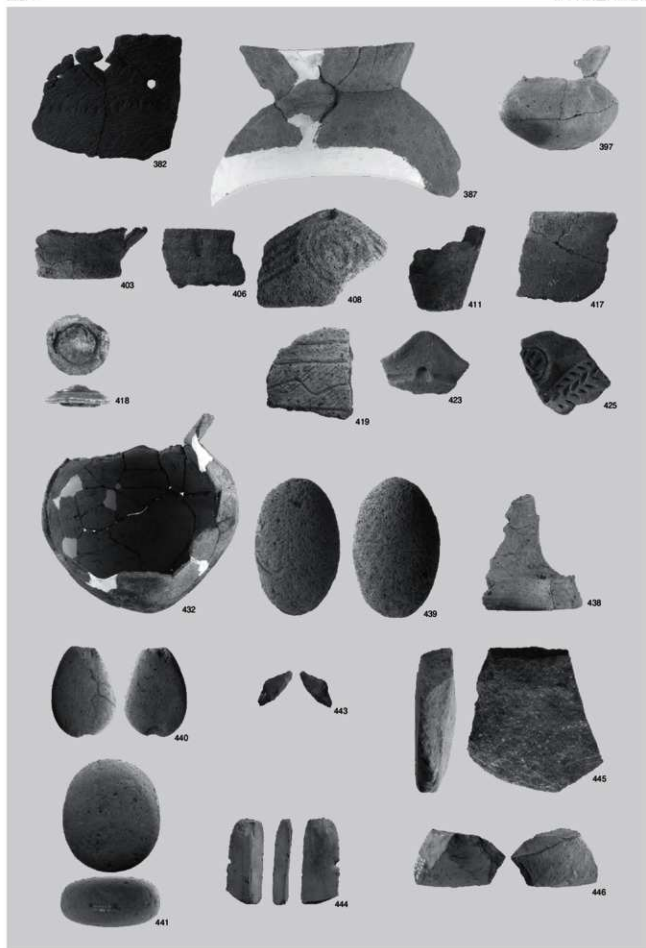












ふりがな	かがし みきAいせき							
書名	加賀市 三木A遺跡							
副書名	河川局部改良事業二級河川奥の谷川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	垣内光次郎、端 猛、加藤克郎							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2009年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	(新)	(新)			
三木A遺跡	石川県 加賀市 三木町	17206	06011	36度 17分 44秒	136度 16分 50秒	19860515～ 19860924 19940701～ 19941107 19950731～ 19950913	700㎡ 800㎡ 400㎡	河川局部 改良事業 二級河川 奥の谷川
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
三木A遺跡	集落跡	旧石器時代、 縄文時代、 弥生時代、 古墳時代、 古代、中 世、近世	柱穴、土坑、 溝、畝溝状遺構	縄文土器、弥生土 器、土師器、須恵器、 製塩土器、陶磁器、 石鏃、磨製石斧、 管玉、滑石製模造 品、耳環、銭貨				
要約	<p>遺跡は大型寺川支流である奥の谷川の下流域、加賀市三木町地内の丘陵裾部に所在する。第1面（古代～中世）、第2面（古墳時代）、第3面（弥生時代）の3つの遺構面を確認した。最下層では縄文土器を含む層を確認したが、明確な遺構面は存在せず、丘陵上からの流れ込みの遺物と推定される。</p> <p>とりわけ10～12世紀代とみられる製塩土器の大量出土については注目されるが、炬跡などの煎熬作業に関する遺構は確認していない。「PDF」あり。</p>							

加賀市 三木A遺跡遺跡

発行日 平成21（2009）年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電話 076-225-1842（文化財課）

財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-mabun.or.jp

印刷 福川印刷株式会社

〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地